

作る・書く・直す PDF バイブル

「印刷して手書き」は
もう時代遅れ!!

必ず使える、必ずわかる

**PDF作成、文字入力、修正が
フリーソフトで手早く完了**

- あらゆる文書をPDFに！ **結合・分割も自在**
- 誤字脱字・写真の**修正も簡単！**
- メモ書きや打消し線で**他人の文書を添削**
- PDFの申請書に**文字を直接入力！**
- 本棚を**まるごとデジタル化**



定価
880円
(税込)

まだ印刷して手書きですか？

PDFに文字を入力できると、書類のやり取りがグンと効率的に



パソコンで直接PDFに文字入力できれば便利なのに……。こう思ったことのある人は、ぜひこの特集をご覧ください。

今や、市役所の申請書や発注書、商品の案内、説明書など、ありとあらゆる文書が「PDF」形式になっている。職場内で扱う文書もPDFを使うケースが増えている。通常我々は、これらのPDFを閲覧したり、印刷したりしているわけだが、そこに直接文字や図形などを書き加えたいケースが少なからずある(図1)。

**PDFに文字を直接入力！
専用ソフトを使えば簡単だ**

一番多いのは、仕事先や部下などから送られてきたPDF文書に、修正依頼などを書き込みたい場合(図2)。これまでなら、一度紙に印刷して、赤ペンで修正依頼を書き込むという、手間のかかる方法しか使えなかった。これでは、相手に返信するにもファクスを使わざるを得ない。

しかし、パソコン上で直接PDFに依頼内容を書き込めれば、メ

ールに添付して相手に送ることができる。時間も手間も大幅に削減でき、受け取った相手も指示内容が分かりやすい。

最近では、履歴書やシステム手帳のリフィルなどの記入用紙も、PDFで配布されている。ここにパソコンで文字入力できれば、きれいに清書できるし、保存して後から再利用するのも容易だ(図3)。

「子ども手当申請」や「住所異動届出書」などの市役所の申請書も、今やほとんどの自治体がPDFで提供している。これらの申請書は入力項目が多く、手書きするのはかなりの手間だ。パソコンで文字入力できれば、そんな面倒からおさらばできる(図4)。

PDF文書そのものを修正したいこともある(図5)。例えば、ワードで作成してPDF形式で保存した報告書に、誤字や脱字を見つけた場合。手元に元のワードファイルがあれば、元文書を直して、再度PDFを作成すればいいが、ワードファイルがなければ万事休す。しかし、PDFを直接編集できるソフトがあれば、誤字や脱字

PDFに“文字入力”するには複数の方法がある、用途に応じて使い分けよう

ワードでじっくり入力



リフィルや履歴書を丁寧に作りたい



PDFを下絵にして、ワードで文字や図形を載せる

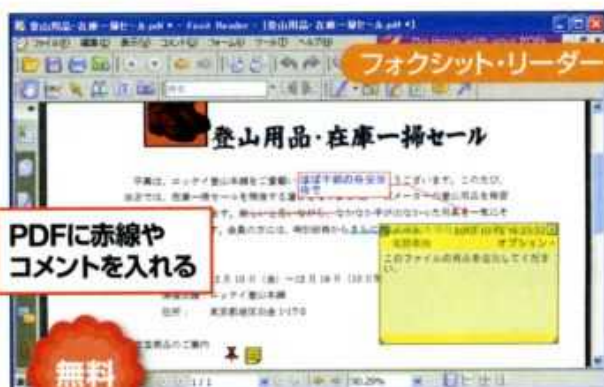
使うソフト
● オフィスソフト
(ワード、エクセル)

図3 PDFを画像に変換して、ワードの下絵に貼れば、ワード上で自由に文字や写真を載せることができる。自由記入欄などをじっくり書く場合に有効

他の人の文書を添削



赤線を入れたりコメントを入力して、文書を添削したい



PDFに赤線やコメントを入れる

使うソフト
● アドビ・リーダーX
● フォクシット・リーダー

図2 取引先や部下などから受け取ったPDFに、修正指示などの「注釈」を書き込む。今では、無料のリーダーソフトで書き込むことができる

誤字や写真を修正



誤字・脱字を直したり、写真を差し替えたい



文字や画像を修正、入れ替え

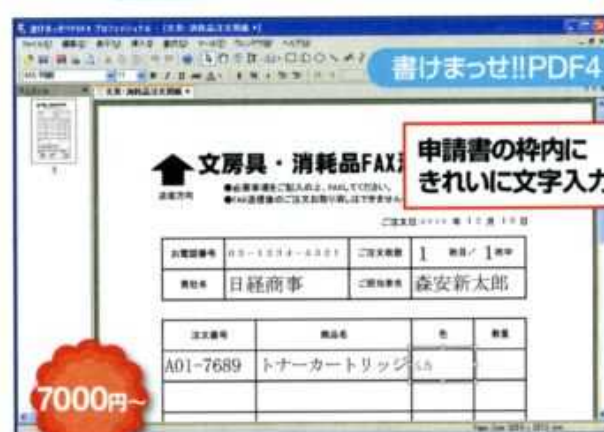
使うソフト
● いきなりPDF EDIT 7
● アドビ・アクロバット

図5 PDF内の誤字を直接修正したり、写真を差し替えることもできる。実売7000円程度の市販ソフトさえあれば、簡単に実現できる

申請書にラクラク入力



面倒な申請書や発注書などへの入力をテキパキとこなしたい



申請書の枠内にきれいに文字入力

使うソフト
● 書けまっせ!!PDF

図4 入力項目が多い市役所の申請書PDFなどに、きれいに文字を入力する。7000円程度の市販ソフトを使うと、テキパキ入力できて快適だ

PDF作成はフリーソフトでOK



図6 ワード、エクセル文書からPDF文書を作るのは簡単だ。今では、実力派のフリーソフトが続々と登場しており、作成から、ページ結合、分割、回転といった操作までこなせる

アクロバットは高価だが多芸で高品質

The advertisement for Adobe Acrobat X lists various features: '1 document PDF creation from editing to multi-conversion' (1本でPDFの作成から編集までマルチにこなせる多機能ソフト), 'Word, Excel to PDF conversion' (ワード、エクセルへの逆変換), 'Annotations' (注釈), 'Page processing' (ページ加工), 'Image replacement' (画像差し替え), 'PDF creation' (PDF作成), and 'Text input' (文字入力). The product is 'Adobe Acrobat X' (アドビ・アクロバット X) with a retail price of approximately 37,000 yen (実売価格: 3万7000円前後).

図7 「アドビ・アクロバット」を使うは作成から書き込みまで、PDFに關するさまざまな操作を実行できる。11月には最新版が登場した

● 画像編集ソフトでPDFに文字入力

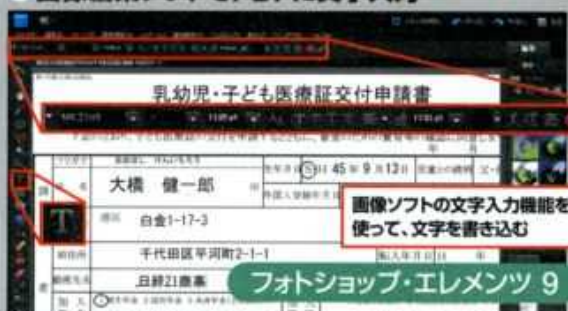


図8 画像ソフト「フォトショップ・エレメンツ」ならPDFを直接開いて、そこに文字を入力することができる。PDF形式で保存もできる。ただし、元文書は画像として扱われ、文字は選択できなくなる

書き込み方法は複数ある
ワードで書き込む裏ワザも

を修正して危機を乗り越えられる。このように、PDFに文字を書き込めると、見たり、印刷して手書きで記入するだけだったPDFの活用幅が格段に広がる。仕事がかどること間違いなしだ。

実際のテクニックに入る前に、まずはPDFへの書き込み方法の違いや仕組みを理解しよう。PDFに「書き込む」と一言で言っても、実際に実現する方法は複数ある。それによって、必要なソフトや作業方法が異なるのだ。

添削「するの」に、赤線を入れたり、メモを貼り付けたりする機能がある。これは、PDFの「注釈」を利用している。注釈とは、修正指示などを文書上に貼り付ける機能のこと。PDFの文書本体は編集せず、文書の上に補助的な説明である注釈を追加するのだ。

注釈は、アドビ・リーダーの最新版や「フォックスリター」などのフリーソフトで書き込める。注釈付きの文書は、アドビ・リーダー上で注釈の表示／非表示を簡単に切り替えられる。

一方、PDFの文書そのものに変更を加えるには、「アドビ・アクロバット」などのPDF作成・編

集ソフトを使う必要がある。図5で紹介したように、PDFの誤字や写真を修正する用途に使える。ソースネクストの「いきなりPDF EDIT」も、アクロバット相当の機能を備えている。

PDF文書そのものを編集できるソフトの中には、PDFに直接文字や図形を追加する用途に特化したものもある。アンテナハウスの「書けまっせ!! PDF」がそれだ。図4のように申請書の空欄にテキパキと文字を入力するような用途で力を発揮してくれる。

ワードやエクセルなどのオフィスソフトでPDF文書上に文字入力する方法もある。ただし、オ

フィスソフトではPDFをそのまま開くことはできないので、PDFを開いた画面を画像データとしてコピーして、ワード文書の「下絵」として使う。そこに、ワードでテキストや図形などを貼り込んでいけば、文書がきれいに完成するわけだ。ワードの高度な書き込み機能を駆使できるので、編集は自由自在。履歴書やリフィルなど、自由記入欄が多い書類を消書する場合にとっても便利だ。保存形式はワード形式になるが、PDFに変換することもできる。

なお、「フォトショップ・エレメンツ」などの画像編集ソフトを使ってPDFに文字を入力する方法もある。

作成・加工はフリーソフトで最新アクロバットも徹底紹介

今回の特集では、PDFの作成から、PDFの添削、PDFへの文字入力、画像編集まで、PDFのさまざまなテクニックを徹底紹介する(図6・図9)。これらをマスターすれば、PDFの扱いで困ることはなくなるだろう。

まずパート1では、ワード文書などからPDFを作成する。今では使い勝手のいいフリーソフトが登場しており、高価なソフトを買

PDFの作成・編集ソフトには複数のタイプがある、得意ワザもそれぞれ異なる

ソフト分野 ソフト名	概要	PDFの作成、 ページ単位の 加工	注釈 (文字や図形) の追加	文字や図形 (注釈以外) の追加	既存の文字や 図形の修正	結果の 保存方法	コスト
PDF作成・加工ソフト キューブPDF、 PDForsell Part 1	ワード、エクセル文書などからPDFを作成。ページの結合や回転などができるソフトもある	○	×	×	×	PDF として保存	無料
閲覧ソフト アドビ・リーダー X、 フォクシット・リーダー Part 2	注釈として文字や図形を書き込む。PDFの内容自体を書き換えるわけではない	×	○	×	×	PDF として保存	無料
オフィスソフト ワード、エクセル Part 3	PDFを画像に変換してワードの下絵として貼り付け、その上に文字や画像を載せる	×	×	○	×	オフィス ファイル として保存	無料
PDF編集ソフト(追記型) 書けまっせ!! PDF Part 4	PDFに直接、文字や図形を追加する(注釈ではない)。既存の文字や図形は加工できない	×	×	○	×	PDF として保存	7000円～
PDF編集ソフト(修正型) いきなりPDF EDIT、 アドビ・アクトバット Part 5 Part 6	PDF中の文字や図形を編集・追加する。レイアウト変更など大幅な加工はできない	○	○	△	○	PDF として保存	7000円～

図9 PDFを作成、編集できるソフトには、複数のタイプがある。「注釈」を追加するだけなら、PDFリーダーソフトでOK。PDFの文書内容そのものを書き換えるなら、専用の編集ソフトが必要だ。また、ワードを使って、PDFに文字を書き込む裏ワザ的な方法もある。PDFを画像に変換して、ワードの下絵として利用する

Part 1 あらゆる文書をPDFに! 結合・分割も自在

PDF作成・ページ加工編 → P.10

Part 2 メモ書きや打ち消し線で修正内容を指示

他の人の文書を添削編 → P.14

Part 3 文字も写真も自在に配置! 無敵のワード下絵作戦

ワードでじっくり入力編 → P.18

Part 4 手書き不要! きれいに手早く文字入力

申請書にラクラク入力編 → P.26

Part 5 ささいなミスはPDF上で手早く修正

誤字脱字・写真を修正編 → P.30

Part 6 アクトバットなら作成から編集まで自在!

最新アクトバット活用編 → P.32

う必要はなくなった。
次にパート2では、最新の「アドビ・リーダーX(テン)」やフリーソフト「フォクシット・リーダー」を使って、PDFにメモや赤線などの注釈を付ける手順を見ていく。パート3では、ワードでPDFに文字を入力する裏ワザを紹介する。手慣れたワードで文字入力も写真やイラストの配置もできるので、迷わず思い通りの文書に仕上げられる。
申請書や申込書などにテキパキ

と文字を入力する方法はパート4で紹介する。市販ソフト「書けまっせ!! PDF」を使えば、スムーズに文字を書き込める。
続けてパート5では、市販ソフト「いきなりPDF EDIT 7」を使って、PDF文書内の文字の修正や写真の差し替え方法を見ていく。
最後にパート6では、2010年11月に発売された最新の「アドビ・アクトバットX」の詳細を解説しよう。

あらゆる文書をPDFに！ 無料です

ワード、エクセル文書をPDFに、作成後の結合や分割も自在



図1 PDF作成ソフトを使うと、ワード、エクセルなどの文書ファイルから、PDFを作成できる。ページ加工ソフトなら、PDFを結合・分割したり、必要なページを挿入したりできる。大半の作業はフリーソフトで実行可能だ

紙に印刷する手順でPDFを作成

キューブ CubePDF
作者：キューブ・ソフト OS：7/ビスタ/XP
<http://www.cube-soft.jp/cubepdf/>

図2 左記のサイトから、実行形式のファイルをダウンロードし、ダブルクリックして、インストールする。ウインドウズが64ビット版なら、64ビット版のソフトを利用する

クリック
① 無料ダウンロード
64bit版はこちら
64ビット版はここをクリック
cubepdf-0.92b
ダウンロードしたファイル

文書ファイルの種類ごとに作成方法が異なると厄介だが、実際はどんなソフトから同じ手順で作成できる。その方法は一風変わっていて、文書を印刷するようにPDFを作成する。PDF作成ソフトは、仮想的なプリンターとして動作する。つまり、各種ソフトから印刷イメージを受け取って、それを「電子の紙」であるPDF

初めに、パソコン内にあるワード、エクセルなどの文書ファイルから、PDFを作成する方法を紹介しよう。

文書ファイルの種類ごとに作成方法が異なると厄介だが、実際はどんなソフトから同じ手順で作成できる。その方法は一風変わっていて、文書を印刷するようにPDFを作成する。PDF作成ソフトは、仮想的なプリンターとして動作する。つまり、各種ソフトから印刷イメージを受け取って、それを「電子の紙」であるPDF

として出力するのだ(図1左)。

フリーソフトで簡単作成 閲覧や印刷の制限も可能

トで実現できる(図1右)。

では、PDFの作成から見ていこう。今、一番のお勧めは、純国産のPDF作成ソフト「キューブPDF」だ。海外製のフリーソフトには日本語ファイル名が文字化けするものもあるが、このフリーソフトにはそうした心配がない。仕上がるPDFの品質も高く、操作画面もこなれている。早速、インストールしよう(図2、図3)。

●.NET Frameworkが必要

図3 インストール中に「...Net Frameworkがインストールされていません」と表示されたら、「はい」を押す。すると、「.NET Framework」のダウンロードページが開くので、インストールした後で、キューブPDFを再度インストールする

ダウンロード
dotnetfx
ダウンロードしたファイル

PDF文書にパスワードをかける

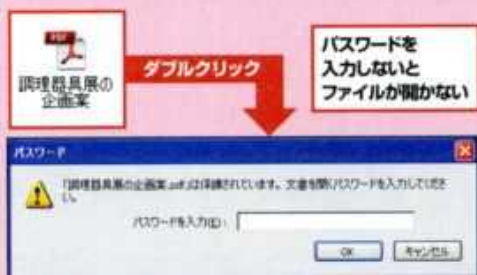


図8 ファイルの開覧制限もできる。作成時にセキュリティ設定を施せば、パスワードを入力しないとファイルが開かないようにできる

PDFの作成は簡単だ。ワード文書をワードで開いたら、印刷画面を開き、プリンターとして「CubePDF」を選んで印刷を実行する。後は、次の設定画面で「変換」を押すだけだ(図4、図7)。

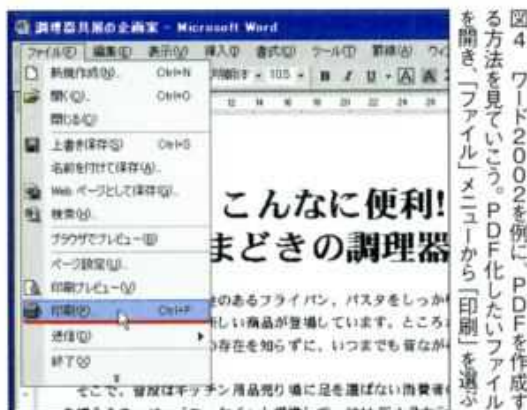


図4 ワード2002を例に、PDFを作成する方法を見ていこう。PDF化したファイルを開き、「ファイル」メニューから「印刷」を選ぶ



図9 図6の作成画面で「セキュリティ」タブを開き(①)、「文書を開くときにパスワードが必要」をチェックし(②)、パスワードを入力し(③)、「変換」を押す(④)

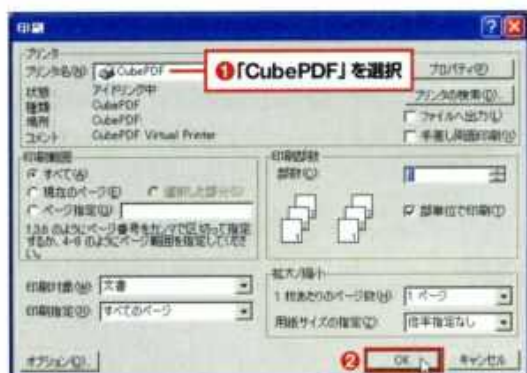


図5 「印刷」画面が開くので、「プリンタ名」を「CubePDF」に変更し(①)、「OK」を押す(②)

印刷やテキストのコピーを禁止する



図10 作成時にセキュリティ設定を変更すれば、印刷を禁止したり、テキストをクリップボードにコピーすることを禁じたりできる

作成するPDFにはさまざまなセキュリティ設定もかけられる。部外者に文書を見られるのが心配なら、パスワードなしではファイルが開かない設定にできる(図8、図9)。印刷やテキストのコピーな



図6 キューブPDFの設定画面が開くので、「変換」を押すと、PDFファイルが作成される。標準設定では、マイドキュメントに元のファイルと同じ名前で作成されるが、変更もできる[注1]



図11 図9で「セキュリティ機能...」にチェックを付け(①②)、パスワードを入力する(③)。4つの動作が禁止されるが、許可するものがあればチェックを入れる(④⑤)

ども禁止できる(図10、図11)。また、最新のオフィスソフトは、特別なソフトなしで、PDF形式で保存できる(次ページ図12)。マイクロソフトのオフィス2010の場合、「保存」画面を開き、

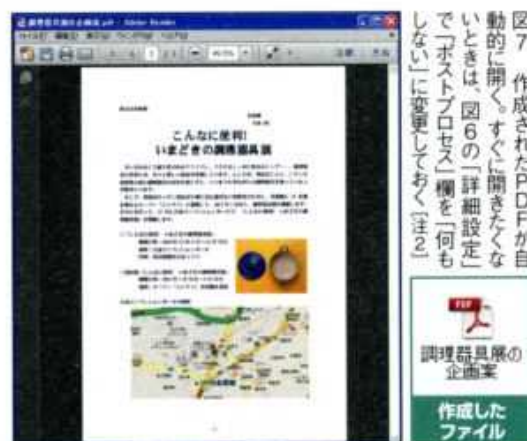


図7 作成されたPDFが自動的に開く。すぐ開きたくないときは、図6の「詳細設定」で「ポストプロセス」欄を「何もしない」に変更しておく[注2]

[注1] ファイル名の先頭にソフト名が付くこともある

[注2] キューブPDFで作成したPDFを「アドビ・アクロバット」や「アドビ・リーダーX」で開いた後で閉じるとき、中身に手を加えていなくても、「...への変更を保存しますか?」という確認画面が開く。ここで「はい」を選び、上書き保存すると、次回からは表示されない

複数のPDFを1つにまとめる



図16 フリーソフトを使うと、複数のPDF文書を1つのPDF文書にまとめることができる



フォルセル
PDFsell

作者: Yomogi Software OS: 7/ビスタ/XP

<http://yomogi.bakufu.org/pdf.html>



図17 上記のサイトから実行形式のファイルをダウンロードしてインストールする。[.NET Framework 2.0]以上が必要 [注5]



図18 結合したいPDFを画面左にドラッグし(①)、順番を入れ替える(②)。「結合して保存」をクリックし(③)、開く画面で「結合して保存」を押すと、先頭のファイル名の末尾に「_merged」が付いて保存される。元のファイルはそのまま残るので安心だ [注6]

次に、作成済みのPDFを加工
結合・分割から挿入まで
作ったPDFを自在に加工
きる(図15)。

する方法を見ていこう。ファイル
の結合・分割といった基本操作な
ら、フリーソフトの「PDF For
e」(フォルセル)で実現できる。
このソフトは、プレビュー画面を

備えており、文書内容を確認しな
がら作業できる点が使いがいい
(図16、図17)。
ファイルを結合するには、結合
したいファイルを画面左に登録し、

順番を入れ替える。終わったら、
「結合して保存」をクリックすれば
よい(図18)。分割には、「分割」ボ
タンを使う(図19、図21)。「左回
転」「右回転」ボタンでページの回

最近のオフィスソフトなら直接作成も



図12 最近のオフィスソフトでは、標準機能でPDF形式で保存できる。「マイクロソフト・オフィス」は2007/2010ならOK。「オープンオフィス日本語版」は、バージョン1.1以降なら大丈夫だ [注3]



図13 オフィス2010でやり方を見ていこう。文書を開いたら、「ファイル」メニューから「名前を付けて保存」をクリック

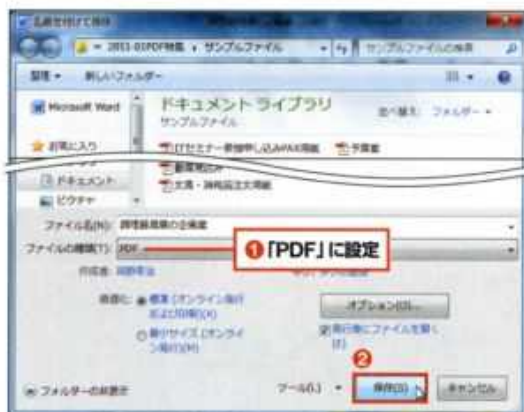
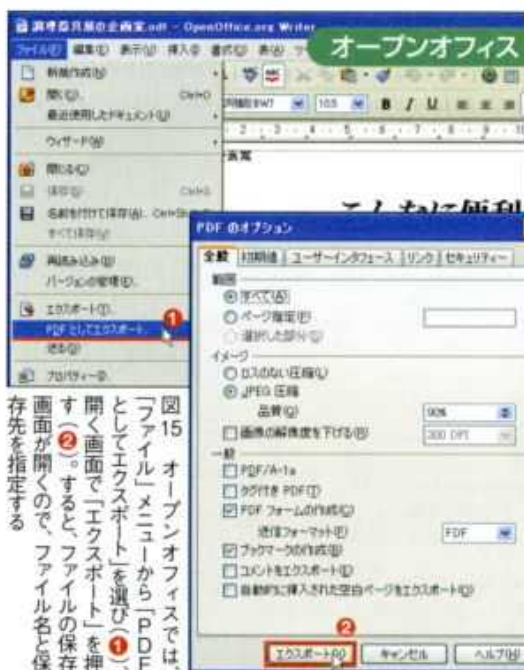


図14 「ファイルの種類」を「PDF」に設定し(①)、「保存」を押せばPDF文書を作成できる(②) [注4]



[注3] オープンオフィスの最新版は、<http://ja.openoffice.org/>から入手できる。対応OSはビスタ/XP
[注4] オフィス2007の場合、「オフィスボタン」→「名前を付けて保存」→「PDFまたはXPS」を選ぶ。「PDFまたはXPS」が表示されないときは、「名前を付けて保存」から「他のファイル形式用のアドインを探す」を選び、必要なアドインをインストールする

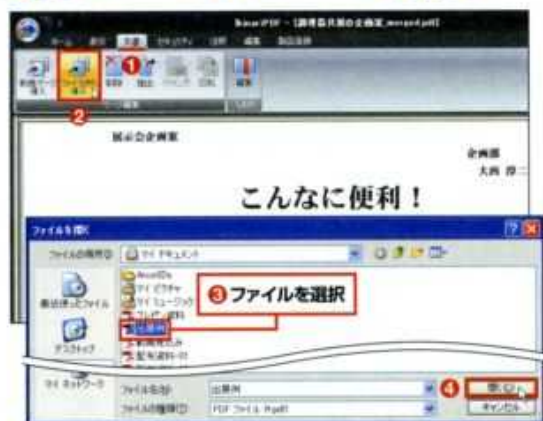


図24 「いきなりPDF」でファイルを開いたら、「文書」タブを開き(①)、「ファイルから挿入」を選ぶ(②)。開く画面で、挿入したいファイルを選択し(③)、「開く」をクリック(④)

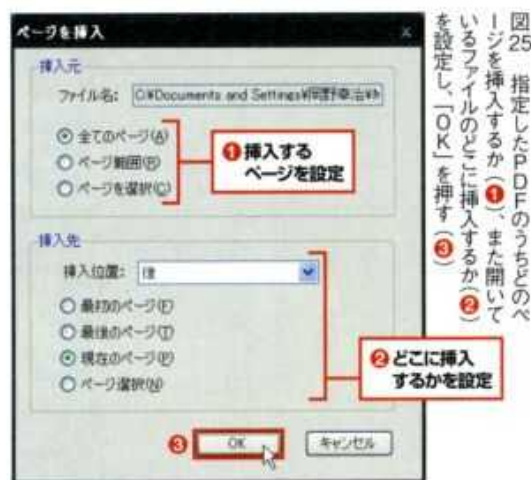


図25 指定したPDFのうちのページを挿入するか(①)、また開いているファイルのどこに挿入するか(②)を設定し、「OK」を押す(③)

ドラッグ操作でページを並べ替え



図26 PDFの作成後にページの順番を入れ替えたいことがある。こんな加工も、市販ソフトを使うと、簡単なドラッグ操作で実現できる



図27 「表示」タブで(①)、「操作パネル」→「サムネイル」を選ぶ(②)。画面左にサムネイルが表示されるので、入れ替えたいページをドラッグすればよい(③)

転もできる。
このように、基本的なPDFの作成・加工はフリーソフトでも実現できる。しかし、ファイルの途中に別のPDFを挿入したり、一

部分を抽出したりするといった高度な加工が必要なら市販ソフトの出番だ(図22、図23)。
「いきなりPDF/スタンダードエディション」では、文書を開

き、「ファイルから挿入」を選んで、文書の途中に別ファイルの挿入できる(図24、図25)。同様に、ページ削除や抽出もできる。さらに、ドラッグ操作でページの入替え

までできる(図26、図27)。もちろん、PDFの作成機能もカバーしている。仕事で大量のPDFを作成、加工するなら、市販ソフトの購入を検討したい。

任意のページでPDFを分割



図19 同じフリーソフトを使って、1つのPDFを複数に分割することもできる。相手に応じて、必要な部分だけを渡せるので便利だ

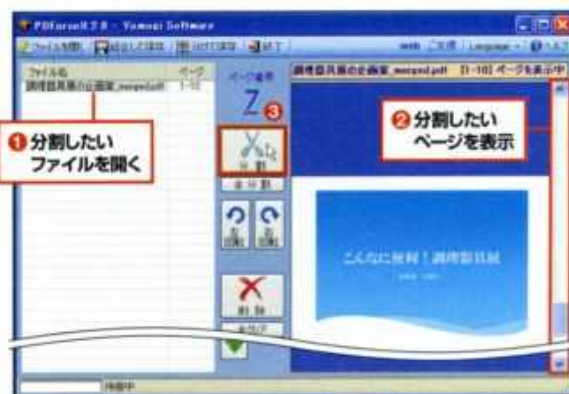


図20 分割したいファイルを開いたら(①)、分割後の先頭ページをプレビュー画面に表示させ(②)、「分割」をクリックする(③)



図21 ファイルが分割される(①)。「分けて保存」を押すと(②)、元のファイル名に「-01」などの番号を付けたファイルが生成される

ページ挿入、抽出、削除も自由自在



図22 市販ソフトを使うと、作成済みのPDFに別のファイルの挿入したり、必要なページだけ抽出したり、不要ページを削除したりする作業が簡単だ



ソースネクスト
**いきなり PDF/
STANDARD Edition**

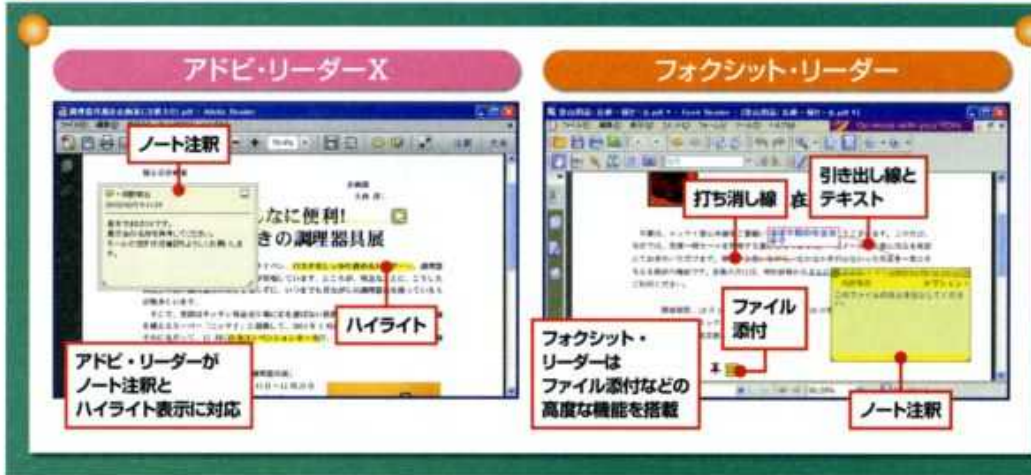
実売価格：3990円
対応OS：7/ビスタ/XP

図23 PDF作成などの基本機能を装備。さらに高機能な「同 COMPLETE Edition」(実売価格8500円前後)もある

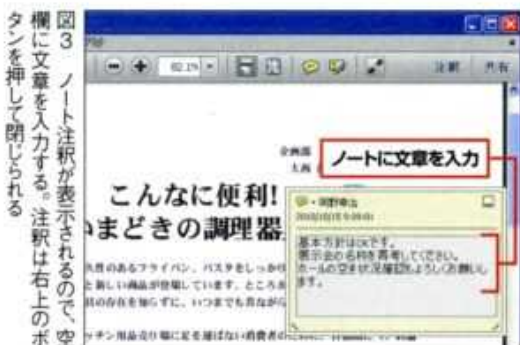
[注5] .NET Frameworkがインストールされているかどうかは、コントロールパネルの「プログラムの追加と削除」で確認する。未導入なら、<http://www.microsoft.com/downloads/ja-jp/default.aspx>で「.NET Framework」を検索し、OSのバージョンに合ったものを入手する
[注6] 編集部で試した範囲では問題なかったが、作者のサイトによると、注釈は引き継がれない

メモ書きや打ち消し線で修正内容を指示

図1 無料の閲覧ソフトでは「アドビ・リーダー」が最新版で注釈付けに対応、ノート注釈とハイライト表示が利用可能になった。フリーの「フォクシット・リーダー」は、より多彩な注釈が使える。



アドビ・リーダーで注釈を付ける



テキストをハイライトで強調



あらゆるパソコンやスマートフォンで見られるPDFは、社内外で問わずに利用が進んでいる。取引先とのやり取りや、社内での企画書を提出するときに、PDFを使う人は多いだろう。しかし、取引先や部下から書類がPDFで回ってきたとき、それを印刷して赤ペンで修正していかないだろうか。

これは考えものだ。相手からすると、せっかくPDFできれいに仕上げたのに、読みづらい書きで指示が返ってくる。ファックスでのやり取りとなると書き文字はいつそう読みにくくなる。これで

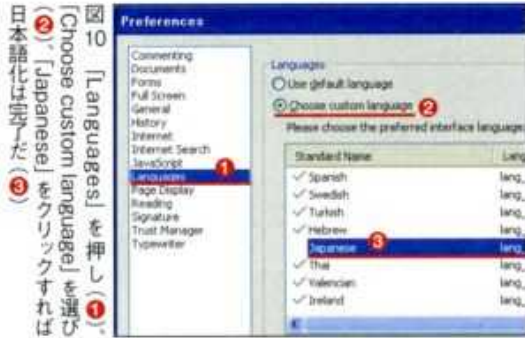
「電子の紙」の効果も半減だ。は「アドビ・リーダー」が「注釈」の書き込みに対応！

そんな声に応えられるように、PDFには「注釈」と呼ぶ機能がある。PDF文書はそのままに、その上に、打ち消し線を付けたリ、メモを付けたリする機能だ。これを使うと、文書の添削がパソコン内で完結できるようになる。

ただし、これまでは「注釈」を付けるにも、高価な「アドビ・アクロバット」やフリーソフトを使うしかなかった。多くの人が使う無

[注1]「アドビ・リーダー X」のベータ版を使って作成した。製品版とは画面や操作が若干異なる可能性がある。
[注2] フォクシット・リーダーをインストールすると、同時にIEに「Foxit Toolbar」が追加される。不要ならば、コントロールパネルの「プログラムの追加と削除」からアンインストールする。

●メニューの表示を日本語化する



リーダーだ。他のソフトでは、日本語で注釈の指示を入力するとき、変換前の文字が関係ない位置に表示されるなど、使い勝手にやが難があるが、フォクシット・リーダーは後発だけにそうした不満

がほとんどない。ファイル添付などの高度な機能も利用できる。注釈の扱いに迷いなし。すべて直感的に操作できる。まずは、アドビ・リーダーの使

い方から見ていこう。注釈の付け方はとても簡単だ。指示を付せんのように貼る「ノート注釈」を使うときは、ツールバーのアイコンを選び、文書内の貼り付けたい場所をクリックして、現れたメモの入

力欄に指示などを記入すればよい(図2、図3)。同様に、文字を強調するには、「テキストをハイライト表示」アイコンを押した後、適用するテキストを選択する(図4)。次はフォクシット・リーダーだ。

多彩な注釈のフォクシット・リーダー



[注3] ウィンドウズが64ビットの場合、「Program Files」ではなく、「Program Files (x86)」内にインストールされている
[注4] 起動時にフォクシット・リーダーをPDFの標準ソフトに設定するか確認される。設定しないなら、チェックを外して「No」を押す

フォクシットの多彩なツールで分かりやすく添削

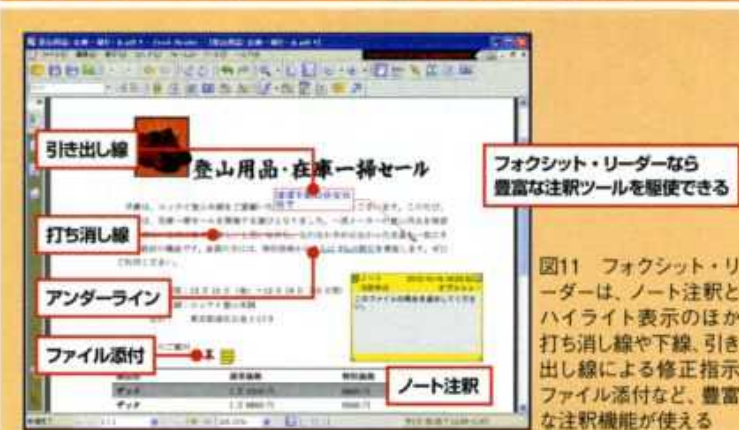


図11 フォクシット・リーダーは、ノート注釈とハイライト表示のほか、打ち消し線や下線、引き出し線による修正指示、ファイル添付など、豊富な注釈機能が見える

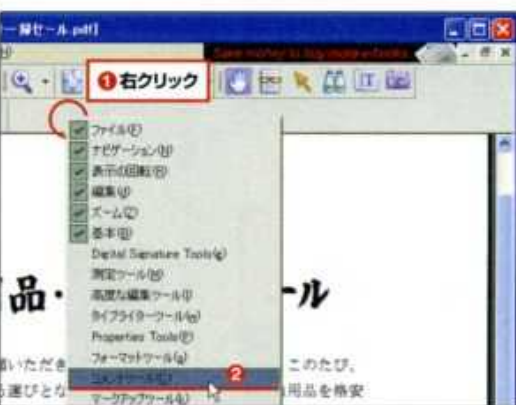


図12 まずは、テキストにコメントを加えるボタンをツールバーに表示させる。ツールバーを右クリックし(1)、「コメントツール」をクリック(2)。他のツールも同様に表示できる

● 文字列をドラッグして打ち消し線を付ける

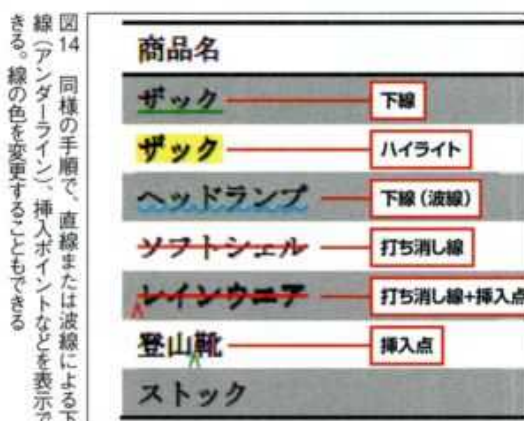
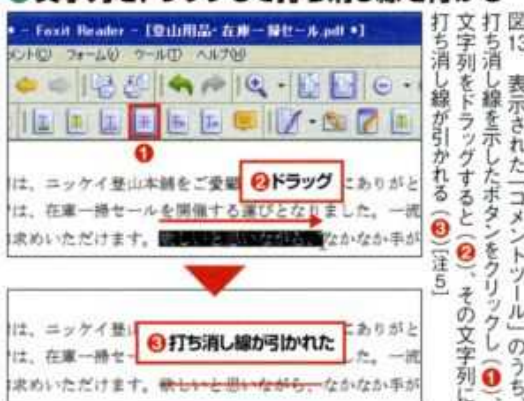


図14 同様の手順で、直線または波線による下線(アンダーライン)、挿入ポイントなどを表示できる。線の色を変更することもできる

● 引き出し線で修正内容を指示する



図15 引き出し線で修正を指示するには、「タイプライターツール」内の該当ボタンを選び(1)、注釈を追加するポイントをクリック(2)

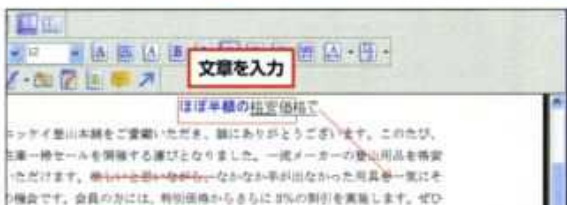


図16 テキストボックスと矢印が表示されるので、ボックス内に修正指示の文章を入力する

● エクセルなどのファイルを添付する

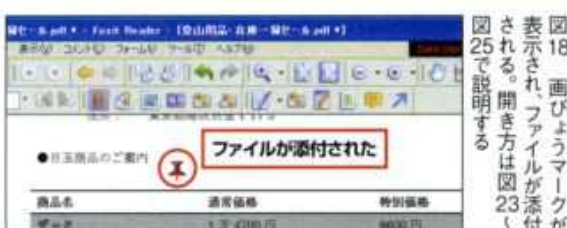


図18 画びょうマークが表示され、ファイルが添付される。開き方は図23で説明する

● 注釈を削除するには

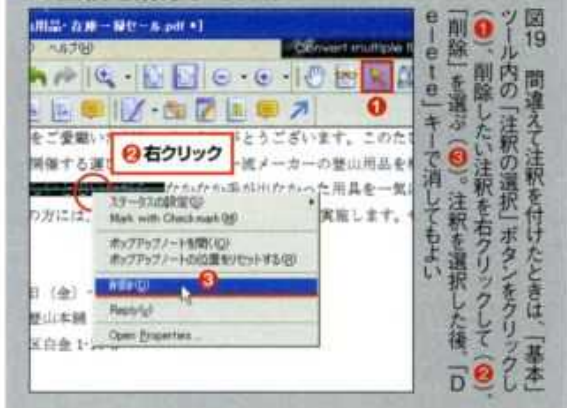


図19 間違えて注釈を付けたときは、「基本ツール」内の「注釈の選択」ボタンをクリックし(1)、削除したい注釈を右クリックして(2)、「削除」を選択(3)。注釈を選択した後「Delete」キーで消してもよい

[注5] ファイルを開くとき、またはコメントツールのいずれかを適用するときに、言語モジュールの追加を促されることがある。追加しようとしてもエラーが出るので「キャンセル」を押す。それでも通常は正しく表示できる

●PDFに添付されたファイルを開く



図23 添付されているファイルを開くには、画びょうの図柄を右クリックし①、「ファイルを開く」を選ぶ②。画びょうの図柄をダブルクリックしてもよい

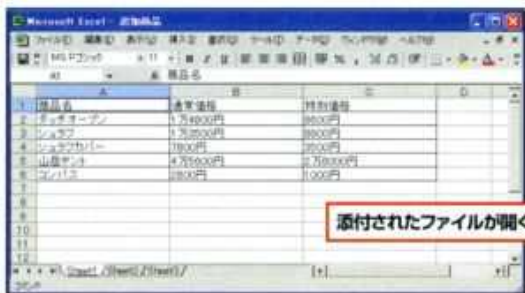


図24 図23の文書に添付されていたファイルが開く。ハードディスクの任意の場所に保存し直してもよい

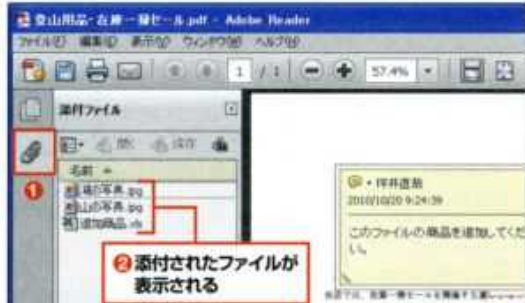


図25 画面左のクリップの図柄をクリックすると①、その横に添付ファイルが一覧表示される②。ファイルを選んで、「開く」や「保存」を押して、開いたり保存したりできる

●注釈は取り除いて印刷できる



図26 アドビ・リーダーの「ファイル」メニューから「印刷」を選んで印刷画面を開き、「注釈とフォーム」欄で「文書」を選ぶと、注釈なしの状態で印刷できる【注6】

リーダーで注釈の表示/非表示を切り替え



図20 アドビ・リーダーでファイルを開き、「注釈」をクリックすると①、画面右側に注釈が一覧表示される②。各項目をクリックすると、該当する注釈の周囲が点滅する

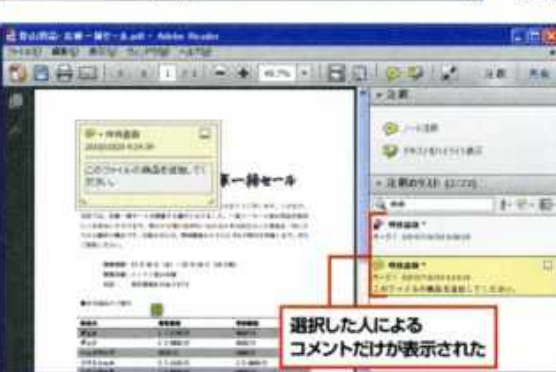
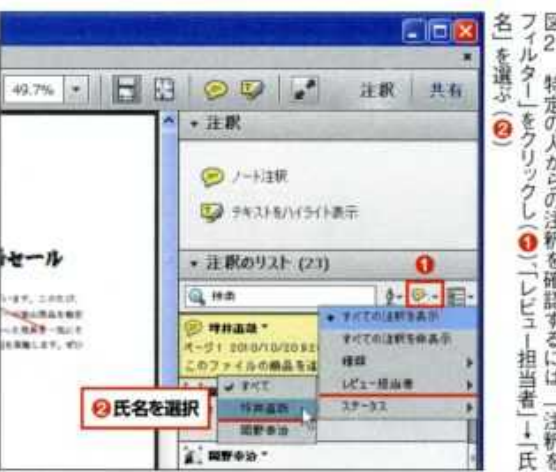


図22 すると、その担当者が付けた注釈だけが右側の一覧に表示され、左側の文書にもその注釈だけが表示される。各項目をクリックすると、その注釈の周囲が点滅する

る機能もある(図15、図16)。PDFにエクセルなどのファイルを添付することもできる。「高度な編集ツール」内にあるクリップの絵柄からファイルを指定すると、文

書上に画びょうマークが表示される(図17、図18)。この添付ファイルは、後述するようにアドビ・リーダーで開くことができる。なお、間違えて付けた注釈は、

簡単に削除できる(図19)。アドビ・リーダーで注釈を漏れなく確認する

リーダーで開くと、特別な操作をしなくても注釈付きで表示される。注釈が多いときは、指示を見落としかちになるので、注釈をリスト表示させて上から順に見ていけば、漏れなく確認できる(図20)。注釈は非表示にもできる。特定の人からの注釈だけを表示することもできるので、「部長の指示だけを確認する」といった使い方も可能だ(図21、図22)。添付ファイルは、画びょうマークを右クリックして開ける(図23、図25)。注釈付きのファイルを印刷すると、標準では元の文書と注釈が一緒に印刷される。もし、元の文書だけが必要なら、「印刷」画面で「注釈とフォーム」欄を「文書」に変更する(図26)。

【注6】編集部で確認したところ、フォックス・リーダーで付けた注釈の一部は、注釈付きで印刷する設定にしても印刷されないことがあった

ガンガン書ける！ 無敵の下絵作戦

図1 PDFを図としてワードに貼り付け、その上にテキストボックスやイラストなどを配置した。行間調整や箇条書きなど、ワードの機能をフルに駆使できるのがミソだ

2010年10月22日

自分の得意なところ、得意分野

- 人は能力だけではない。世に立つことではない。たまたま運よく機械で稼いだ。人は能力と世に立つことが重要である。(野口英世)
- 金で買えない。縁のしきたりがある。好き嫌いではない。(ロバート・ゴッパマン)

20 本業以外の収入を得る

- 専門分野では力にも負けない(最低条件)
- 英語力(英語で思考するレベル)を身に付ける
- 人や時間を管理するマネジメント力をつける
- 料理が得意

今の自分に足りないこと・課題

- 社外における人脈
- 語学
- 心の余裕

2009年PC21社(10月22日)

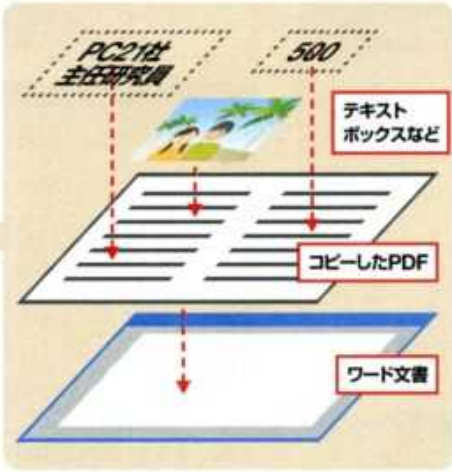
- 1年以内にTOEICで700点を取る
- 半年以内に中華料理をマスターする

目標達成のための具体的なこと

- 毎日日記をつける
- 具体的な数値目標を立てる
- 早起き、早出勤
- 計画的に休職を取る
- 暴飲、暴食をしない

どうだろうか
でもやるっきゃない

図2 アドビ・リーダーでPDFをコピーしてワード文書に貼り付ける。背景と外枠線をなし(透明)にしたテキストボックスをその上に配置するという作戦だ。コロンブスの卵的発想だが、短時間で美しく仕上げるにはコツがたくさんある



PDFを下絵にしてワードで文字や図形を書き込む

人生計画表 2010年10月22日

年齢	性別	仕事	収入	支出	貯蓄	資産	負債	備考
26	男	PC21社 研究員	500	200		海外 1LDK 賃貸		長女誕生 小中入
27								
28								
29								
30	男	PC21社 主任研究員	700	400		都内 1LDK 賃貸		長男誕生
31						SUV購入 予算 150万円		第2子誕生 長男転居
32								小中入
33								
34	男	PC21社 上席研究員	800	1000		永年勤続休暇 アジア旅行		
35								
36								
37	男	PC21社 上席研究員				都内 1LDK 集合住宅購入		第2子 小中入
38								小中入
39								
40	男	PC21社 首席研究員	1000	2000		南極クルーズ 2週間		

人生計画表 (Microsoft Word 2010)

年齢	性別	仕事	収入	支出	貯蓄	資産	負債	備考
26	男	PC21社 研究員	500	200		海外 1LDK 賃貸		長女誕生 小中入
27								
28								
29								
30	男	PC21社 主任研究員	700	400		都内 1LDK 賃貸		長男誕生
31						SUV購入 予算 150万円		第2子誕生 長男転居
32								小中入
33								
34	男	PC21社 上席研究員	800	1000		永年勤続休暇 アジア旅行		
35								

下絵作戦、成功のカギは200%コピーと余白ゼロ

仕組みは単純だが、実際の作業ではコツがいろいろある。まず、PDFを下絵として貼り付ける方法。PDFはデジカメ写真のように「挿入」→「図」で挿入できない。アドビ・リーダーのスナップショットツールでコピーして貼り付けるのがポイントだ(図3、図5)。

PDFの中にはパソコンでじっくり記入したいものもある。例えば料理コンテストの応募用紙や履歴書、計画表など(図1)。内容を推敲しながら入力して、できれば写真なども入れて、最終的にはきれいに印刷したい。そんなとき、誰もが思いつくコロンブスの卵的発想が本章の下絵作戦だ。

PDFを下絵としてワード文書に貼り付け、背景色や外枠をなし(透明)にしたテキストボックスをその上に置いて文字を入力する(図2)。実に単純。ワードでもエクセルでもできる。ただ、エクセルは実寸で作るのが難しいので、今回はワードを使用する(注1)。

[注1] エクセルでは用紙の余白をゼロに設定できないため、PDFを下絵として貼り付けた後で周囲をトリミングする必要がある。だが、画面と印刷で図の寸法が微妙にずれるというエクセル特有の問題があるため、正確に調整できない

部分コピーではサイズ調整が必要

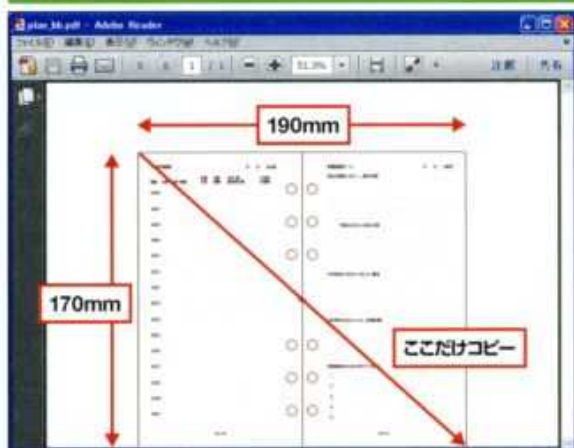


図14 印刷して切り取るタイプのPDFでは、必要な部分だけコピーしてもよい。コピーする部分のサイズを確認しておく(例はバイブルサイズ)

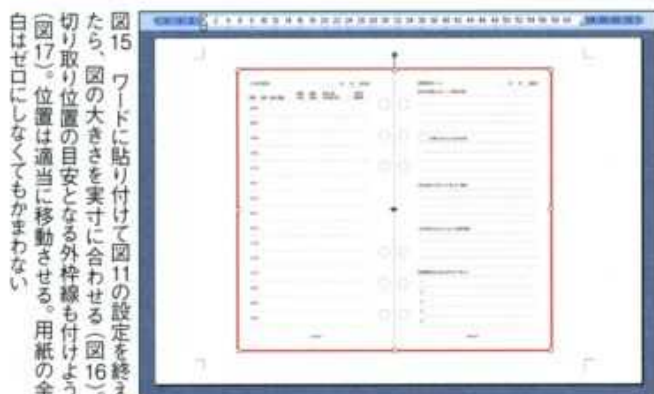


図15 ワードに貼り付けて図11の設定を終えたら、図の大きさを実寸に合わせる(図16)。切り取り位置の目安となる外枠線も付けよう(図17)。位置は適当に移動させる。用紙の余白はゼロにしないでかまわない



図16 下絵を右クリックして「図の書式設定」を選び、「サイズ」タブで実寸の高さを指定する(2007以降では「図ツール」→「書式」タブの「サイズ」欄)。縦横比を維持するよう、幅は自動計算される[注5]

図17 外枠線はこのように「色と線」タブの「線」欄で設定する(2007以降では「図ツール」→「書式」タブの「図の枠線」)



A4判用紙いっぱいに下絵を貼り付ける



図10 余白ゼロのA4判横置き用紙が現れたら、「編集」→「貼り付け」を選ぶ(ワード2007/2010では「ホーム」タブの「貼り付け」ボタン)



図11 図が貼り付けられたら、クリックして「図」ツールバーの「テキストの折り返し」から「背面」を選ぶ(注3)。2007以降では「図ツール」の「書式」タブの「文字列の折り返し」から

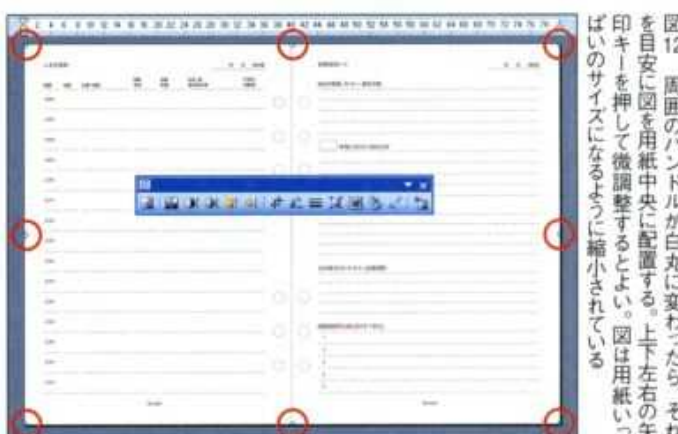


図12 周囲のハンドルが白丸に変わったなら、それを目安に図を用紙中央に配置する。上下左右の矢印キーを押して微調整するとよい。図は用紙いっぱいのサイズになるように縮小されている



図13 図9で「無視」を選んだ場合、後で印刷する際にこのような警告が出る。下絵の周囲数ミリが印刷できないだけなので、「はい」を選んで印刷を続行しよう

大きさは用紙内に収まるよう、縦横比を保ったまま縮小される。アドビ・リーダーで拡大表示してA4判のページ全体をコピーした場合は、ほぼ実寸となるはずだ。

ただし、1ミリも狂わずA4判びつたりにはならないことが多い。「アドビ・リーダーでいくら丁寧にコピーしても数ミリはずれるので、ある程度は目をつぶろう。

下絵を貼り付けたら、テキストの回り込み設定を「行内」から「背面」に変える(図11)。「行内」のままだと自由に移動できないからだ。なお、「背面」ではなく「前面」にすると、後でデジカメ写真などを挿入した際、下絵の後ろに隠れてしまうので注意しよう。

「背面」に変えると周囲のサイズ変更ハンドルが白丸に変わる。それを目安に下絵を用紙中央に動かそう(図12)。移動はドラッグ操作でもできるが、選択して矢印キーを押した方が微調整しやすい。

PDFによっては内容の一部をコピーしたいケースもある。あるいは非定型サイズの伝票やハガキのPDFもあるだろう。こんなときは、PDFの一部もしくは全体をコピー/貼り付けした上で、図の大きさを実寸に変える(図14、図17)。その際はサイズを数値指

[注3] 「図」ツールバーが現れない場合は、「表示」メニューの「ツールバー」から選んで表示させる

[注4] 下絵の寸法は書式設定画面(図16)を開くと確認できる。気になるなら、数値を入力してA4判びつたりにしてもよい

[注5] エクセルでも同様に図の寸法を数値指定できるが、印刷するとその大きさにならない。ワードをお薦めする理由の1つだ

行間フリー、背景透明の基本ボックスを作る

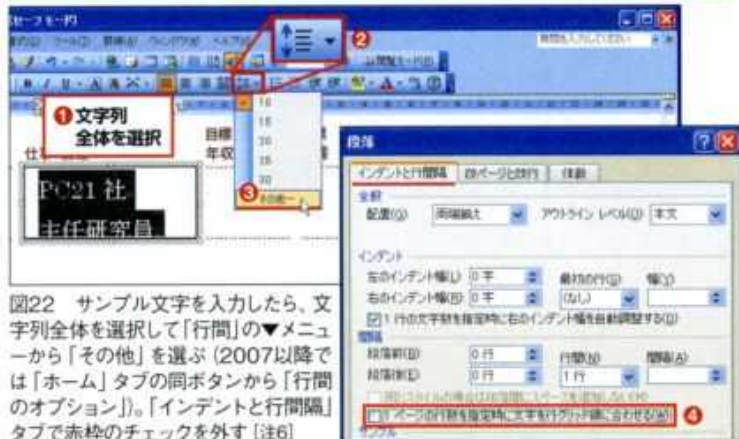


図22 サンプル文字を入力したら、文字列全体を選択して「行間」の▼メニューから「その他」を選ぶ（2007以降では「ホーム」タブの同ボタンから「行間のオプション」）。「インデントと行間隔」タブで赤枠のチェックを外す【注6】

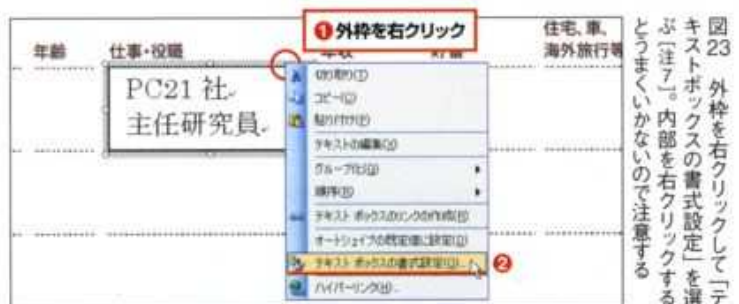


図23 外枠を右クリックして「テキストボックスの書式設定」を選ぶ【注7】。内部を右クリックするとつまみがあるので注意する

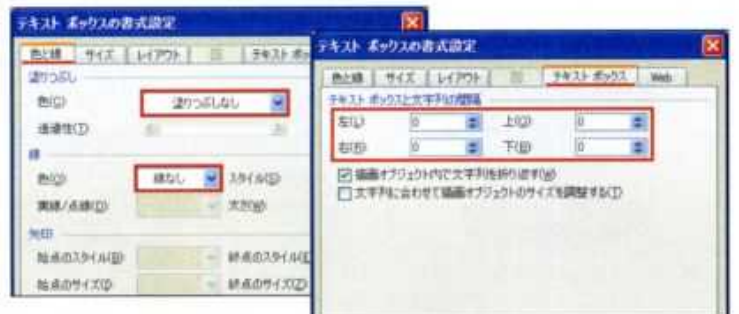


図24 「色と線」タブで塗りつぶしの色と線の色をなしにする。続けて「テキストボックス」タブを開き、外枠と文字の間隔を上下左右すべて「0」にする

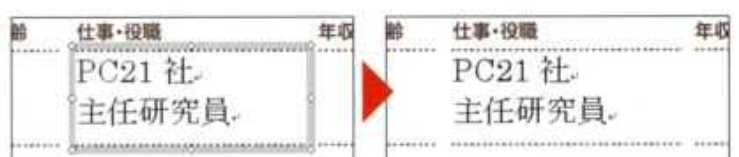
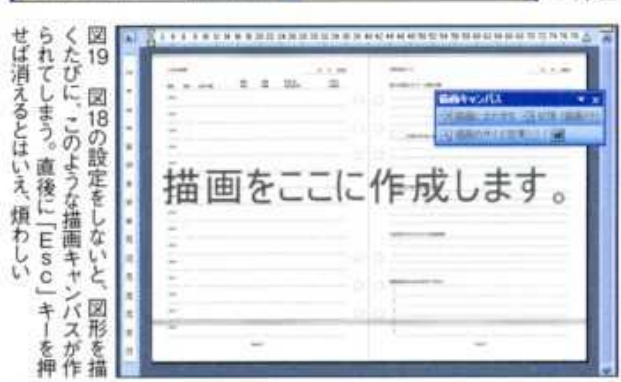
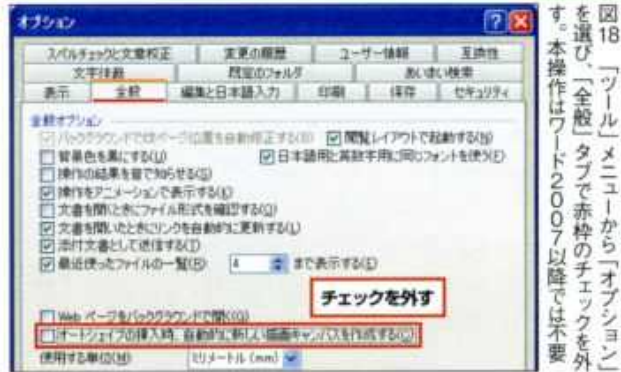


図25 文字以外が透明になって下絵が見えるようになる。ボックスの選択を解除して確認しよう（右図）。位置がやや上にずれているので、選択して矢印キーで微調整する

2003では書き込む前に下準備



下絵の上にテキストボックスを描く



基本ボックスを複製して使い回す



図30 「Enter」キーを押しながらボックスの外枠をドラッグすると複製できる。書式を整えたボックスを使い回そう

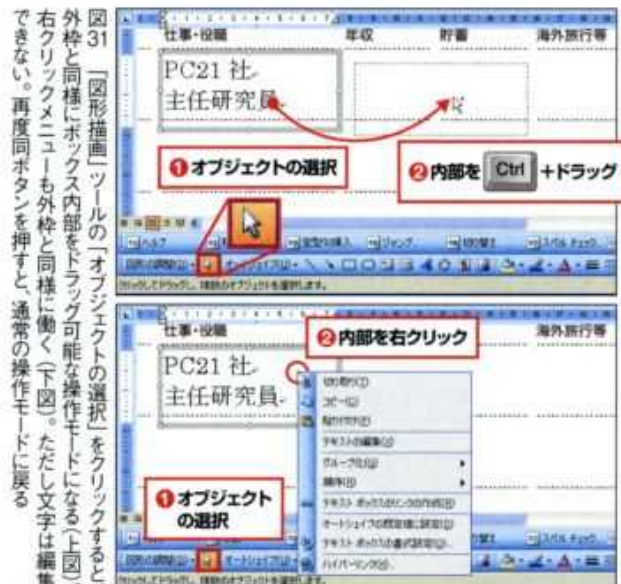


図31 「図形描画」ツールの「オブジェクトの選択」をクリックすると、外枠と同様にボックス内部をドラッグ可能な操作モードになる(上図)。右クリックメニューも外枠と同様に働く(下図)。ただし文字は編集できない。再度同ボタンを押すと、通常の操作モードに戻る。

図32 ワード2007以降では「オブジェクトの選択」が「ホーム」タブの右端にある(上図)。2007以降は透明ボックスの外枠が分かりづらいので、間違えて下絵をドラッグしがち。内部をドラッグすれば確実だ(下図)。

ワード2007以降は上下配置ができる



図26 テキストボックスをクリックして「テキストボックスツール」の「書式」タブを開き、「テキストボックススタイル」欄の右下にあるボタンをクリック(上図) [注8]。「テキストボックス」タブで「中央揃え」を選ぶ(右図)。

図27 文字列が上下中央に配置された。この機能はワード2003以前にはない

下絵に合わせて行間を微妙に調整する

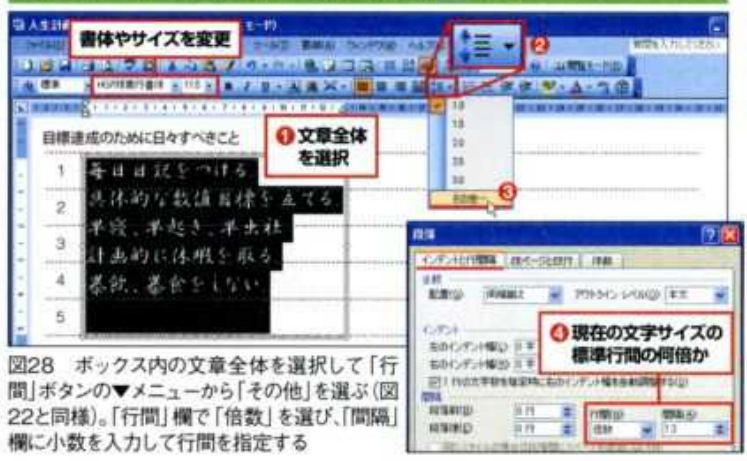


図28 ボックス内の文章全体を選択して「行間」ボタンの▼メニューから「その他」を選ぶ(図22と同様)。「行間」欄で「倍数」を選び、「間隔」欄に小数を入力して行間を指定する

図29 下絵に合わせてぴったりと収まった。倍数の1.3とは、現在の文字サイズでの標準行間の1.3倍という意味。試行錯誤して最適値を見つけよう

2行以上にわたる入力欄では、下絵に合わせて行間の調整が必要なものもある。そのときは倍数の小数指定で微調整するとよい(図28、図29)。例えば1.3にすると、現在の文字サイズにおける標準行間の1.3倍になる。

倍数指定の場合、文字サイズを変えるとそれに応じて実際の行間も増減する。ただし、前述の行グリッド線設定(図22)がオンだと、うまく増減しないので注意しよう。

このほか、「固定値」で具体的なポイント数を指定する方法もある。以上の設定を終えて基本となるボックスが1つ出来上がったなら、それを複製して使い回そう。「Ctrl + Enter」キーを押しながら外枠をドラッグすると複製できる(図30)。

[注8] 2010では「描画ツール」の「書式」タブで「ワードアートのスタイル」欄の右下にあるボタンをクリックする。ワードの場合、2007と2010ではテキストボックスの仕様がかなり異なる。選択すると2007のリボンには「テキストボックスツール」が現れるが、2010は「描画ツール」という名称で機能も若干違う。書式設定画面(図24、図26右)も2007は2003以前と似ているが、2010ではデザインが異なる

グループ化と整列でテキパキと作る



図35 最初のボックスをクリックし、「Shift」キーを押しながら残りを順にクリック。1行分のボックスを同時選択したら、「図形の調整」から「グループ化」を選ぶ（2007以降では「書式」タブから）。複数のボックスを1つの図形のように取り扱えるようになる（下図）



図37 グループ化を複製して計4つ作った。一番上の位置を下絵に合わせ、一番下の上下位置を下絵に合わせる（左右位置は適当でよい）。4つとも選択して「配置／整列」メニュー（図33、図34）から「左揃え」を選ぶ。続けて「上下に整列」を押すと上下等間隔に並び

複数のボックスをきれいに揃える



配置／整列をツールバーとして切り離す

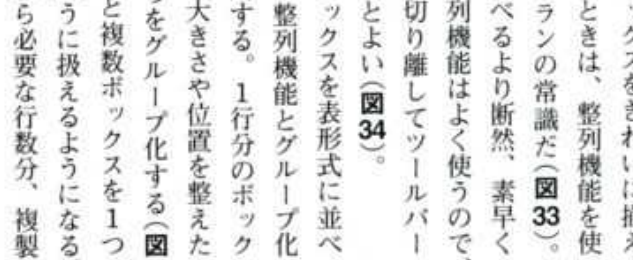
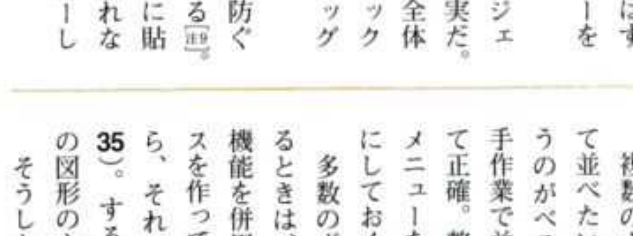
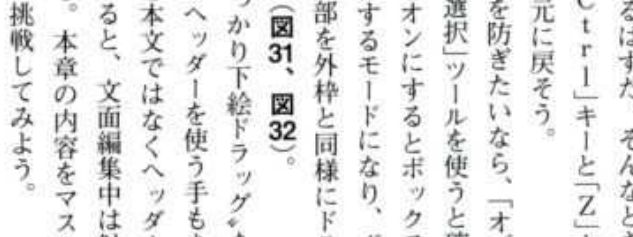
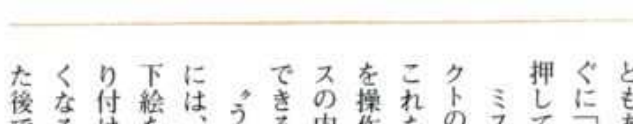
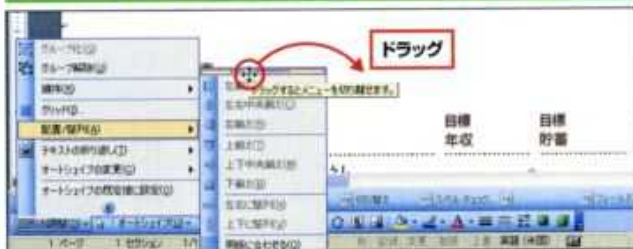


図33 最初のボックスをクリックしたら、「Shift」キーを押しながら残りをクリックして同時選択。「図形描画」ツールバーの「図形の調整」から「配置／整列」→「左揃え」を選ぶ（2007以降では「書式」タブの「配置」から）

図33 最初のボックスをクリックしたら、「Shift」キーを押しながら残りをクリックして同時選択。「図形描画」ツールバーの「図形の調整」から「配置／整列」→「左揃え」を選ぶ（2007以降では「書式」タブの「配置」から）

図34 「配置／整列」のメニューを開いたら、その上端をドラッグしてみよう（上図）。メニューをツールバーとして切り離せる（下図）。ボタンをクリックするだけで機能呼び出せて便利だ。この切り離し機能はワード2007以降にはない

ただ、透明ボックスの外枠ドラッグは操作を誤りやすい。うっかり下絵をドラッグしてしまうこともあるはずだ。そんなときはすぐに「Ctrl」キーと「Z」キーを押して元に戻そう。

ミスを防ぎたいなら、「オブジェクトの選択」ツールを使うと確実だ。これをオンにするとボックス全体を操作するモードになり、ボックスの内部を外枠と同様にドラッグできる（図31、図32）。

うっかり下絵ドラッグを防ぐには、ヘッダーを使う手もある（注9）。下絵を本文ではなくヘッダーに貼り付けると、文面編集には触れなくなる。本章の内容をマスターした後で挑戦してみよう。

このワザを知らないと
下絵作戦も画面点検を欠く

複数のボックスをきれいに揃えて並べたいときは、整列機能を使うのがベテランの常識だ（図33）。手作業で並べるより断然、素早くて正確。整列機能はよく使うので、メニューを切り離してツールバーにしておくといふ（図34）。

多数のボックスを表形式に並べるときは、整列機能とグループ化機能を併用する。1行分のボックスを作って大きさや位置を整えたら、それらをグループ化する（図35）。すると複数ボックスを1つの図形のように扱えるようになる。そうしたら必要な行数分、複製

〔注9〕「表示」メニューの「ヘッダーとフッター」を選んで、ヘッダー領域に下絵を貼り付け（ワード2007以降では「挿入」タブの「ヘッダー」→「ヘッダーの編集」）。事前にページ設定（図6）の「その他」タブで、ヘッダー／フッターの用紙端からの距離を「0」にしておく

横位置はタブで調整する



図43 「Tab」キーで区切って年月日を入力[注10]。水平ルーラーの左端を何度かクリックして「右揃えタブ」を表示したら、水平ルーラーの下部を2カ所をクリックする。ワード2007/2010では「表示」タブで「ルーラー」にチェックを入れて水平ルーラーを表示する



図44 2つの右揃えタブマーカーが追加され、月と日の右端がそれに揃う。「Alt」キーを押しながらタブマーカーをドラッグして位置を微調整する。「Alt」キーを押さずにドラッグすると、文字幅単位でしか調整できないので注意しよう



図45 完成したらテキストボックスの外枠をドラッグして下絵に合わせる。細かい位置は上下左右の矢印キーを押して微調整するとよい。ボックスが透明なのでパッチリ決まる

文字の縦横比と間隔を調整してねじ込む

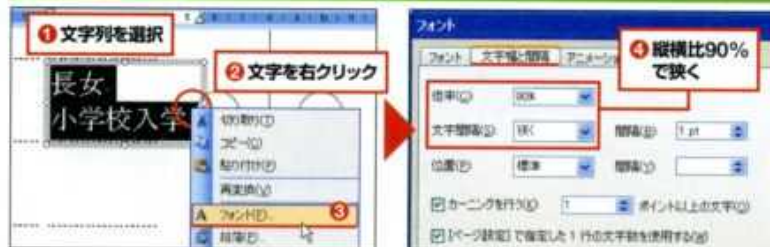


図38 文字列を選択して右クリックし、「フォント」を選ぶ（外枠を右クリックしないように注意）。「文字幅と間隔」タブを開き（2010では「詳細設定」タブ）、倍率（文字の縦横比）と文字間隔を調整する。パーセンテージが小さいほど文字は縦長になる



図39 うまく下絵の入力欄に収まった。長めのサンプル文字を入れて試行錯誤するとよい

座右の銘を簡条書きにする

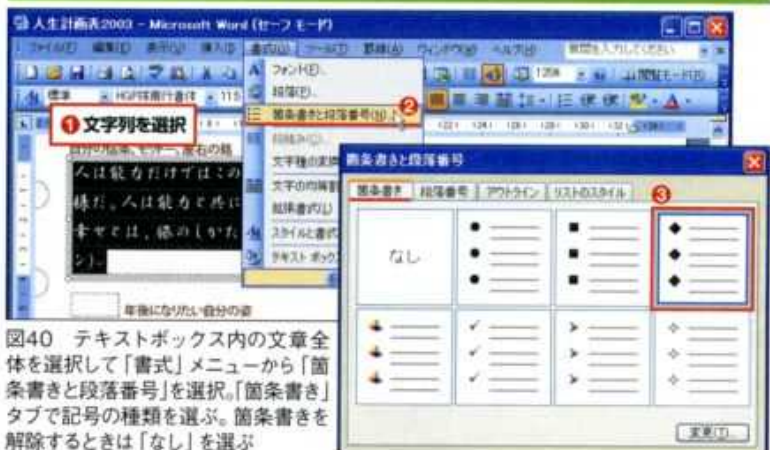


図40 テキストボックス内の文章全体を選択して「書式」メニューから「簡条書きと段落番号」を選択。「簡条書き」タブで記号の種類を選ぶ。簡条書きを解除するときは「なし」を選ぶ

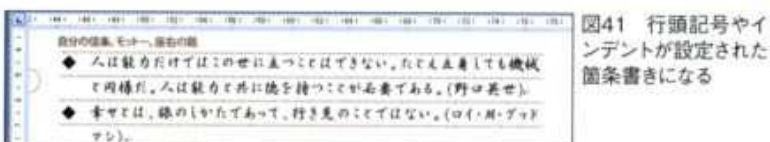


図41 行頭記号やインデントが設定された簡条書きになる

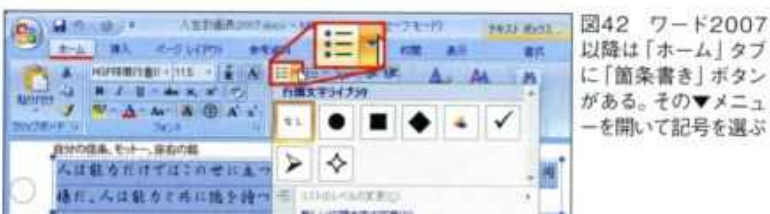


図42 ワード2007以降は「ホーム」タブに「簡条書き」ボタンがある。その▼メニューを開いて記号を選ぶ

ワードのワザを総動員してとことんスマートに作る

ぜひ覚えておきたいのが、文字の横位置を調整するタブ機能だ。これを使うと年月日の入力欄などをスマートに作れる（図43～図45）。「Tab」キーを押すと、見えないタブ文字が入力され、その位置を水平ルーラーで調整できる。タブ文字で年月日を区切って入力し、下絵に合わせてタブの位置を調整

する（前ページ図36）。複製後のものも含めて2個、4個、8個と倍々ゲームで複製していけば、大きな表でもアツという間に作れる。位置合わせはもちろん、くだんの整列機能で行う。まず左端を揃えたら、さらに「上下に整列」で複数のボックスを上下等間隔に並べる（図37）。このテクニックは必修と心得よう。手作業でちまちま並べていたら、無敵の下絵作戦も竜点晴を欠いてしまう。

テキストボックスではワードの文字装飾機能のほとんどが使える。例えば文字の縦横比や間隔を調整して、長い文章をボックスに詰め込むといった芸当ができる（図38、図39）。簡条書きも使えるので、座右の銘などを列挙する際に重宝する（図40～図42）。

[注10] バージョンによっては、「2010」に続けて「Tab」キーを押すと今日の日付が入る。不要な文字を消して再度、「Tab」キーを押そう
[注11] ワード2007以降では用紙外のグレー部分をクリックすると、本文全体が選択される（左上の本文カーソルが点滅せずに改行文字が反転する）。この状態で写真などを挿入すると、既存データが一切消滅することがあるので注意する

氏名は均等割り付けが美しい

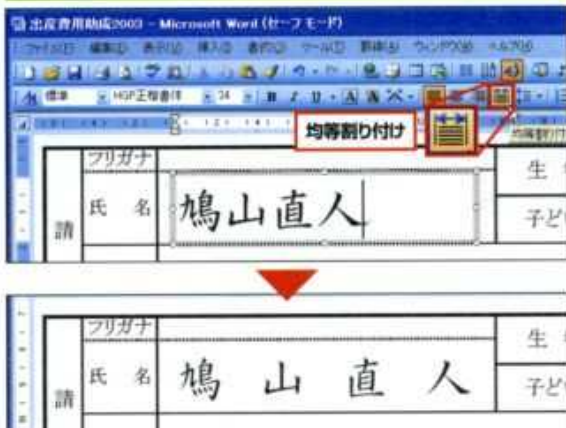


図50 ボックス内の段落にカーソルを置いて「均等割り付け」ボタンをクリックする(2007/2010では「ホーム」タブにある)

チェックマークはフォントで工夫



■お支払い方法
☒ クレジットカード

図51 半角の「P」を入力してフォントを「Wingdings 2」に変えるとチェックマークになる[注12]。直線などの図形で描くよりも美しく仕上がる

アンケートの丸印は図形で

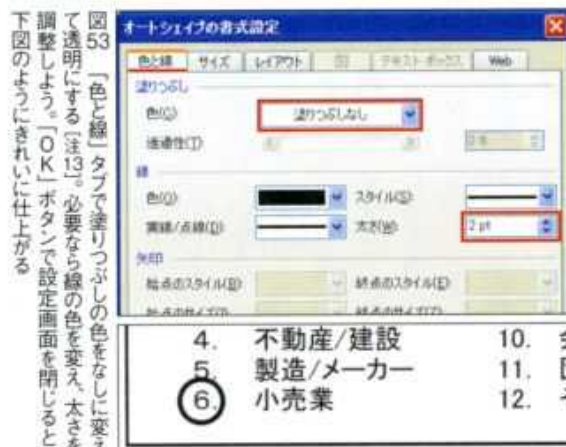
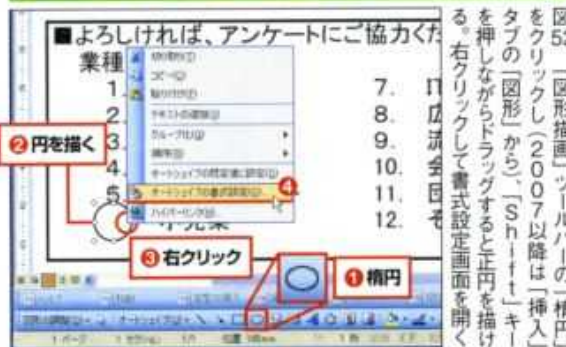


図53 「色と線」タブで塗りつぶしの色を白に変更する。必要なら線の色も変更する。調整しよう。「OK」ボタンで設定画面を開くと、下図のようにきれいに仕上がる

イラストや文字入り図形を追加する



図46 「挿入」→「図」→「クリップアート」を選び、2007以降は「挿入」タブで、作業ウィンドウが開いたらキーワードで検索。いったん下絵を選択してから、イラストをクリックする[注13]。図が挿入されたら、選択して「テキストの折り返し」(図11参照)を「前面」に変える(下図)



図47 内部をドラッグして移動させ、周囲の白丸(サイズ変更ハンドル)をドラッグして大きさを変更する。以上の手順は「挿入」→「図」→「ファイルから」で写真を入れる場合も同様だ



図48 「図形描画」ツールバーの「オートシェイプ」(2007/2010では「挿入」タブの「図形」)で図形の種類を選び、下絵の上をドラッグして描く。移動やサイズ変更の方法はテキストボックスと同じ。調整ハンドルをドラッグすると吹き出す位置を変えられる

背景を白にしたボックスでレタッチ



図49 文字を修正したいときは、似たような書体で入力し、テキストボックスの塗りつぶしの色(図24左)を白にして下絵に重ねる

すればよい。年月日を3つのテキストボックスに分けて入力するよりも、後々の修正がしやすい。以上、PDFへの入力といっても、使っているのはワードの基本テクニックばかりだ。このほかにもイラストや写真の挿入、オートシェイプ(図形描画)、段落書式、絵柄フォントなど、ワードのワザを縦横無尽に駆使できる。下絵作戦で役立ちそうなテクニックを図46、図53にまとめた。

なお、イラストやデジカメ写真を挿入する際は選択状態に注意しよう(図46)。テキストボックスが選択されていると、その中に挿入されてしまう。下絵を選択した状態で挿入するのが確実だ。

[注12] 「Wingdings 2」は機種によっては付属しない。その場合は「挿入」→「記号と特殊文字」でチェックマークの絵柄を探そう。フォントが「MS明朝」の場合、ユニコード(Unicode)の2713番や2714番がチェックマークの絵柄だ
 [注13] ワード2010では「図形の書式設定」を選ぶと、2007以前とは異なる画面が開くが、要領は同じ。「塗りつぶし」を変更する

手書き不要！パソコンでぎゅいに文字入力

書き損じなし！PDFの申請書にキーボードでラクラク文字入力

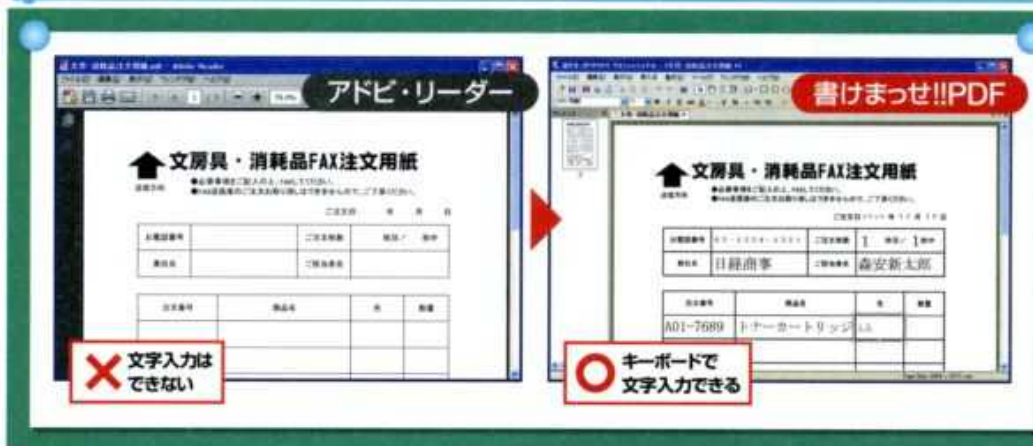


図1 PDFで配布される申請書に、いちいち手書きで記入するのは面倒。しかし、市販ソフト「書けませ!!PDF」を使うと、パソコンで文字入力できるので、すばる便利だ。

「書けませ!!」なら入力枠を自動作成



図2 「書けませ!!PDF」で申請書に文字入力するのは簡単だ。罫線を自動認識して、入力枠をワンタッチで作成してくれるからだ。後は入力枠に文字を入力するだけでよい

最近では、市役所への申請書類がPDF形式でウェブサイトから入手できるようになった。また、取引先とやり取りする発注書やさまざまな申込書などもPDF形式で提供されることが増えている。これらの文書は、一度印刷して、そこに手書きで入力するために配布されているのだが、この手書き作業がかなりストレスになる。パソコンでの入力に慣れていると、そもそもペンを待つのが面倒くさい。字を書く機会が減ったので漢字も忘れていく。そして途中で間

違えると、最初からやり直した。「パソコンで直接PDFに文字を入力できたら」と熱望する方も多いだろう。パソコンで消書すれば、書き損じは一切なくなるし、記入済みのPDFを保存しておける。次に使うときは、日時などを微修正するだけで再利用できるから、日々扱う商品の発注書を入力する手間が格段に減らせる。ところが、アドビ・リーダーは新版でも文字入力できない。フォックスリット・リーダーでは、テ

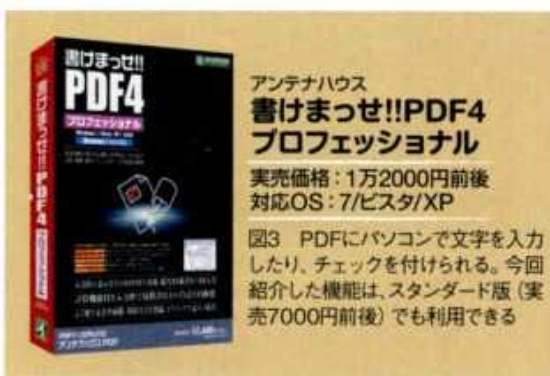


図3 PDFにパソコンで文字を入力したり、チェックを付けられる。今回紹介した機能は、スタンダード版（実売7000円前後）でも利用できる

キストボックスを作って入力できるが、いちいち入力枠を設定するのはかなり面倒だ。申請書のようには大量の入力欄がある場合は、現実的な解決策ではない。そこで登場するのが、市販ソフトの「書けませ!!PDF」。申請書などへの書き込みで特化したソフトだ。このソフトが優れているのは、罫線を自動認識して、ワンタッチで入力枠を作成してくれること。チェックマークや「○」も入力できる。住所や会社名を登録しておいて、ワンタッチで入力することも可能だ（図1～図3）。

枠設定からデータ登録まで書けませ!!を使い尽くせ

では、使い方を見ていこう。申請書を開いたら、「挿入」メニューから「テキストボックス」→「ページ全体に自動作成」を選択する。これだけで自動的に入力枠が設定される（図4、図5）。

ただし、これだけでは不完全なところがある。枠内に複数データを入力する箇所や、罫線で囲まれている入力項目などは、枠のサ

【注1】フォックスリット・リーダーで入力できる文字列はあくまで「注釈」なので、PDFの文書そのものを書き換えられるわけではない。注釈は、PDFのリーダーソフトによっては正しく表示されないケースもある

●文字サイズを枠いっぱい自動調節



図8 すべての入力枠を選択したら
(1)、「表示」メニューから「プロパティ
ペイン」を選ぶ(2)。画面右に表示さ
れた設定項目で、「自動フォントサイズ」
のチェックをオンにする(3)

●キーボードから文字を入力する

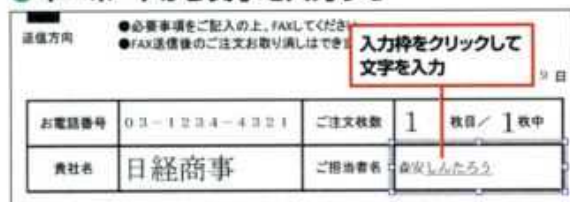


図9 入力枠をクリックすると、カーソルが点滅して文字を入力でき
る。次の入力枠に移ると、文字サイズが自動調節される

●チェックボックスもドラッグで楽々入力

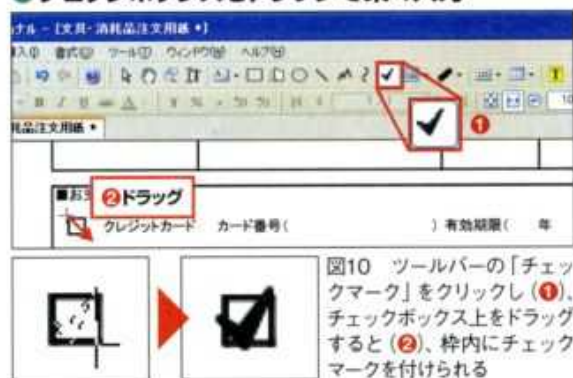


図10 ツールバーの「チェ
ックマーク」をクリックし(1)、
チェックボックス上をドラッ
グすると(2)、枠内にチェッ
クマークを付けられる

●番号や記号、選択肢を「○」で囲む

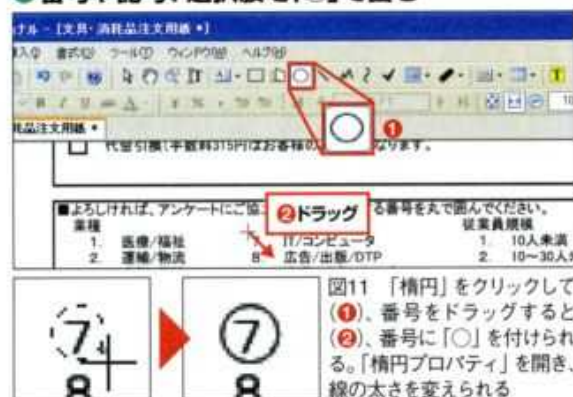


図11 「楕円」をクリックして
(1)、番号をドラッグすると
(2)、番号に「○」を付けられ
る。「楕円プロパティ」を開き、
線の太さを変えられる

イズの調整や、入力枠の新規作成
が必要になる。サイズ調整は、入
力枠の枠線をドラッグするだけで
よい(図6)。新しい入力枠は、ツ
ールバーの「テキストボックス」を

選び、文書上をマウスでドラッグ
すれば作成できる(図7)。
初期設定では、枠内の文字は11
ポイントのサイズになるが、枠に
比べて小さすぎることが多い。プ

ロパティで「自動フォントサイズ」
をオンにすれば、入力枠いっぱい
になるよう自動調節される(図8)。
設定変更が終わったら、実際に
記入してみよう。文字は入力枠を

マウスで選択して入力する(図9)。
ツールバーの「チェックマーク」を
選んで指定した場所をドラッグす
ればチェックマークを入力できる
し、「楕円」を選んで番号をドラッ

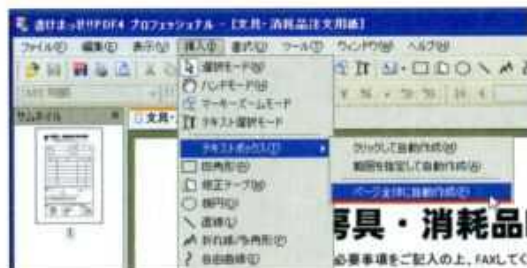


図4 書けまっせ!!PDFで申請書を開いたら、「挿入」メ
ニューから「テキストボックス」→「ページ全体に自動作成」を選ぶ



図5 入力枠が作成される。「お客様番号」「貴社名」とい
った「項目名」欄にも入力枠が設定されるが、無視してよい

●入力枠のサイズや位置を調整する



図6 枠内に文字があるなどの理由で入力枠を縮める必要が
あるときは、枠をクリックして選択し、枠線をドラッグする(1)。
それだけで入力枠が小さくなる(2)

●新たに入力枠を作成する

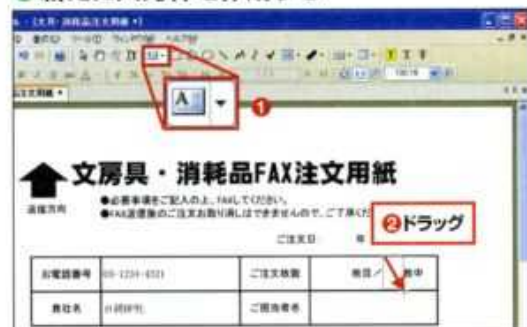
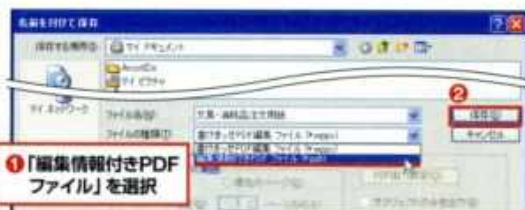
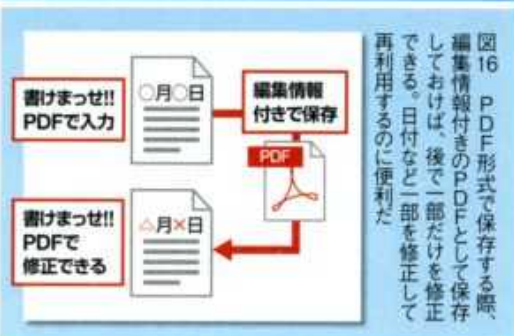


図7 新しい入力枠が必要なときは、ツールバーの「テキ
ストボックス」をクリックし(1)、文書中で文字を入力したい部
分をドラッグすればよい(2)

PDF形式で保存した文書を後で修正



編集禁止のPDFにも書き込める

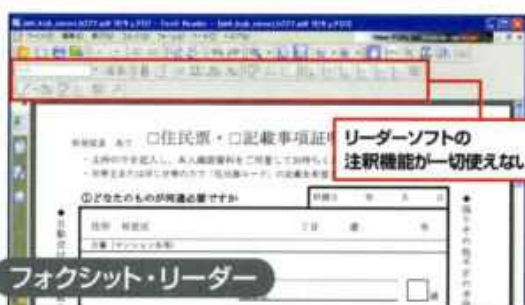


図19 通常の閲覧ソフトなどでは、編集禁止のPDFに書き込めない。フォックス・リーダーで編集禁止のPDFを開いても、テキストボックスなどの注釈ツールが一切利用できない。



図20 書けまっせ!!PDFで開くと、普通に開いただけなのに、前ページ図4～図11の要領で入力枠を設定し、文字入力したり、チェックマークを付けたりできる。

グすればそこに丸も付けられる(前ページ図10、図11)。

申請書には、住所、会社名、氏名など、お決まりのデータを入力することが多い。こうしたデータは、あらかじめ「データトレー」に

登録しておけば、ワンタッチで入力できる(図12～図15)。

書けまっせ!!PDFで文字などを記入した文書は、PDF形式で保存できる。このとき、一般的なPDFと編集情報付きのPDFが

選べる。後者なら入力データを後から書き換えられるので、一部だけを書き換えて毎月提出する書類などは、この形式で保存しておく(図16、図17)。

申請書の中には、編集禁止の設定

定になっているものがある。そうしたPDFは、フォックス・リーダーで開いても、テキストボックスを設定できない。しかし、書けまっせ!!PDFなら、文字を入力できる(図18～図20)。

登録済みのデータでワンタッチ入力

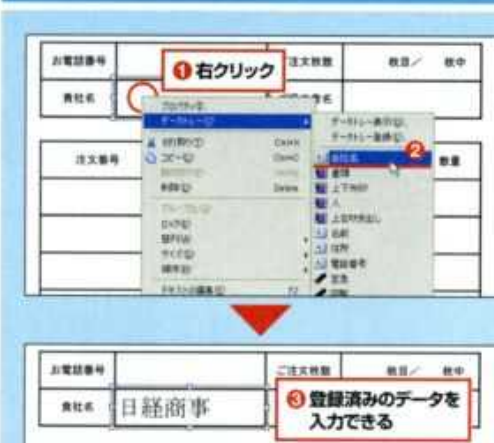


図12 住所、会社名、電話番号などはあらかじめソフトに登録しておこう。入力枠を右クリックし(1)、表示された項目から「データトレー」を選び、登録済みデータを選ぶと(2)、登録データを入力できる(3)。

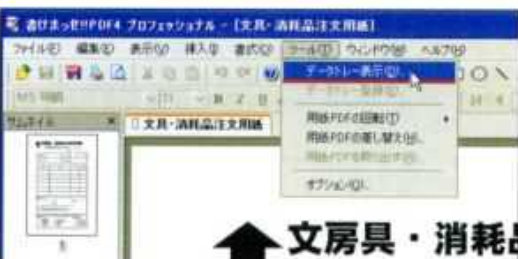


図13 データを新規に登録するには、「ツール」メニューから「データトレー表示」を選ぶ。

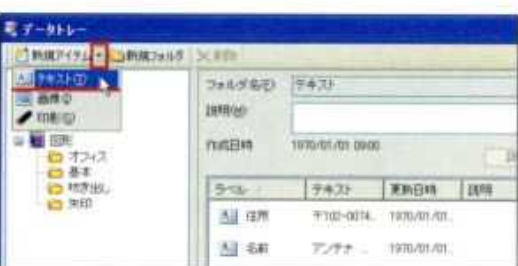


図14 「データトレー」画面が開く。「新規アイテム」の右にある「▼」をクリックし、開くメニューで「テキスト」を選べば、データの入力画面が開く。



図15 登録するデータに付ける項目名を「ラベル名」欄に入力し(1)、「テキスト」欄に社名や住所などのデータを入力し(2)、「閉じる」を押す(3)。

[注2] 元のPDFをキューブPDFで作成した場合、「…用紙PDFファイルをそのまま出力できないため、描画データを出します」と表示されるが、書けまっせ!!PDFの「ファイル」メニュー→「PDF出力設定」で「PDFのバージョン」欄を「PDF1.7」にあらためておけば、前述のメッセージは表示されない。

アドビ・リーダーで文字入力できるPDFの作り方

最近ではアドビ・リーダーで入力できるPDFを配付する例が増えてきた(図1)。こうしたPDFは、文字の入力枠である「フォーム」があらかじめ設定されている。

フォーム付きのPDFは、「アドビ・アクトバット」や「いきなりPDF EDIT 7」のように、フォーム作成ができるソフトで作成されている。もしPDFで記入用の

書類を配布することがあるなら、フォーム付きでPDFを作成すると親切だ。ここでは、いきなりPDF EDIT 7を使って、文字の入力枠、ラジオボタン、チェッ

クボックスを作る方法を示した(図2~図8)。なお、こうしたPDFは「入力と印刷はできるが、保存はできない」という仕様になっていることが多い(注)。

アドビ・リーダーでPDFに文字入力

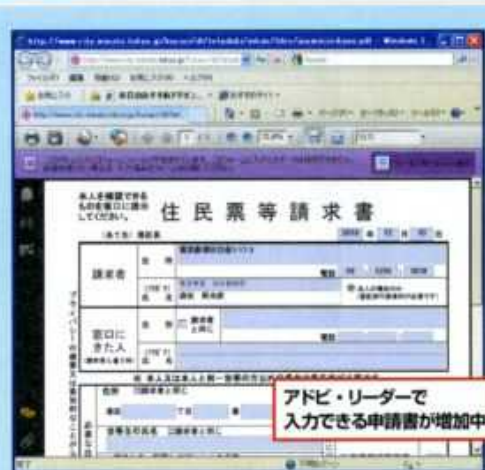


図1 公的機関や企業で配布されるPDFで、アドビ・リーダーで文字入力できるものが増えてきた。こうしたPDFは、個人でも作成できる



ソースネクスト いきなりPDF EDIT 7

実売価格：6980円
対応OS：7/ビスタ/XP

図2 PDF作成、加工、文字修正などに対応した多機能なPDF編集ソフト。フォーム機能を使って、入力可能なPDFを作成できる

文字の入力枠を作成する



図3 まずは、フォームを作成するツールをツールバーに表示させる。ツールバーを右クリックし(1)、「フォームツール」を選択する(2)

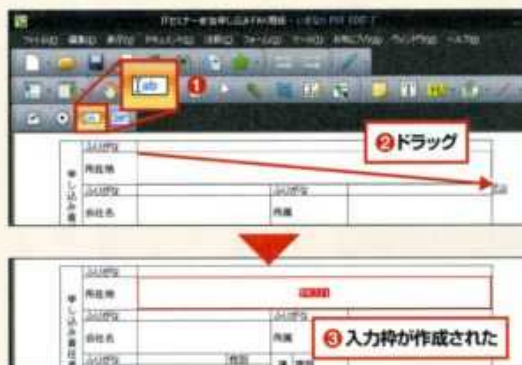


図4 PDFの申請書などに文字の入力枠を作るには、「テキストフィールドツール」をクリックし(1)、入力欄をドラッグする(2)。これで入力枠ができる(3)

ラジオボタンも作成できる



図5 「ラジオボタンツール」をクリックし(1)、ラジオボタンを作りたい範囲をドラッグする(2)

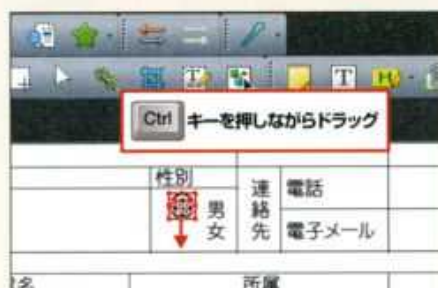


図6 「Ctrl」キーを押しながら、作成されたラジオボタンを別の場所にドラッグすると... (→図7)



図7 ラジオボタンがコピーされる。このやり方で作成すると、複数のボタンのうち、一方にしか「・」が入らない

チェックボックスを作成する

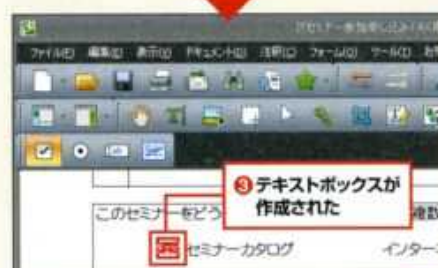


図8 「チェックボックスツール」をクリックし(1)、チェックボックスを作りたい範囲をドラッグすれば(2)、チェックボックスが作成される(3)

[注] アドビ・アクトバットでは、アドビ・リーダーで保存可能なPDFも作れる

わざわざなミスはPDFで手早く修正

PDF内の文字の書き換えも写真の差し替えもOK



図1 誤字脱字を見つけたら、写真の入れ違いを見つけたときは、元のファイルを修正するのが常道だ。しかし、市販ソフトを使えばPDFを直接編集することもできる

PDF文書内の間違った文字を修正



図2 ツールバーの「テキスト編集ツール」を選択し(①)、修正したい文字をクリックする(②)。すると、カーソルが点滅するので、「Delete」キーを使って文字を削除する(③)



図3 キーボードから文字を入力する。入力した文字を変換して確定すると、文書内に文字が追加される[注]。これなら、誤字脱字の修正はもちろん、文章の入れ替えも朝飯前だ

せっかく作ったPDF文書の提出直前に、誤字脱字を発見することがある。書類の完成後に状況が変わって、文字や写真を差し替えなければならないこともある。こんなときは、元のワードファイルなどに戻って文書を修正し、PDFを再度作成するのが基本的な解決方法になる。

ところが、思いがけずピンチに陥ることがある。元のワードファイルが手元にない場合だ。しかし、慌てる必要はない。そんなときでも、29ページで紹介した市販ソフト

「いきなりPDF EDIT 7」を使えば、PDFを直接編集して、文字を書き換えたり、写真を差し替えたりできる。レイアウトが変わるような大直しまではできないが、かなりの修正が可能だ(図1)。

これらの作業は、「アドビ・acrobat」でも実現できるが、acrobatは実売価格が3万円以上と高い。それがいきなりPDF EDITなら7000円程度で実現できてしまう。機能の豊富さではacrobatに及ばないとはいえ、利用価値はとても高い。

フロッピー並みに文字修正 写真の追加まで可能

早速やり方を見ていこう。まずは、文字の差し替えだ。修正したいPDFを開いたら、「テキスト編集ツール」を選び、削除したい文字をクリックする。これで文字が編集できる状態になるので、必要な文字を消去する(図2)。そこに文字を入力すれば、そのまま追加できる(図3)。ほとんどワープロ感覚で文字を直せる。

このとき、「フォントが環境に

[注] 「…編集時に代替えフォントを使用しました」と表示され、自動的にフォントの調節がされることがある



図9 挿入できるクリップアートが画面右に一覧表示される。ここに写真を追加するため、「一覧」の上に表示された「+」をクリック



図10 「ブラウザ」をクリックし、開く画面で挿入したい写真を選択する(1)。その写真に「グループ」と「名前」を設定し(2)、「OK」を押す(3)



図11 写真が登録されるので、その写真を選択し(1)、写真を挿入したい範囲をドラッグする(2)。これで写真が挿入される



図12 図7で写真をクリックすると、帯状の一部分だけが選択されることがある。「Shift」キーを押しながら、前後をクリックして、写真全体を選択すればよい

ないため、編集できません」というエラー画面が表示されることがある。その際は、文字列を選択し、パソコン内にあるフォントに変更すると、文字の修正が可能になることが多い(図4、図6)。

続いて、写真の差し替えた。作業は、①不要な写真の削除、②新しい写真を登録、③写真を挿入、という手順で進める。
まずは、「オブジェクト編集ツール」で不要な写真を選択し、右ク

リックで削除(図7)。次に、「ドキュメント」メニューから「クリップアートを挿入」を選び、新しい写真を登録する(図8、図10)。最後に、登録した写真を選び、挿入する範囲をドラッグして指定する(図

11)。これで差し替えは完了だ。なお、写真を選択するとき、全体を指定できないことがある。そのときは、「Shift」キーを押しながら、隣接領域をクリックして、選択範囲を広げればよい(図12)。

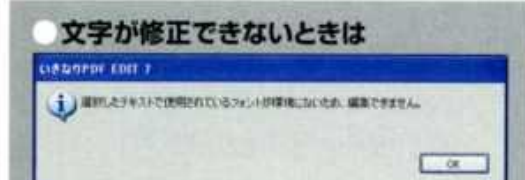


図4 「Delete」キーを押すと、「...フォントが環境にないため、編集できません」と表示されることがある



図5 文字列をクリックした後、その枠内のすべての文字列を選択し(1)、文字列上で右クリックして(2)、「プロパティ」を押す(3)

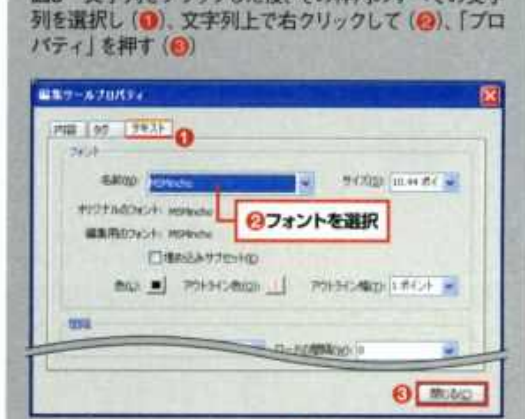


図6 「テキスト」タブを選び(1)、「フォント」欄の名前を一覧表示された中から選ぶ(2、3)。多くの場合は、これで解決する

ほかの写真に差し替える



図7 まず「オブジェクト編集ツール」を選択する(1)。次に写真をクリックして選択した後、写真を右クリックし(2)、「削除」を選ぶ(3)



図8 画像が消去されたことを確認する。次に、新しい写真を挿入する。「ドキュメント」メニューから「クリップアートを挿入」を選ぶ

「本家」ソフトなら作成から編集まで自在！

「PDF」は、アドビシステムズが開発した電子文書の規格だ。標準のPDF閲覧ソフトとして広く使われている「アドビ・リーダー」も同社の製品。そんなPDFの本家が提供しているPDF作成ソフト

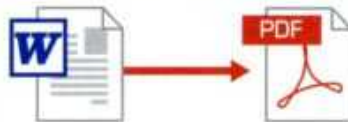
が「アドビ・アクロバット」だ。アクロバットは、PDFの作成だけでなく、ページ加工、注釈の追加、文字修正、PDFからワード文書への逆変換まで、PDFにかかわるあらゆる機能を網羅した

非常に多機能なソフトだ。PDF関連のさまざまな作業を、これ1本でこなせるのが大きな魅力となっている。多機能で、純正品。だけに価格も高い。一般的な企業ユーザー

向けの「スタンダード」版で実売3万7000円程度、すべての機能が使える「プロ」版は5万7000円程度。個人利用者にはやや高いが、仕事でPDFを作成する業務に携わっているなら、購入を

本家アクロバットなら、1本であらゆる作業をこなせる

1 高品質のPDFを作成できる



2 ページ単位の加工も自在



アドビ・アクロバット

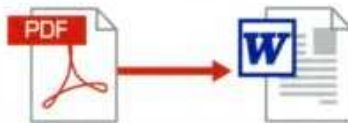
1本でPDFに関するさまざまな処理をこなせる



3 PDFに注釈を付けて「添削」



5 PDFからワード文書に変換



4 PDF内の文字修正

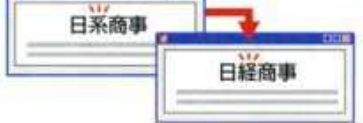


図1 本家アドビシステムズのPDF作成ソフトが「アドビ・アクロバット」だ。PDF作成はもちろん、ページ加工、注釈の追加、OCR機能、文字の編集、画像の差し替え、PDFからワード文書への変換など、さまざまな機能を1本でこなせる。11月には最新の「アクロバットX (テン)」が登場した



図4 ソフトの「印刷」画面で、プリンターを「Adobe PDF」にして印刷を実行しても、PDFを作成できる。画面はエクセル2002のもの。「プロパティ」で品質やセキュリティ設定を変更できる

1 高品質のPDFファイルを作成

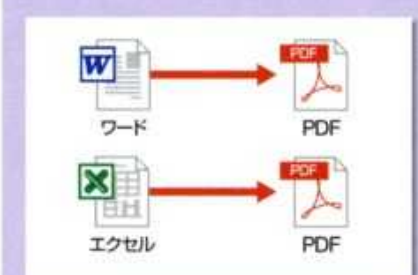


図2 アクロバットなら、ワードやエクセルから高品質のPDFを作成できる。ウェブサイトの複数のページをまとめてPDF化することも可能



図5 オフィス文書のアイコンを右クリックして、「Adobe PDFに変換」を選んで、PDF文書を作成できる



図3 アクロバットをインストールすると、ワードやエクセルなどのツールバー(リボン)に、PDFの作成ボタンが追加される(①②)。ここからPDFを作成できる[注2]

[注1] ここでは、アクロバットXのベータ版を使用した。製品版とは画面や操作が若干異なる可能性がある

[注2] 「環境設定」ボタンを押せば、作成するPDFの品質やセキュリティ設定などを変更できる。なお、アクロバットXをインストールして、ツールバーにボタンが表示されるのは、オフィス2003以降になる

4 PDFの誤字・脱字を修正

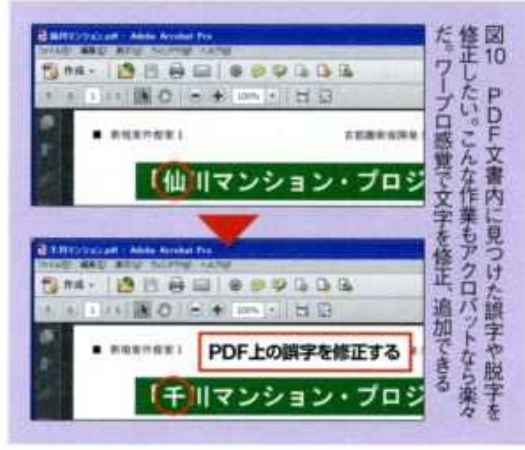


図10 PDF文書内に見つかった誤字や脱字を修正したい。こんな作業もアクロバットなら楽々だ。ワープロ感覚で文字を修正、追加できる。

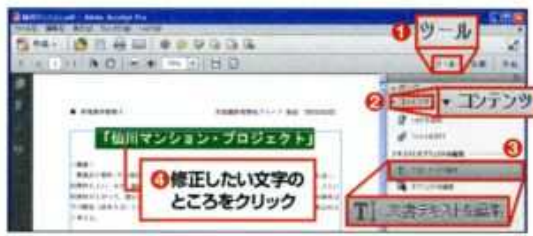


図11 まず、「ツール」メニューから「コンテンツ」→「文書テキスト」を選ぶ(①～③)。次に、修正したい文字をクリックする(④)。



図12 ここで修正したい文字を消去したら(左図)、正しい文字を入力すれば修正完了だ(右図)。

●新たに文字を追加することもできる

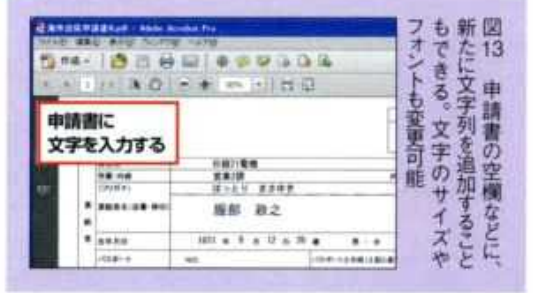


図13 申請書の空欄などに、新たに文字列を追加することもできる。文字のサイズやフォントも変更可能。



図14 「文書テキストを編集」を選択した状態で(①～③)、「Ctrl」キーを押しながら入力したい場所をクリック(④)。フォントなどの選択画面が出るので「OK」を選ぶ(⑤)。文書上に現れた「新規テキスト」に追加したい文字列を入力する。

2 ページの挿入、削除なども簡単

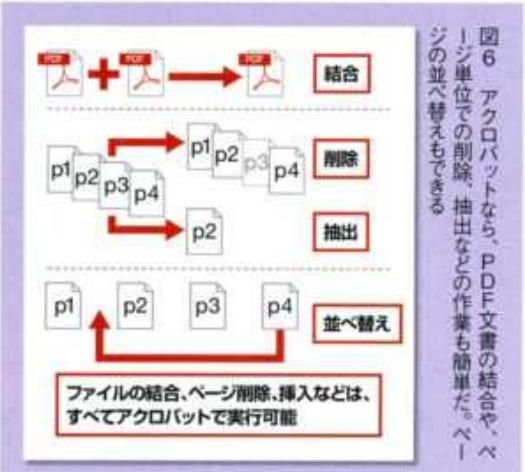


図6 アクロバットなら、PDF文書の結合や、ページ単位での削除、抽出などの作業も簡単だ。ページの並べ替えもできる。

検討する価値は十分にあるだろう。2010年11月には、使い勝手が向上した最新版の「アドビ・アクロバットX(テン)」が登場した。ここパート6では、アクロバットXの作成・書き込み機能を中心

に紹介しよう。作成・加工はお手のもの多彩な注釈も付けられるPDFの作成はとても簡単。アクロバットをインストールすると、

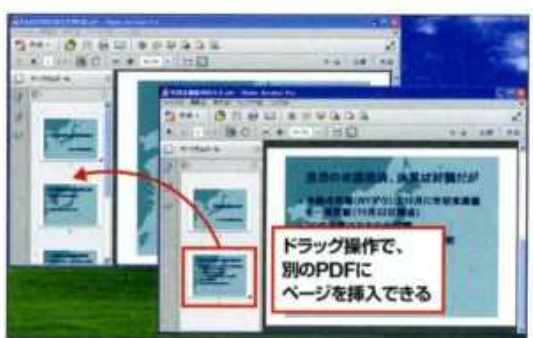


図7 PDFの一部ページを他のPDFに挿入したい。アクロバットなら、指定したページをドラッグするだけで実現できる。

3 注釈機能でメモやコメントを追加

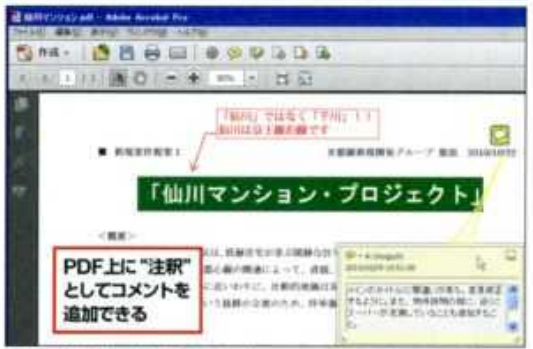


図8 打ち消し線や引き出し線、ノート注釈などの「注釈」も付けられる。アクロバットなら、20以上の注釈が利用できる。

ワードやエクセルのツールバーに作成ボタンがあるので、これをクリックするだけでよい(図2、図3)。パート1で紹介したフリーソフトと同じ要領で印刷を実行しても作成できる(図4)。変換

元のオフィス文書のアイコンを右クリックして、「Adobe PDFに変換」を選んでも作成可能だ(図5)。フリーソフトと比べて、高品質のPDFを作成できる。PDF文書の結合、文書内のベ



図9 注釈を追加するには、「注釈」メニューを選び(①)、書き込みたい注釈を選択(②)。次に貼り付ける場所をクリックして(③)、コメントなどを入力すればよい(④)。

5 PDF⇒ワードに逆変換も可能

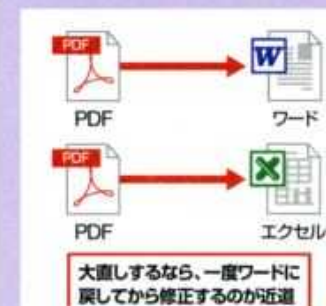


図19 アクロバットには、PDFからワード、エクセル文書に変換する機能もある。PDFを大幅修正する場合は、ワード形式に一度戻して、ワードで再編集した後、再度PDFにするという。

ージ削除や抽出、並べ替えといったページ単位の加工も楽々こなせる(前ページ図6、図7)。注釈を付ける機能も充実している(図8)。最新の「アドビ・リーダーX」でも注釈を付けられるよ

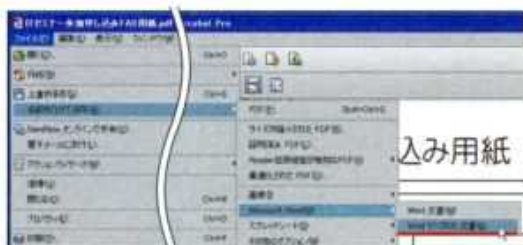


図20 ワード形式に変換するには、「ファイル」メニューから「名前を付けて保存」→「Microsoft Word」とたどる

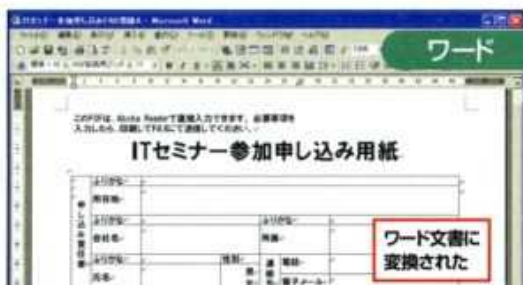


図21 アクロバットを使って、PDFをワード形式に変換した文書例。元のPDF文書の文字情報やレイアウトなどがきちんと保持されている

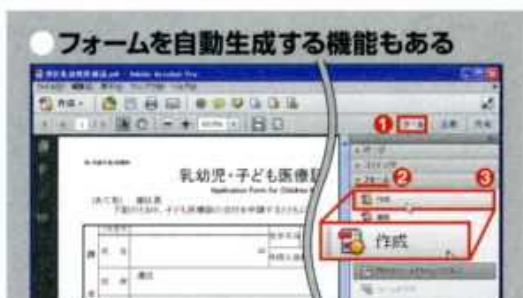


図22 アクロバットを使うと、アドビ・リーダーで文字を入力できる「フォーム」付きのPDFも作成できる。「ツール」から「フォーム」→「作成」を選ぶ(1~3) [注3]



図23 文書内の罫線情報から、入力フォームが自動生成される。生成されないという場合は、手動で作成(1、2)

[注3] フォーム付きPDFについては33ページを参照。アクロバットで作成したフォーム付きPDFは、アドビ・リーダーで入力した情報を保存できるように設定できる

「プロ」なら画像の差し替えも



図15 「アクロバット・プロ」なら、PDF文書内の画像の編集が可能。場所の移動、サイズの縮小・拡大、画像の差し替えなどができる



図16 画像を編集するには、「ツール」メニューから「コンテンツ」→「オブジェクトを編集」を選び(1~3)、対象画像をクリックする(4)。選択した画像は場所の移動やサイズ変更が可能

● 文書内の画像を別の画像に差し替える

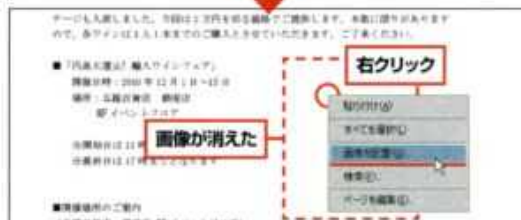


図17 画像を差し替えるには、まず文書内にある画像を削除する(上図)。次に画像を貼り付けたい場所で右クリックして「画像を配置」を選ぶ(下図)



図18 図17の操作で開く画面で、差し替え画像を選択すると、文書に画像が貼り付けられる。大きさを調整して、適切な場所に移動すれば、差し替え作業は終了だ

● アクロバットには「スタンダード」と「プロ」がある

ソフト名	アクロバットX スタンダード	アクロバットX プロ
実売価格	3万7000円前後	5万7000円前後
ワード、エクセルから PDF作成	○	○
ページ単位の加工 (結合、追加、削除など)	○	○
注釈の書き込み	○	○
ワード、エクセル ファイルへの書き出し	○	○
文字の修正、 編集、追加	○	○
文書内の画像の編集	×	○
フォームの作成	○	○
個人情報や機密情報の 削除(隠しツール)	×	○
動画や音声ファイルの 貼り付け	×	○

図24 アクロバットには、実売3万円台後半の「スタンダード」と同5万円台後半の「プロ」がある。プロ版なら、文書内の画像の編集や個人情報などの削除機能、動画や音声データを貼り付ける機能が使える

● アクロバット付きのドキュメントスキャナーも狙い目



アクロバット9
スタンダード付き

PFI
ScanSnap S1500
実売価格：5万円前後



アクロバット9
スタンダード付き

キヤノン
DR-2510C
実売価格：4万6000円前後

図25 PFIのドキュメントスキャナー「ScanSnap S1500」やキヤノンの「DR-2510C/2010C」にはアクロバット9が付属する。個別に買うより、割安にアクロバットを手でできる(注4)

「アクロバット・プロ」なら 画像の差し替えもできる

PDF文書内の画像の移動や差し替えは、「プロ」版で実行できる(図15)。「ツール」メニューから「オブジェクトを編集」を選んだ後、

クリックすると、そこに新規テキスト入力欄が現れる。ここに記入したい文字を書き込めばよい。この要領で、申請書の入力欄に文字入力することは可能だが、パート4で紹介した「書けまっせ!!PDF」のように入力欄は自動生成してくれないので、入力項目が多い文書には向かない。

画像をクリックすると、自由に移動やサイズの変更ができるようになる(図16)。画像を削除して、そこに新しい画像を貼れば、差し替え作業は完了だ(図17、図18)。アクロバットは、PDFからワード、エクセル文書に逆変換する機能も備える(図19、図21)。旧版のアクロバット9では、PDF文書中の表を選択して、エクセルのワークシートに書き出す機能はあったが、最新版のアクロバットXでは文書を丸ごとエクセル形式に変換できるようになった。また、アクロバットを使うと、アドビ・リーダーで文字を入力できるフォーム付きのPDFも作成できる(図22、図23)。

最後に、「スタンダード」と「プロ」の違いを整理しておこう(図24)。PDFの作成やページ加工、注釈の追加といった基本機能は、スタンダードもプロも共通だ。PDF文書の修正については、文字の修正は両パッケージ共通だが、画像の編集はプロだけになる。このほか、プロでは、個人情報や機密情報を消す機能(隠しツール)や、文書に動画や音楽ファイルを貼り付ける機能なども備える。アクロバットは、スタンダード版で3万円台後半もするため、1個

人が自腹で購入するのは辛い」と感じる人も多いだろう。そんな人に、安く入手できるワザがある。実は、PFIのドキュメント・スキャナー「スキャンナップS1500」やキヤノンの「DR-2510C」などを買えば、添付ソフトにアクロバットが付いてくるのだ(図25)。S1500は実売5万円前後なので、別々に買うよりかなり割安に入手できる。製品に付属するのは1バージョン古い「アクロバット9」になるが、PDFの作成・編集機能はほぼ同じだ。今、スキャナーの購入も考えているなら、積極的に活用しよう。

[注4] DR-2010Cの実売価格は3万5000円前後

蔵書の山を一掃！ 書籍と雑誌の両面作戦

もしあなたが読書好きで本をよく買う人なら、「大量の蔵書をうまく管理できないものか」と、1度は考えたことがあるはずだ。だが、何百冊、何千冊もある蔵書をきちんと管理するのは、そうたや

すくはない。たいていの人は、本棚にすき間なく書籍がギッシリ詰まっていることだろう。たまに書籍を整理しても、お気に入りの本はなかなか捨てられず、増える一方だ。

さらにやっかいなのが、雑誌の山だ。気になった記事をスクラップして保存しておこうと思っても、実際には作業が面倒で手付かずのまま。こうして、どんどん山が増えていく。こうなると、いざ読み

たい記事を探そうと思っても、なかなか見つからない。

また、書店でタイトルや表紙が気になって購入してはみたものの、読みかけのまま「とりあえず積んでおく」ことも多い。そのまま本棚の片隅に追いやられるか、果ては、買ったことすら忘れ、同じ本を再び買ってしまふこともある。

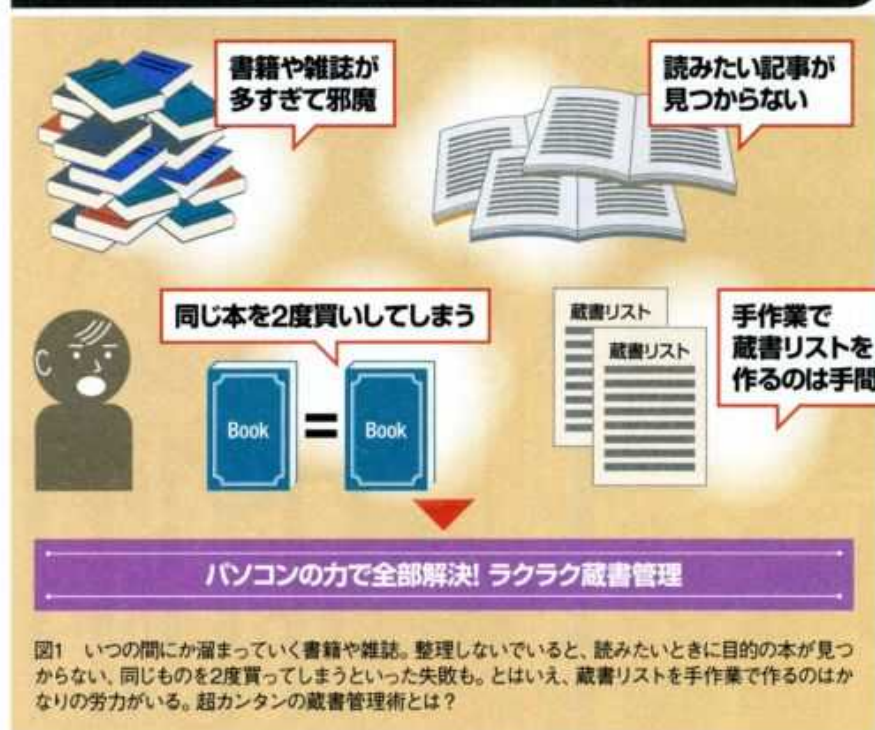
一念発起して、蔵書リストを作成しようと思えばいいが、途中で挫折するのがオチ。エクセルなどのソフトでタイトルや著者名、感想などを1冊ずつ入力するのは、とても面倒な作業だ(図1)。

読書好きな人なら、上記の事柄の2つか3つは思い当たるはず。そんな人には、ぜひこれから紹介する方法を試してほしい。

書籍を楽しんで整理する 手抜き蔵書管理のススメ

途中でくじけない蔵書管理のコツは、なるべく手間を掛けず上手に「手抜き」すること。続かず中途でやめてしまうのは、労力が掛かるからだ。

溜まる一方の書籍や雑誌をスッキリ整理したい



長続きする管理のコツは「労力を掛けない」こと

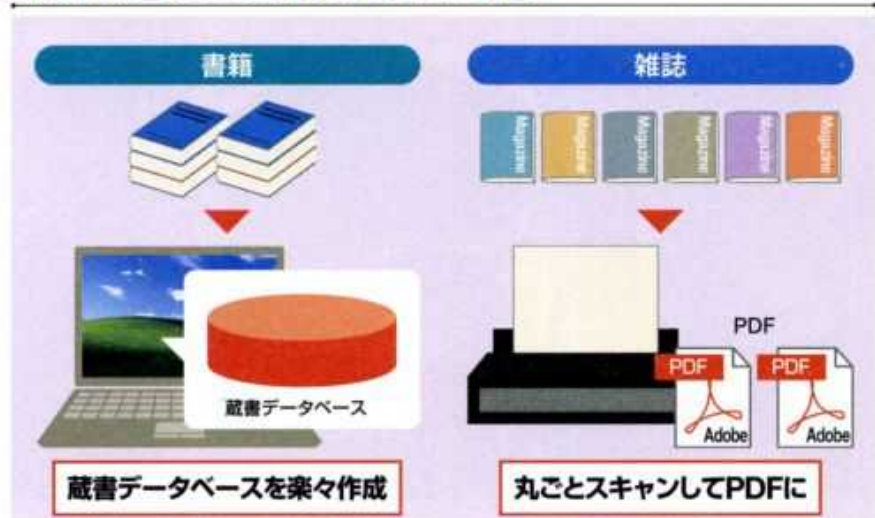


図2 面倒な作業は長続きしない。便利なソフトや機器をうまく活用して、上手に「手抜き」しよう。書籍は、蔵書管理専門のフリーソフトに登録してデータベースを作成。雑誌は、丸ごとドキュメントスキャナーでスキャンし、PDF化してしまおう

PART.1 ▶ P.40

蔵書リスト作成 ■ 読み取りは一瞬。数千冊のデータベースも楽々



図3 大量の書籍を楽々管理できるフリーソフト「私本管理プラス」を使って、データベースを作成。バーコードリーダーがあれば、一瞬で書籍のデータを読み取れる

PART.2 ▶ P.44

丸ごとPDF化 ■ 雑誌を裁断し、丸ごとPDFにする

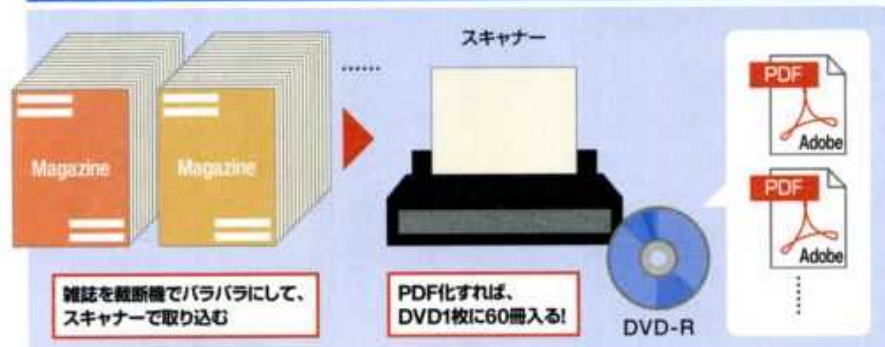


図4 雑誌を数冊まとめて裁断できる裁断機で一気バラバラに。これをドキュメントスキャナーで読み取り、PDFにする。PDFなら雑誌1冊が70MB程度。DVD1枚に60冊以上入る

今回は、便利なフリーソフトや、雑誌を一瞬で解体できる裁断機、ドキュメント専用スキャナーなどの道具をうまく活用して、徹底的に省力化を図っていく。スキャナーの価格も数年前に比べると、かなり下がっている。蔵書のデジタル化にはうってつけた。

まず、本棚に残しておきたいハードカバーなどの書籍は、すべてデータベース化して、いつでも情

報を検索できるようにしよう。蔵書管理専門の優れたフリーソフトを使えば、作業は簡単だ。気になる記事があつて、後で読み返したいと思う雑誌は、なかなか捨てられないもの。それならば、1冊丸ごとスキャンしてPDFに変換すればよい。そうすれば、紙の雑誌は一気に捨てられる。PDF化しておけば、キーワード検索が自在。読みたい記事をさっと探

せる(図2)。

ISBNを入力するだけ! 書名も表紙データも自動取得

では、もう少し具体的な手順を説明しよう。

書籍のデータベースを作成するには、蔵書管理専用の便利なフリーソフト「私本管理プラス」を利用する(図3)。

書籍には、ISBNという個別の記号が付いている。私本管理プラスは、ISBNを入力するだけで、本に関するデータや表紙画像をネット上のデータベースから自動で取得し、入力してくれる。タイトルや著者名などを手入力する手間が一切不要なので、作業は短時間ですむ。

コンビニやスーパーのレジでおなじみのバーコードリーダーを使えば、作業はもっと楽になる。6000円前後で購入できるうえに、使い方は驚くほど簡単。本のバーコードを読み取るだけで、一瞬でデータを自動入力できる。ものの10分で、50冊以上のデータベースを作れることも可能だ。

雑誌をPDF化する方法は、44ページ以降で紹介する(図4)。雑誌をスキャンするといっても、1ページずつカッターで切り取って

複合機のスキャナーで読み取るのは、手間が掛かりすぎる。途中で面倒になってやめてしまうだろう。そこで今回は裁断機で雑誌を丸ごとバラバラにして、ドキュメントスキャナーで一気に読み取る方法を紹介する。雑誌を数冊まとめて1度に解体できる裁断機と、裏表両面を同時に読み取れるドキュメントスキャナーを利用すれば、効率は段違いだ。裁断機は1万5000円前後、ドキュメントスキャナーは2万円台で購入できる。

DVD1枚に雑誌が60冊PDFなら良いことづくめ

150ページ程度の雑誌をPDF化した場合、容量は70メガバイト程度だった。最近パソコンに搭載されるハードディスク(HDD)の容量が飛躍的に増大しているので、HDDに保存しておいても大して邪魔にはならないだろう。

また、DVD-Rに保存しておく手もある。DVDは1枚数十円程度と安価なうえに、ディスクの容量は4.7ギガバイトもある。DVD1枚に雑誌が60冊以上は保存できる計算だ。

とにかく、雑誌のデジタル化は良いことづくめ。さっそく取りかろう。

一目瞭然! 溜まった蔵書を手軽にデータベース化!



図1 溜まった蔵書をパソコンで管理するなら、フリーソフト「私本管理プラス」がお勧め。面倒な手入力は不要。本の裏面に記されている「ISBN」という記号を入力するだけで、簡単に蔵書データベースが完成する

このパートでは、大量の書籍を楽に管理するため、蔵書データベースを作る方法を紹介しよう。無料の書籍管理ソフト「私本管理プラス」を使えば簡単だ。動作が軽快で、機能も豊富。数百冊、数千冊の蔵書でも、最小の手間で

管理・検索ができる(図1)。ISBNを基に書籍情報をアマゾンから取得する

まずは、ソフトをダウンロードして解凍し、起動しよう(図2)。

蔵書リスト作成ソフトの決定版



図2 ウェブサイトから、実行形式のファイルをダウンロード。これをダブルクリックすると解凍できる

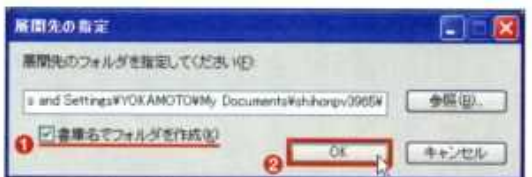


図3 解凍時に、「書庫名でフォルダを作成」をチェックして(1)、「OK」を押す(2)。すると「shihonpv3965」というフォルダが作られる。その中にソフト本体が入っている[注1]

「私本管理プラス」の優れている点は、ユーザーが手動でタイトルや作者名を入力する必要がないことだ。書籍販売サイト「アマゾン」からデータを取得して、必要な情報を自動入力してくれる。ユーザーは、ISBNや書籍JANコードと呼ばれる数字を入力するだけ。ISBNとは「International Standard Book Number」の略で、書籍を特定するためのコード番号のこと。書籍JANコードとは、バーコード規格に対応したもので、書店で販売される書籍に

必ず付いている(図5)。登録画面のISBN入力欄に、書籍のISBNコードを入力しよう(図6)。すると、自動的にインターネットに接続して書籍のデータをアマゾンから取得する。あっという間に、タイトル、作者、出版社などの情報が入力済みになっていることがわかる(図7)。さらに、「詳細登録」タブを開いてみよう。すると、本の価格やページ数、初版発行日、さらに内容や表紙の画像データまで自動で入力されている。「備考」欄には、自

バーコード入力で書籍リストを作成

[注1] 現在の最新バージョンは3.10.72 (2010年12月現在)。バージョンによって、フォルダの名前が変わる

保管場所や貸し出し状況もメモできる



図8 「詳細登録」タブを開くと、価格や発行日、本の内容、表紙画像も自動でダウンロードされているので、自分でデータを入力する手間が要らないのはありがたい。「備考」欄には感想など、自分用のメモを記入すればよい

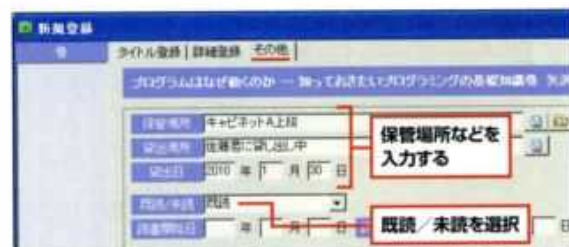


図9 「その他」タブには、保管場所や貸し出し状況を記入する欄がある。必要事項を入力し、「既読/未読」も選択しておこう。これらは検索の対象にできる



図10 入力が進んだら、「保存」ボタンをクリックする(1)。続けて別の本の情報を入力するには、「新タイトル」ボタンをクリック(2)。登録作業が終わったら「終了」ボタンを押せばよい

分のコメントなどを書き込んでおくとい(図8)。「その他」タブを開くと、保管場所や貸し出し状況など、個人的なメモ用の入力欄がある(図9)。こ

れらのデータは後から検索可能なので、どこにどんな本がしまっているか、すぐにわかる。また、既読/未読を選択しておけば、購入したまま読まずじまになってし

まうことも防げる。書籍の情報を記録するときには、「保存」ボタンを押す。続けて別の本を登録するには、「新タイトル」を選ぶ(図10)。

バーコードリーダーなら数千冊の蔵書も楽々

「蔵書が大量にあるので、いちいちISBNを入力するのが大変」。そんな人にお勧めなのが、バーコードリーダーを使う方法だ(次ページ図11)。

コンビニのレジなどでおなじみのバーコードリーダーは、商品のバーコード部分にかざすだけで、情報を次々と読み取れる。バーコードリーダーは、安価なものなら4500円前後で購入できる。ドライバーをインストールする必要もなく、パソコンのUSBポートに接続するだけで手軽に使える。バーコードリーダーは、パソコン上ではキーボードとして認識さ

書名から表紙画像まで自動で取得



図4 ソフトを起動して「ファイル」メニューから「新規登録」を選択すると、書籍データを新たに入力する画面が開く

書籍のISBNを入力する



図5 書籍や雑誌の裏表紙には、「ISBN-4-822-8101-9」のような数字が書かれている。これは、万国共通の書籍の「背番号」。さらに、バーコード部分には日本独自の「書籍JANコード」も記されている



図6 ISBN欄に番号を入力する。ハイフンは入力しなくてもよい(1)。入力が終わったら、(2)のボタンをクリックしよう

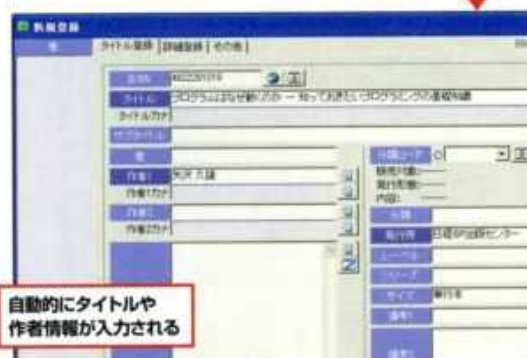
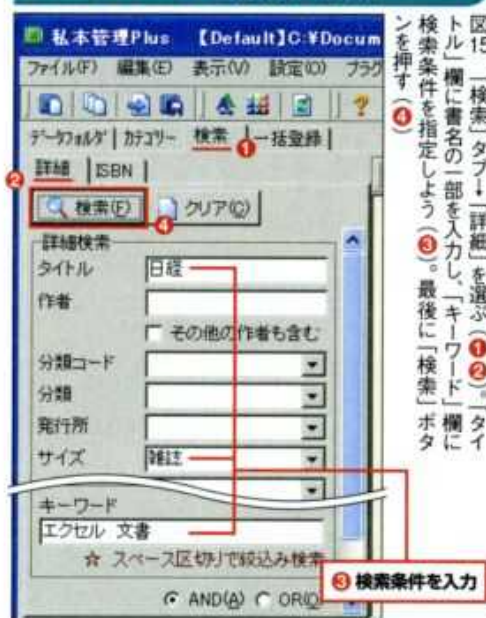


図7 自動的にネットに接続して、アマゾンのデータベースから該当する書籍の情報を取得する。タイトルや作者、出版社などの情報が自動的に入力される[注2]

[注2] アマゾンに書籍の情報がいない場合は、手動で入力する必要がある。また、アマゾンに表紙画像が登録されていない書籍では、表紙画像が表示されない

データベースを検索・活用



蔵書を自在にジャンル分け

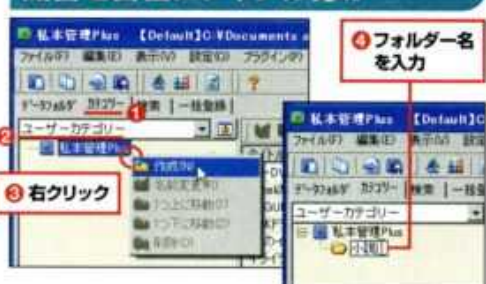


図17 「カテゴリー」→「ユーザーカテゴリー」を選び(1)(2)、「私本管理Plus」上で右クリック(3)。「作成」を選んで、作られたフォルダーに名前を入力する(4)

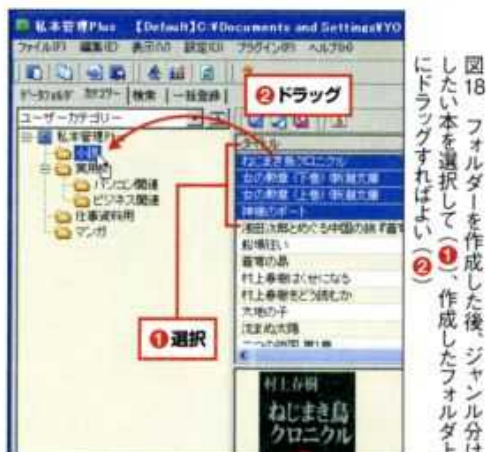


図18 フォルダーを作成した後、ジャンル分けしたい本を選択して(1)、作成したフォルダー上にドラッグすればよい(2)

図15 「検索」タブ→「詳細」を選ぶ(1)(2)。「タイトル」欄に書名の一部を入力し、「キーワード」欄に検索条件を指定しよう(3)。最後に「検索」ボタンを押す(4)

図16 条件に合う本が表示される(1)。2のボタンを押すと、表紙画像がサムネイルで表示される。画像をダブルクリックすれば、その情報を閲覧できる

キーワードで自在に検索
著者別やサイズ別表示も一瞬
データベースが完成したら、検索機能を試してみよう。大量の蔵書を抱えていても、目的の本がすぐに見つかる。タイトルや作者、

任意のキーワードで検索可能だ(図15、図16)。さらに、「マンガ」「仕事資料用」など、自分でジャンルを作って仕分けすることもできる(図17、図18)。
また、出版社・著者別、文庫・大型本などのサイズ別に蔵書を一覧

バーコードリーダーなら登録は一瞬



図11 USB接続のバーコードリーダーがあれば、作業はバーコード部分にかざすだけ。大量の本を登録する際に便利。価格は4500円前後だ[注3]

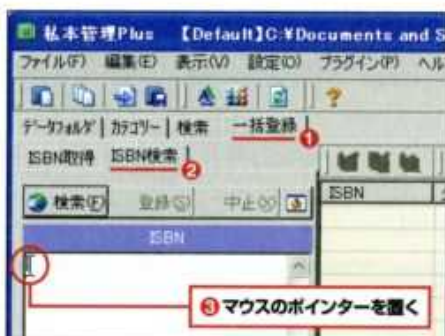


図13 リーダーのボタンを押して「ピッ」と音がしたら、入力欄に自動でISBN番号が入力される(1)。すべての本のISBNが入力できたら「検索」をクリック(2)。しばらく待ると、書籍のデータが表示される(3)

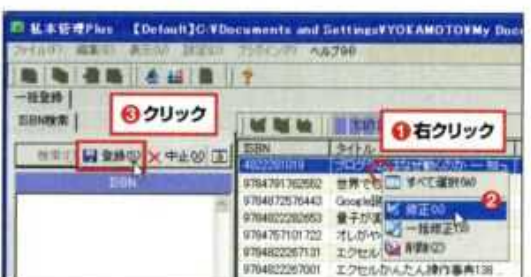


図14 リストを右クリックして「修正」を選ぶと(1)(2)、前ページ図7の画面が開くので、項目を適宜修正する。最後に「登録」ボタンを押せばよい(3)

[注3] ここではUSB接続のバーコードリーダー「TSK-U」(エフケイシステム、実売4500円前後)を使用した。ISBNには10ケタと13ケタがあり、最近の書籍は13ケタになっている。13ケタ対応のバーコードリーダーを購入しよう

書籍管理専門のウェブサービスもある



図24 「メディアマーカー」はネット上で蔵書管理を行えるウェブサービス。利用するには「ユーザー登録」をクリックして、会員登録を行う



図25 「一括登録」タブを選べば(1)、バーコードリーダーを使ってISBNによる自動検索が可能だ(2)。「一括登録」ボタンを押せば、書籍情報が自動で入力される(3,4)。このほか、ユーザー同士で本を物々交換するコーナーなどもある



図26 携帯電話やiPhoneからも自分のデータベースを閲覧できる

表示することも可能。それには、「カテゴリ登録」機能を使う。カテゴリ名を入力して、「発行所」「作者」「サイズ」など、表示させたい項目を設定すればよい(図19、図23)。

ネットの蔵書管理サービスは携帯電話からも閲覧可能
私管理プラスは自分のパソコン上で使うソフトだが、最近では、

インターネット上で蔵書管理を行えるウェブサービスも増えている。中でもお薦めは、「メディアマーカー」だ(図24)。メディアマーカーでも、バーコードリーダーを使っ

て一気に蔵書データを取得できる(図25)。またデータがネット上にあるため、携帯電話やiPhoneを使って、出先から蔵書リストを閲覧することもできる(図26)。

出版社や著者別に自動で分類

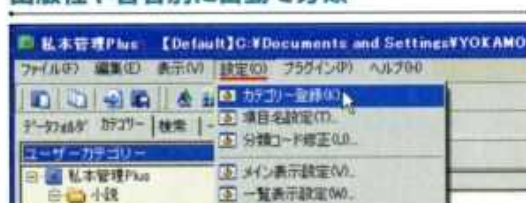


図19 自動で出版社、著者、サイズ別に分類表示することも可能。「設定」メニューの「カテゴリ登録」を選ぶ

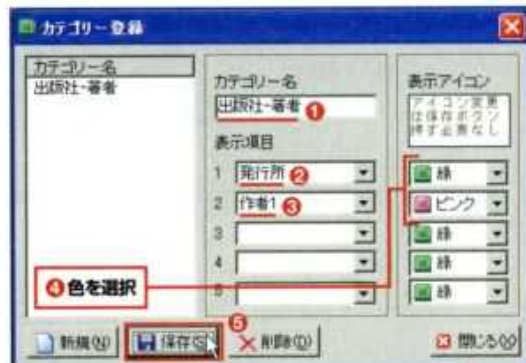


図20 「カテゴリ名」欄に「出版社・著者」と入力(1)。「表示項目」で「発行所」と「作者1」を指定(2,3)。フォルダーの色を選択し(4)、「保存」をクリック(5)



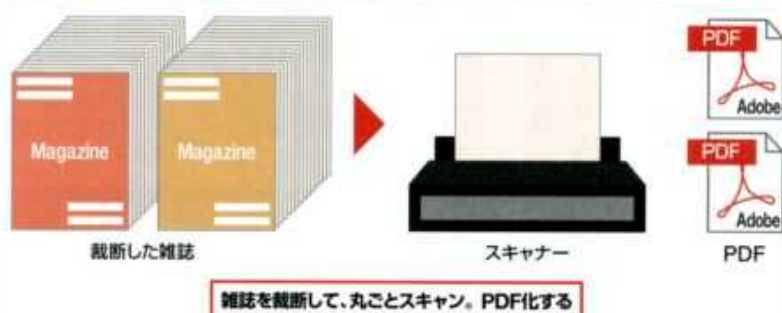
図21 「新規」を押して条件を追加(1)。今度は「カテゴリ名」を「サイズ」とし(2)、「表示項目」で「サイズ」を選択(3)。色を選んで「保存」を押す(4,5)



図23 同様に「サイズ」を選ぶと(1)、今度は「ムック」や「文庫」「大」型本のように、サイズ別に表示できる(2)

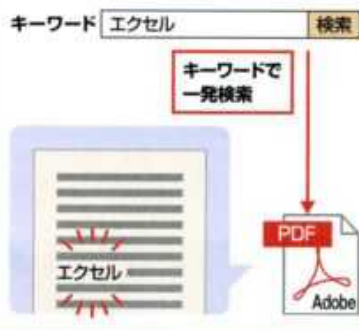
保存したい雑誌は丸ごとスキャンしてPDFに変換!

溜まった雑誌を一掃! PDFにすれば置き場所に困らない!



PDFなら一瞬で検索できる

DVD1枚に60冊入る



丸ごとスキャンして雑誌をPDF化すればスキリ片付く

図1 なかなか捨てられず、溜まる一方の雑誌。裁断機で一気にバラバラにして、ドキュメントスキャナーで丸ごとPDF化してしまおう。キーワードで自在に検索でき、雑誌の山を一掃できる

強力裁断機なら雑誌を一瞬で解体



図2 強力な裁断機を使えば、簡単に雑誌を丸ごと解体できる。今回は、1度に400枚以上の用紙をカットできる「大型ペーパーカッター」を使用した[注1]

トスキャナーで1冊丸ごとPDFに変換するのだ。必要なページを抜き出す手間がない分、このほうが作業は簡単。

PDF化しておけば、後からキーワード検索で読みたいページをすぐに探せる。150ページの雑誌をPDF化しても、容量は70メガバイト程度。DVD-R1枚に60冊以上は楽に入る(図1)。

雑誌を丸ごと一気に解体できる強力裁断機。「大型ペーパーカッター」と呼ばれるものだ(図2)①。雑誌をセットし、レバーを1回下ろすだけで楽々裁断できる(図3)。

なお、雑誌の製本方法には、中央部分を針金で留めた「中とじ」と、針を使わずノリで貼り付けた「無線とじ」がある(図4)。中とじの雑誌を裁断する場合、針が裁断機の刃に当たると刃を傷める恐れがあるので、あらかじめ針を外しておこう(図5)。

また、本の裁断を専門に請け負



図3 レバーを一度下ろすだけで、あっという間に解体できた。端がつながったままのページが残っているとスキャン時に紙詰まりが起きるので、よく確認しておこう

[注1] 「大型ペーパーカッター」は、アマゾン (<http://www.amazon.co.jp/dp/B001RKL0EC>) や楽天市場 (<http://item.rakuten.co.jp/wilmart/pc009/>) などで購入できる。実売価格は1万1000~1万5000円前後。使用前に、刃のさび止め油をふき取り、何度か試し切りをしよう

雑誌を裁断機で解体! 丸ごとPDFに

これまで日経PC21では再三にわたって、スキャナーで雑誌の記事を取り込み、それを電子スクラップとして保存する方法を紹介してきた。しかし、読者からは「読み取り作業が意外と面倒」「こ

れでは長く続かない」といった声も多数寄せられた。

そこで、もっと簡単に読み取れる方法を紹介しよう。1ページずつ切り取ってスキャンする従来の方法から発想を変え、ドキュメン

解体した雑誌をスキャンする



図7 一度に用紙の裏表を読み取れるドキュメントスキャナーがあれば、作業が楽。PFUのScanSnap S1300では、一度に10枚の用紙をセットできる



図8 「継続読み取りを有効にします」にチェックを入れておこう。すべてのページの読み取りを完了した後、全ページが1つのPDFファイルとして保存される

主なドキュメントスキャナー



PFU
ScanSnap S1300

<http://scansnap.fujitsu.com/jp/>

図9 A4サイズの原稿を毎分8枚(16面)読み取り可能。書類がカラーか白黒かも自動判別できる。アマゾンなどでは2万1000円前後で購入できる



キャノン
imageFORMULA DR-150

<http://cweb.canon.jp/imageformula/>

図10 A4サイズの原稿を毎分12枚(24面)読み取れる。画像の向きや傾きも自動で補正。アマゾンなどでは2万3000円前後で購入可能

PFU
ScanSnap S1500

<http://scansnap.fujitsu.com/jp/>

図11 毎分20枚(40面)の読み取りが可能。A4用紙を1度に50枚セットできる。アマゾンなどでは4万円前後で購入できる



次に、裁断した雑誌をドキュメントスキャナーで一気に読み取る。複合機のスキャナー機能で1枚ずつ読み取るのはかなりの手間だが、ドキュメントスキャナーなら一度に用紙の裏表を連続でスキャンでき、自動でPDF化できるので、作業効率には段違いだ(図7)。

ここではScanSnap S1300を例に手順を紹介しよう。S1300は一度に10枚までの用

業者を利用する方法もある。例えば「scanbooks.jp」では、1冊85円で本を裁断してくれるほか、ドキュメントスキャナーの無料貸し出しも行っている(図6) [注2]。

ドキュメントスキャナーで一
気に読み取りPDFにする

中とじの雑誌は針を外しておく



図4 雑誌には、「日経PC21」のように、中央部分を針金で留めた「中とじ」のものと、針を使わずノリで貼り付けた「無線とじ」のものがある



図5 裁断機の刃を傷めないよう、ホチキスなどを使って、中とじの針を前もって外しておく。針を外すための専用器具を使うと、より簡単に外すことができる

紙をセットできる。ドライバーソフトで、「継続読み取り」を有効に設定しておこう。通常のままでは、10枚ごとに別々のPDFファイルになってしまうが、継続読み取りをオンにすれば、10枚スキャンした後、さ

らに10枚セットして読み取り、最後に読み取りを終了すると、すべてのページが一つのPDFファイルにまとめられる(図8)。

S1300の付属ソフトでは、パソコンで作業を行っていないと

きに、自動でOCR(光学式文字読み取り)を行い、雑誌の文字情報を読み取って、PDFに透明テキストを付けるように設定できる。これなら、OCR変換の手間がからないので楽だ。

中とじの雑誌



図6 裁断が難しいハードカバー本などは、業者に依頼するとよいだろう。裁断したい本を送ると、1冊85円で裁断してくれる。また、毎分25枚(50面)読み取れるスキャナーの貸し出しサービスもある [注3]

[注2] 創業5周年記念価格だが、当分はこの価格設定を継続する予定(正規料金は110円)
[注3] 裁断する本が30冊未満なら3日間、60冊未満なら4日間、60冊以上なら6日間、スキャナーを無料で貸りられる。なお、スキャナー付属の本作成ソフトはレンタル不可

日本語雑誌を「右とじPDF」に変換



右ページが左側になってしまう



右とじに変換して正しく表示

図15 通常、PDFは「左とじ」で作成される。このため、縦書きの右とじ雑誌をアドビ・リーダーで見開き表示にした場合、表示がおかしくなる可能性がある【注4】

ドラッグするだけで「右とじ」になる



図16 ウェブサイトからZIP形式のファイルを手入れ、解凍する。解凍後に現れる実行形式の「RightFile」をダブルクリックして起動

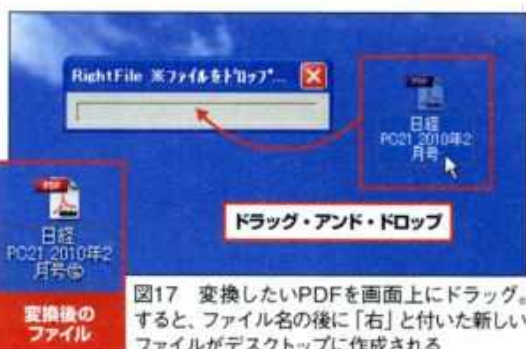


図17 変換したいPDFを画面上にドラッグ。すると、ファイル名の後に「右」と付いた新しいファイルがデスクトップに作成される

画質は「ファイン」がおススメ

画質モード	容量
ノーマル(150dpi)	49.1MB
ファイン(200dpi)	70.1MB

図12 カラー150ページの雑誌を、ScanSnap S1300でPDF化したときの容量（圧縮率は標準の「3」に設定）。モードにより、容量が変わってくる

「ノーマル」では文字が少し見づらい

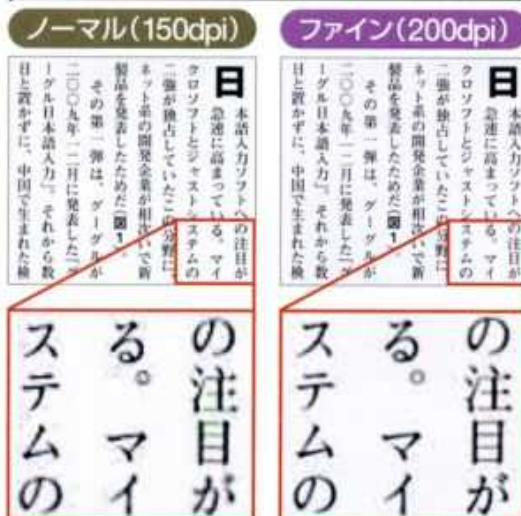


図13 「ノーマル」では、文字の縁にギザギザが目立ち、少し見づらい印象だ。容量を節約するにはよいが、見やすさを重視するなら「ファイン」がよいだろう

文字認識の精度にも差が出る

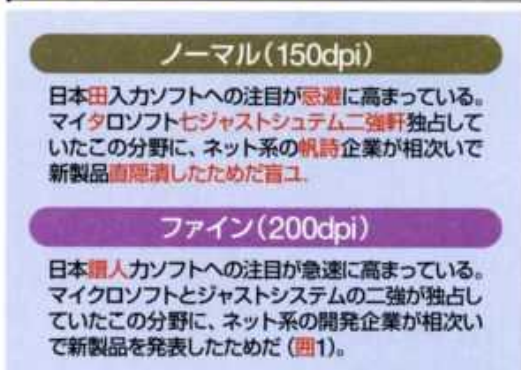


図14 OCR（光学式文字読み取り）の精度にも、かなり違いがある。「ノーマル」では誤認識が目立つが、「ファイン」では誤認識が格段に少ない

なお、前ページ図9と図11で、主なドキュメントスキャナーを紹介している。最近は価格が手頃になり、2万円強から購入できるようになった。読み取り速度の違いや価格を参考にしてほしい。

画質は「ファイン」がお勧め
雑誌は「とじ方向」に注意
スキャナーのドライバーソフトでは、読み取り時の画質を選択できる。S1300の場合、「ノーマ

ル」（解像度150dpi）、「ファイン」（200dpi）、「スーパーファイン」（300dpi）、「エクセレント」（600dpi）の4段階から選べる。
この中で、お勧めは「ファイン」

だ。「ノーマル」よりファイル容量は増えるが、文字の見やすさは、はつきり差が出る（図12、図13）。何より大きいのが、文字認識の精度だ。ノーマルでは誤認識された箇所が多数あるが、ファインでは誤認識がぐっと減っている（図14）。さて、日経PC21をはじめとする、縦書きの雑誌をスキャンする場合、注意したい点がある。アドビ・リーダーで、「見開き表示」を選んだ場合、左右のページが入れ替わってしまうのだ（図15）。これは、通常PDFが横書きの「左とじ」文書を前提に作られているため。日本の雑誌に多い「右とじ」文書の場合、見開きで表示したときに、左右のページが逆になる。そこで、左とじのPDFを右

【注4】アドビ・リーダーで見開き表示にするには、「表示」メニューの「ページ表示」で「見開き表示」を選べばよい

大量のPDFから一瞬で検索



図18 大量のPDFがあると、検索に時間が掛かる。PDFの情報を集めた索引ファイルを利用する「インデックス検索」なら、検索が一瞬だ

と同じに変換しよう。
これには、フリーソフト「ライ
ト・ファイル」を使用する。操作
は簡単(図16)。ソフトを起動して、
変換したいPDFファイルをドラ
ッグするだけだ(図17)。

動作が軽快なインデックス検索ソフト

図19 ここでは、動作が軽快な検索ソフト「探三郎」を利用する。サイトからZIP形式のファイルを入手し、解凍しよう

キーワードを入力して検索する

図20 実行形式の「sin3rou」をダブルクリックして、ソフトを起動する。索引ファイルを作成する前に、まず設定を変更する。メニューバーの「設定」ボタンをクリック

**「インデックス検索」なら
目的の記事が一瞬で見つかる**
PDFなら後から自在にキーワ
ード検索ができるとはいえ、ファ
イルが大量にあると時間が掛かる。

そこでお勧めしたいのが「イン
デックス検索」だ。この機能を利用
すると、検索時間を大幅に短縮
できる。これは、あらかじめPD
F内の情報を集めた「索引ファイ
ル」を作成して、検索に利用する

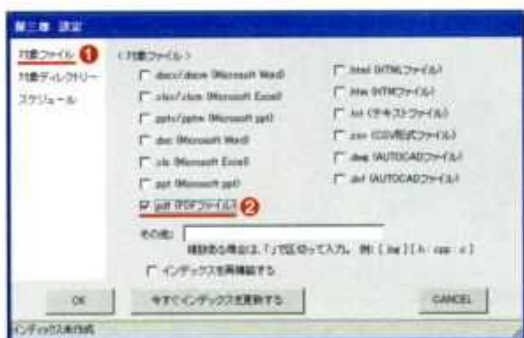


図21 「対象ファイル」を選ぶ(1)。PDFのほか、ワードやエクセルなど多数の形式にも対応するが、PDFの検索だけが目的なら「pdf」のみチェックを付けよう(2)



図22 次に「対象ディレクトリー」を選ぶ(1)。初期設定ではCドライブ全体が対象になっているが、これを削除し、「追加」を押してPDFの保存場所を指定する(2)

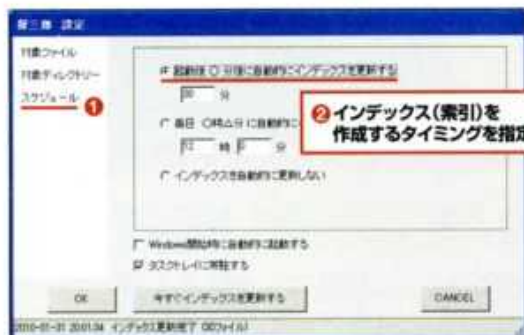


図23 索引ファイルを自動作成するタイミングを自分で指定できる(1)。パソコンを起動してから一定時間後に実行してもよいし、決まった時刻を指定してもよい

キーワードを入力して検索する



図24 キーワードを入力して「検索」をクリック(1)。すると該当するPDFファイルと抜粋が表示される(2)。ファイル名をクリックすると、該当のPDFが開く

8つの「得意技」を持つ電子の紙 PDFは便利でクールなファイル!



図1 左上はデザインソフト「インデザイン」で作ったファイル。別のパソコンにこのソフトがあっても環境が違うので、フォントが化けて同じようには見られない(右上)。しかしPDFにすれば、閲覧ソフトを使って同じように見える(左下)

オールラウンドプレイヤーはどこの世界にもいるものだ。PDFというファイル形式は、間違いなくパソコン界のオールラウンドプレイヤー。野球の世界で例えるならば、攻・走・守三拍子揃って、しかもさまざまなポジションをこなせる得がたい選手だ。

でも監督が、そんな選手を「代走」のみに起用し続けていたとしたらどうだろう? あなたがもしPDFを、「見る」ことだけに使っているとしたら、これほどもったいないことはない。もっと仕事を充実させ、もっとパソコンライフを楽しむための、力強い助っ人になってくれるというのに...

ここでは、まずPDFの得意技を大きく8つに分けて説明しよう。「この作業はPDFでやればよかったのか!」というものが、必ず含まれているはずだ。



さまざまな閲覧ソフトが無料でダウンロードできる

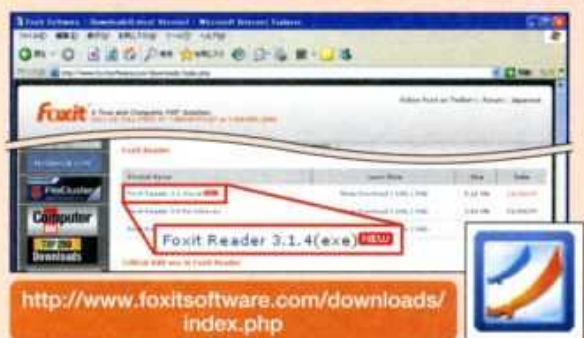


図3 上はPDF開発元のアドビ社が提供する「アドビ・リーダー」のダウンロードサイト。今やなくてはならないソフトだ。下は代表的なフリーのソフト「Foxit Reader」のもの



軽いから
送る相手に
負担を掛けない

PDFに変換して容量が大きく減った



図2 図1の例で、インデザインのファイルをPDFに変換すると容量が3分の1以下になる。ファイルによっては数十分の1になることも。PDFは、最適な容量を自分で算出し、データを軽量化する機能を持っている

名前	サイズ	種類	更新日時
機能CS2-2	1,324 KB	InDesign Document	2010/02/1
機能CS2-2	377 KB	Adobe Acrobat Doc...	2010/02/2

最大のメリットは「どのPCでも同じに見える」

自分がパソコンで作成したファイルを相手にメールで送る。しかし送られた他人のパソコンでは、それが開けなかったり、開けてもさまざまな形で化けていて、きちんと見ることができない、というトラブルはしょっちゅう起こる。理由は簡単。多くの場合、作成したパソコンの環境と、受け取って開いたパソコンの環境が同一ではないからだ。「ウィンドウズかマックか」「作成ソフトの有無」「指定されたフォント(書体)が揃っているかどうか」「ソフトやOSのバ

ージョンの違い」など、化ける原因となる「環境」の要素は多い。あなたは言うかもしれない。「でもウィン・マック間で互換性があるって、仕事でよく使われる『オフィス』で作ったファイルだから」と。

しかしオフィスはかなり高価なソフトで「持つて当然、持つていないあなたが悪い」などとはとても言えない商品だ。また、ウィン・マック間でレイアウトなどが大きく崩れて、みっともない体裁になることは珍しくない。

ファイルを送られた相手は、同僚のパソコンを借りてファイルを印刷したり、体裁を整え直して上

司に見せたりという、煩わしい手間を強いられることもある。あなたがファイルを送信し終わってくつろいでいるときに、先方で後始末が続けられていることだってあるのだ。

PDFは、こうしたPC環境にかかわらず同じように表示されるファイル(図1)。言い換えれば「先方に対するマナーや思いやり・誠意」が添付されたようなファイルだ。

お客に対して最大限の誠意を示さなければならぬ企業が、サイトやメールを介して配布するファイルを、ほとんどの場合PDFとしていることからよくわかる。

「マナー、思いやり、誠意」。この3つこそが、PDFの特徴をとらえるキーワードだ。

第2の得意技「オリジナルの重いファイルをより軽くできる」(図2)、第3の得意技「閲覧ソフトが無料」(図3)という2点も、まさしくそれに当てはまる。

「送り先のPCのスペックや通信環境を配慮し、『ソフト購入の負担を掛けない』ことにつながるからだ。

PDF形式の、根底にある開発コンセプトがうかがい知れるというものだ。



閲覧ソフトでファイルの文字を検索

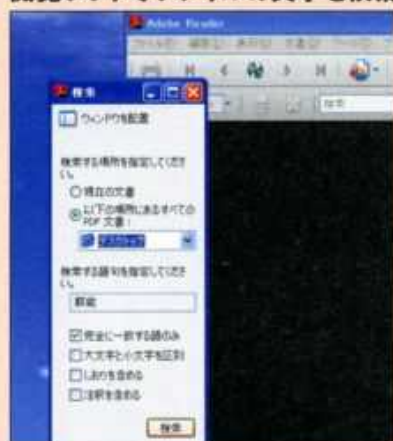


図5 閲覧ソフト「アドビ・リーダー」を使って検索。「薪能(たきぎのう)」と打ち込むと、フォントがなくても探し出す



フリーの作成ソフトでも操作は簡単



図4 フリーの作成ソフト「PrimoPDF」。インストールした後、ワードファイルの場合、「ファイル」→「印刷」→「PrimoPDF」と選ぶとこのソフトが起動し、「PDFで作成」をクリックすれば操作が完了する

どんな環境でも同じように見えるスグレもののファイル。

「そんなファイルを作るには、さぞ高価なソフトが必要で、複雑な操作法を覚えなければいけないはず」。PDFを見ることにしか使ったことがない人なら、そう思うかもしれない。この先入観は間違っている。

確かに一部のPDF作成ソフトは有料だが、フリーソフトも数多くあり、一般的なPDFファイルならば、それらを使って問題なく作成できる。「PrimoPDF」もその一つだ(図4)。

「PDF作成ソフト」といっても、データを一から作り上げていくものではない。ワード、エクセルな

作成ソフトはフリーも多く
ワードデータなどを加工

どおなじみのソフトで作ったデータを、PDF形式に「変換」するだけだ。しかもその手順はごく簡単だ。それでいて、出来上がったPDFは、そんな簡単に作られたとは思えないほど使い勝手がいい(図5)。

典型的なものは、言葉を入力することによって、その言葉を含むファイルを検索する機能。

「そんなのほかの多くのソフトでできることじゃないか」と反論されそうだが、ちょっと考えてみてほしい。

検索できるということは、そのデータがテキストとして生きていく、ということだ。しかしファイルに指定されたフォントを待たないパソコンで、そのフォントの形状を再現するには、その文字を「図形」として記録しておくなければならない。

例えばグラフィックス関係のソフトを使って、文字を図形化して、JPEGファイルで保存すれば、どのような環境でも同様に見られるが、それはもうテキストデータではないので検索ができない。

検索の仕組みは、PDFの開発元であるアドビ社の高度な技術のたまもので、同ファイルの優位性を支える要素の1つなのだ。



一部の人が見られるよう
加付のパスワード

パスワード設定で暗号化

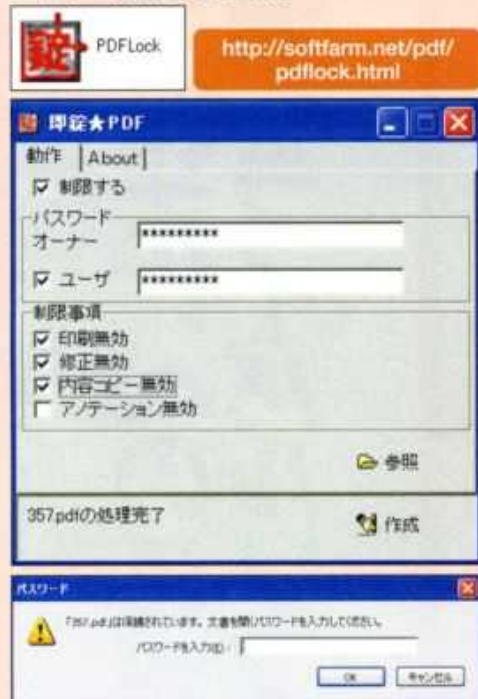


図7 フリーソフト「PDFLock」を使って暗号化。パスワードを設定しておけば（上図）、ファイルを開こうとした場合、ウインドウ（下図）が立ち上がる

得意技⑧ 紙の弱点を補う



マルチメディアで
情報の表現力アップ

一部のソフトで添付が可能

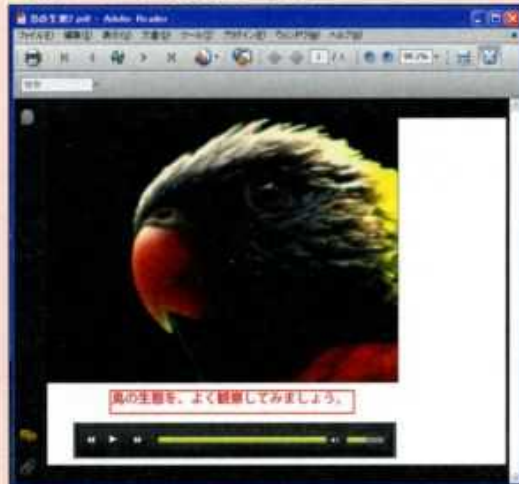


図6 有料ソフト「Adobe Acrobat」を使って作った、動画と音声添付したPDFファイル。閲覧ソフトと関連プラグインがあれば、簡単な操作で再生が可能だ

動画や音声も添付でき
暗号化して見られなくできる
「どんな環境でも同じように見
えるファイル」。これは言い換え

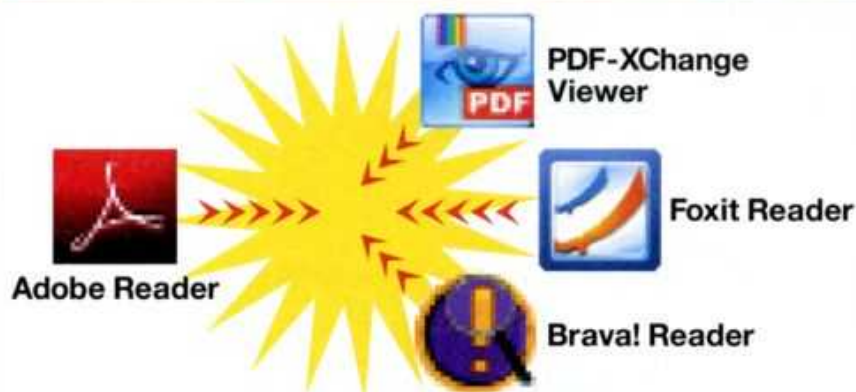
れば「印刷物のようなファイル」と
いうことであり、PDF形式の主
要な開発コンセプトの1つでもあ
った。PDFは、この難題を見事
に実現したのみならず、さらに

「印刷物には到底できない芸当」
までも獲得した。それが、動画機
能と音声機能の付加だ（図6）。
PDFファイル内に組み込まれ
た動画・音声データは、ユーザー
の操作によって、動き、音を出す。
文字と画像のみを扱うファイルに
比べ、表現力を飛躍的に豊かにす
る機能。情報の質という意味で、
印刷物をはるかに凌駕したのだ。
さすがに動画・音声に関しては、
有料ソフトを使わないと組み込ん
だファイルを作れない。でも見る
だけならば、ネットで無償配布さ
れるプラグインなどをPCに組み
込んでおけば、やはり誰でも見る
ことができる。

ここまで見ると、PDFの「誰
にも開放されたファイル」という
側面が浮き彫りになってきた。し
かし半面、それとは矛盾するよう
な機能も併せ持つ。それがセキュ
リティーに関する機能だ（図7）。
必要なときには暗号などで「誰
でもが見られるわけではない」
ファイルに変身。印刷を禁止す
る。編集を禁止するといった制
限を加えることもできる。開放
的。なだけでなく、ガードが堅い。
ところだってあるわけだ。
最後に1つ。電子データなのだ
から「かさばらない」「運搬・輸送
が楽」「作成コストが安い」「劣化し
ない」「複製が簡単」「無限に保存で
きる」という点で、印刷物の欠点
をほとんど克服している（図8）。
紙を模倣しつつ、紙をはるかに超
えた存在。それがPDFなのだ。

「閲覧に」純正「へのこだわりは不要!」 「実力派」ライバルソフトも活用しよう

代表的なPDF閲覧ソフト。あなたの好みは?



各ソフトの基本的な表示画面



図1 それぞれの表示画面。ファイルが複数ページの場合、Brava! Readerは1ページずつ画面を切り替えて表示。他はスクロールバーでも変えられる

日本人は「純正」が好きだ。いやそもそも「純正」という概念も、極めて日本的な発想と言える。自動車のフロアマットのようなものでも「純正品を」とこだわる人は多い。そんな感覚で「PDFファイルを使うなら、PDF形式の開発元アドビシステムズのソフト。閲覧ならアドビ・リーダー、作成ならアドビ・アクロバットに限る」というユーザーは少なくない。

もちろん純正ゆえの長所は多い。しかしそれを信奉するあまり、そうではないソフトの長所、便利さ、楽しさを知らないままではいるのは、かなりもったいない。

今回紹介する4つの閲覧ソフトはいずれもフリーソフト。試してみても損はないし、自分に合う機能を見つければ、また1つ、パソコンの楽しみが増えるというものだ(図1)。

アドビ・リーダー
Adobe Reader 9.3.0
作者: アドビシステムズ OS: 7/ビスタ/XP/2000

<http://get.adobe.com/jp/reader/>

図2 ダウンロードサイト(注3)。ボタンをクリックすると下の画面にソフトをいったん保存するのではなく、いきなりインストールする方式。その後は自動でアップデートする設定にもできる

アドビ・リーダー
Adobe Reader

表現力 表示能力や日本語の再現性は高い。右の縮小表示画面の文字を見ても、4ソフトの中で一番つぶれていない。

機能 表示、検索、印刷など基本的な機能のみだが、印刷関連の機能は充実。

使い方 日本語の再現性などを重視するビジネス用として必需品。最新版へのアップデートを怠らないようにしたい。

縮小表示した画像[注1]

野球場でTVも観戦

野球場へは必ずPCを持参。実際の観戦とともに、生中継番組で相手の表情をよーく観察。エキサイト

ビーディーエフ・エクスチェンジ ビューワー
PDF-XChange Viewer

表現力 閲覧には支障ないが、日本語の再現性は劣る。

機能 書き込み、注釈、図形付加、スタンプなど、作成関係の機能が充実。ファイルをJPEG画像などに変換することもできる。

使い方 自分で用意したJPEG画像を新たなスタンプとして登録できる。ビジネスだけでなく、趣味などにも活用できそう。

縮小表示した画像

野球場でTVも観戦

野球場へは必ずPCを持参。実際の観戦とともに、生中継番組で相手の表情をよーく観察。エキサイト

フォクシットリーダー
Foxit Reader

表現力 閲覧には支障ないが、日本語の再現性は劣る。

機能 PDF-XChange Viewerほどではないが、作成関係の機能がある。テキストだけの表示もできる。

使い方 軽快に使えるので、ロースペックのパソコンなどでは重宝。最新版の画面の日本語化は、現状では未対応。

縮小表示した画像

野球場でTVも観戦

野球場へは必ずPCを持参。実際の観戦とともに、生中継番組で相手の表情をよーく観察。エキサイト

ブラバリリーダー
Brava! Reader

表現力 閲覧には支障ないが、日本語の再現性は劣る。

機能 アドビ・リーダー同様、表示、検索、印刷など基本的な機能が中心。CAD図面を意識した計測機能などもある。

使い方 現状ではウィンドウズ7に未対応。直感的に使いたい人や、マウスで多くの操作をしたい人に向いている。

縮小表示した画像

野球場でTVも観戦

野球場へは必ずPCを持参。実際の観戦とともに、生中継番組で相手の表情をよーく観察。エキサイト

シンプルな機能だが実用的に設計されている

図3 基本的な操作ボタン。電子書籍「eBook」を閲覧したり、PDF形式のフォトアルバムをスライドショー再生したりすることも可能。ウェブブラウザ内で使用することもできる

図3 基本的な操作ボタン。電子書籍「eBook」を閲覧したり、PDF形式のフォトアルバムをスライドショー再生したりすることも可能。ウェブブラウザ内で使用することもできる

図4 大きさを変えられるサムネイルで一覧表示できるのも特筆すべき機能だ。市販ソフトのマニュアルなど、大量ページのPDFファイルを見るときなどに役立つ

図4 大きさを変えられるサムネイルで一覧表示できるのも特筆すべき機能だ。市販ソフトのマニュアルなど、大量ページのPDFファイルを見るときなどに役立つ

図5 よく使う「手のひらツール」は、初期画面ではツールバーになく、図のように右クリックで選択。最初に表示のカスタマイズでツールバー上に出しておくとう便利

図5 よく使う「手のひらツール」は、初期画面ではツールバーになく、図のように右クリックで選択。最初に表示のカスタマイズでツールバー上に出しておくとう便利

「遅い!」という従来の不満も最新バージョンでかなり解消

最初に紹介するのは、純正。アドビ・リーダー(図2)。機能は、表示、検索、印刷など基本的なものに限られていて、作成にかかわる作業はできない(図3、図5)。

表示では、テキスト選択ツールやスナップショットツールを使って文字や画像を選択・コピーして、ほかのソフトで使うことができる。このあたりは、ほとんどの閲覧ソフトに共通する機能だ。

最大の長所は純正ゆえの「信頼感」で、上の表にあるように他の閲覧ソフトに比べて表示の精密さや日本語テキストをコピーして他

[注1] それぞれのソフトで、同じファイルを50%縮小表示して画面キャプチャーし、その画像を拡大したもの
 [注2] アドビ・リーダー Xでは注釈などを付ける機能が付加された
 [注3] 現在の最新バージョンはAdobe Reader X(2010年12月現在)



図8 「コメントツール」で注釈が、「タイプライターツール」で文字が書き込める。文字の大きさや色はプロパティ画面で変更が可能。ファイル上にある文字の訂正はできない。〔注4〕

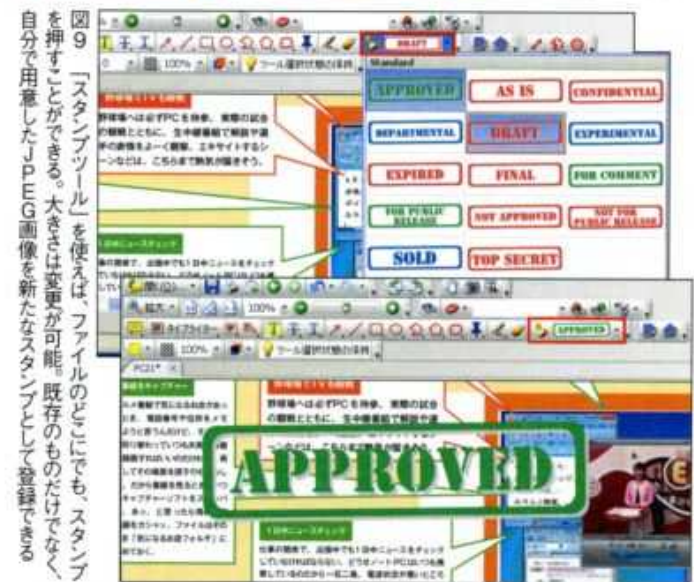


図9 「スタンプツール」を使えば、ファイルのどこにでも、スタンプを押すことができる。大きさは変更が可能。既存のものだけでなく、自分で用意したJPEG画像を新たなスタンプとして登録できる。

ビーディーエフ・エクステンジビュワー
PDF-XChange Viewer 2.0.48
作者: Tracker Software Products Ltd.
OS: 7/ビスタ/XP/2000
<http://www.docu-track.com/>



図6 ダウンロードサイト。ソフトをインストールすると、途中、利用言語を聞いてくるので「Japanese」を選択すると、日本語表示画面となる。

ボタンの多さからも機能の多様さがよく分かる

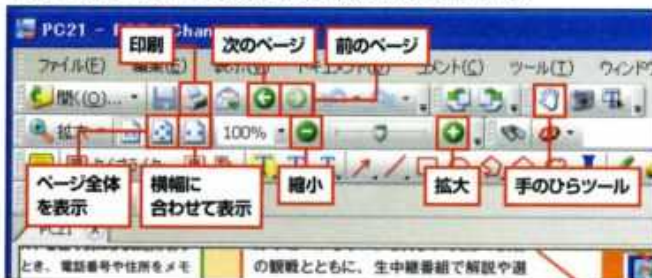


図7 基本的な操作のボタン。選択ページや文書全体をBMP、JPEGなどの画像にしてエクスポートする機能もある

のソフトにベースとしたときの再現性に優れている。

短所として、プラグインの読み込みで起動に時間がかかる点が指摘されてきたが、バージョン9は速くなり、あまり気にならない。

また、ウィルススの標的になりやすいため、脆弱(ぜいじゃく)性修正のための更新に気を使わなければならないのは、少し煩わしい。

次に紹介するPDF・XChange ViewerとFoxit Readerとは、閲覧ソフトと銘打っているが、文字を書き込む機能などを持っている。

なぜこのような閲覧ソフトが無償配布されるかというと、配布元はいずれも高機能なPDF関連ソフトを有料販売しており、その機能の一部を無償の閲覧ソフトに付加して広く使ってもらい、有料版購入につなげたい、という戦略だ。

ユーザーにとって、こうしたソフトを使う最大のメリットは「デザイン変更など本格的な作成・編集をするわけではない。しかしちょっとした書き込みぐらいはしてみたい」というニーズが、無料かかなえられることだ。さらに、有

の作成ソフトを購入する前に、その機能がどれほど自分に役立つかの目安を知ることができる。

PDF-XChange Viewer(図6)は、ツールバーのアイコンの多さを見て分かるように、なかなか高機能なソフトだ(図7)。

「コメントツール」で注釈の付加を、「タイプライターツール」で文字の書き込みを行うことができる(図8)〔注4〕。さらに文字部分にマーカーや取り消し線を付いたり、四角・だ円、矢印などの図形を書き込むことも可能。こうして変更されたファイルは、上書きや名前を付けて保存することができる。

また、「スタンプツール」はユニークで遊び心も感じられる機能だ(図9)。用意されているものだけでなく、JPEG画像を新たにスタンプとして登録できる。

Foxit Reader(図10、図11)も同様に、書き込みや「付せん紙ツール」による注釈付加、下線や打ち消し線などの付加が可能で、これらによる変更を保存できる(図12)〔注5〕。ファイルのテキスト列のみを抜き出す「テキストビューワー」(図13)も便利だ。

また軽さが身上で、プラグインの読み込みがないためサクサク軽快で、昔からロースペックパソコン

〔注4〕これらの機能で書き込まれた文字や注釈は「検索」の対象とはならない。これらの機能のアイコンを表示するには、ツールバーの余白で右クリックし、「コメントとマークアップツールバー」を選ぶ

ブラバリリーダー
Brava! Reader 3.3.0.1
 作者: オーシャンブリッジ
 OS: ビスタ/XP
<http://www.vector.co.jp/soft/dl/winnt/util/se367894.html>

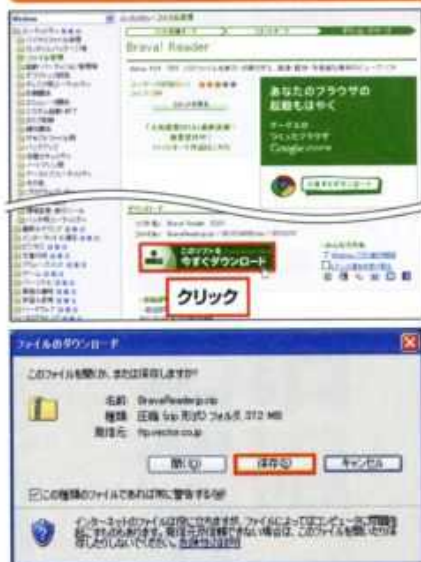


図14 日本語のサイトからダウンロードできる。利用期限があるが、その後は最新バージョンをダウンロードすることで、再び無償で使える。

ダウンロードしたファイル

フォックスリーダー
Foxit Reader 3.2.0
 作者: Foxit Corporation
 OS: 7/ビスタ/XP/2000
http://download.cnet.com/Foxit-Reader/3000-10743_4-10313206.html?part=dl-116442&subj=dl&tag=button/



図10 CNETのサイトからダウンロード。インストール後、書き込みなどで日本語を使うとすると、自動で言語ファイルダウンロードして組み込む。

ダウンロードしたファイル

書き込めないがほかにも使える機能あり

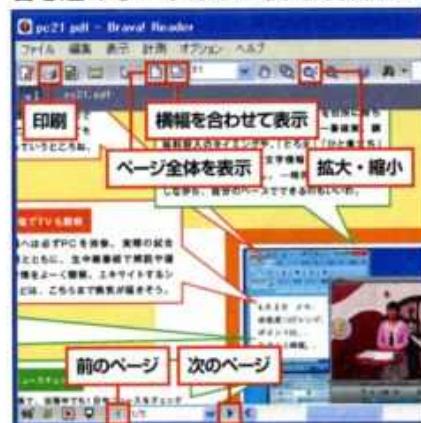


図15 画面は1ページずつ表示。PDF以外にもCSF、XPSといった特殊な形式のファイルが表示できる(注6)。拡大・縮小、スクロール、ページめくりなどは、マウスを使っても操作できる。

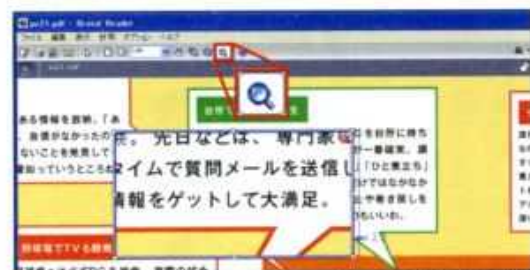


図16 便利な「虫めがねツール」は、ポインタの場所を拡大表示。移動させながらの拡大も可能で、これで「拡大」「縮小」「表示場所の移動」「拡大」という煩わしい操作を免れる。

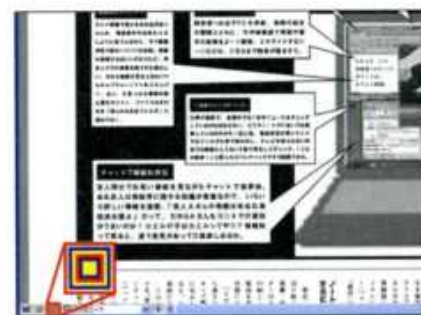


図17 「モノクロツール」をクリックすると、瞬時にモノクロ画面に切り替わる。白黒プリンターで出力するときの調子の目安などになる。

シンプルな機能ながら書き込みができるソフト

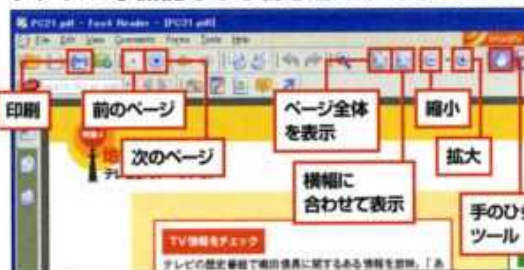


図11 基本的な画面の操作。従来バージョンでは「Language」「Japanese」と選ぶことでメニューの日本語化ができたが、最新バージョンは未対応。



図12 「付せん紙ツール」を使った注釈付加と文字の書き込みの操作。書き込みに関する機能はこの程度。PDF-XChange Viewerと比べるとシンプルなソフトだ。

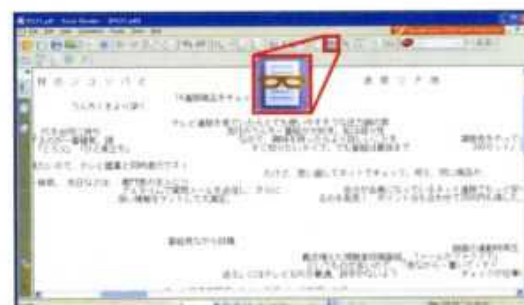


図13 「テキストビューワー」を使えば、ファイルをテキスト文字列のみに変換できる。ただし図のように変則的に組まれた文章に関しては、連続して選択できないケースもある。

ンの心強い味方となってきた。これに対してBrava! Reader(図14、図15)には書き込み機能がない。その代わり、ポインタを動かしながらその部分の拡大表示ができる「虫めがねツ

ル」(図16)や、画面をモノトーン表示にして白黒プリンターで出力した場合の調子をチェックする「モノクロ表示ツール」(図17)など、便利な機能が目立つ。短所は、3ソフトとも日本語の

再現性が高くないこと。コピー&ペーストすると、文字の順序が入れ替わったり、不要なスペースが入ったりすることがある。また、縦書き文字列の選択も操作しにくい。とはいえアドビ・リーダー以外

の3ソフトとも、使ってみる価値は十分ある。試してみれば気に入る機能もあるはず。それによって、純正・コンプレックスから、解き放たれる人もいるのでは？

[注5] ただし裏ワザとして、訂正したい文字の上に新たな文字を書き込んで、その部分の背景を初期設定の「塗りつぶしなし」ではなく、「白」など地の色を選択することで、修正に近い変更ができる。
 [注6] XPS形式のファイルを表示するには、別に.NET Framework 3.0のインストールが必要となる。

「編集・印刷」禁止の設定も思い通り PDF作成がフリーソフトで簡単に



「ローマは一日にして成らず」かもしれないが、PDFは一瞬にしてできてしまう。オフィス2003で作ったファイルならフリーソフトを使って、2007のファイルなら同ソフトのアドイン機能を使ってササッと作る(図1)。ほんのひと手間ながら、あなたの作成データは「誰でも同じように見られる軽いファイル」へとグレードアップするのだ。

まずは定番フリーソフト「PrimoPDF」を入手

オフィス2003、あるいはワードやエクセル、パワーポイントの2003を単体で持っている場合から説明しよう。

使うのは、定番のフリーソフト「PrimoPDF」。PDF関連の製品を販売しているエクセルソフトが提供しているソフトで、基

本操作がシンプルでありながら、高機能な設定も可能な点が好評を得ている。ダウンロードサイト、操作画面共に、日本語バージョンをえるのもありがたい。(図2)。サイトの指示に従ってダウンロードして、ウィザードの指示に従ってインストールをしていくだけでこれも難しくない。

インストール中、名前やメールアドレスなどのユーザー情報を入力するウィンドウが開く。個人情報を知らせたくないなら適当に入力しておいても問題ないが、アップデートなどのお知らせメールを受け取りたいなら、メールアドレスは正確に入力しておく。

また、PrimoPDFのインストールには「.NET Framework 2.0」というウィンドウズのモジュールが必要となる。ビスタ以降は標準で組み込まれているが、XP

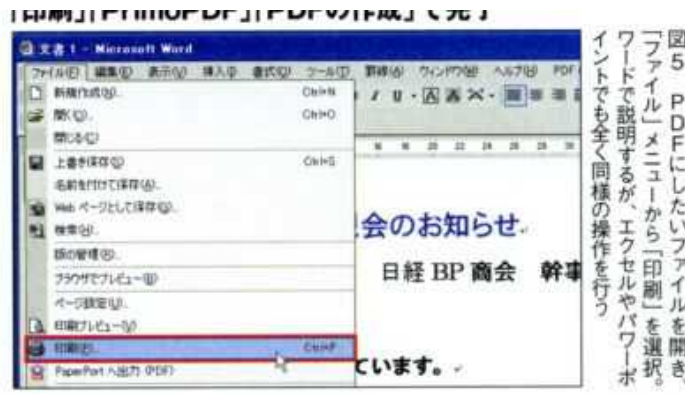


図6 印刷環境を指定する画面が開くので、「プリンタ名」欄で「PrimoPDF」を選択して「OK」ボタンをクリックする。PrimoPDFは仮想的なプリンターとして機能するので、このラインアップの1つとして現れる



図7 PrimoPDFの設定画面が現れるので、「PDFの作成」ボタンをクリック。するとオフィスのファイルがPDFファイルに変換され、表示・保存される

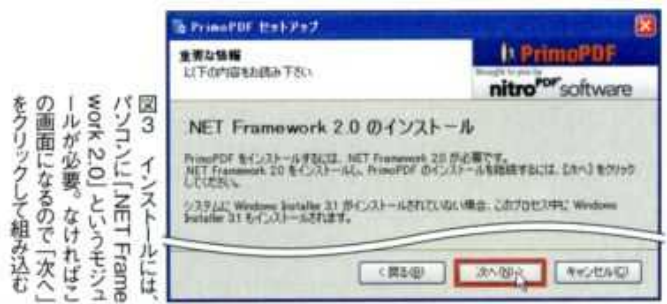


図4 ソフトと共にダウンロードされるPDFの日本語版マニュアル。操作手順を実際のウィンドウ画像を交え、分かりやすく解説している

ユーザーでまだ入っていない場合は、途中現れるこのモジュールへの誘導画面に従ってインストールすればいい(図3)。

ソフトには、日本語版マニュアル(PDFファイル)がついていて、これがフリーソフトのものとは思えないほどよくできているので、ぜひ活用しよう(図4)。

「PDFの作成」へは「印刷」からとり着く

さて本番のPDF作りだが、全工程数クリックで済んでしまう。まずはワードでもエクセルでも、PDF化したいファイルを開き、ファイルメニューから印刷を選ぶ(図5)。すると印刷環境を指定する画面が開くので、ここで「PrimoPDF」を選ぶ(図6)。

なぜ「印刷」からなのかというと、PrimoPDFは、仮想的なプリンターとして機能し、「紙(印刷物)」の一パリエーションであるかのように、「PDF」として出力(作成)する仕組みだからだ。

「PrimoPDF」を選んで「OK」をクリックするとPrimoPDFの設定画面が現れる。基本的には、ここで「PDFの作成」をクリックすれば、ファイルのPDF化は完了する(図7)。

「パスワード禁止」もセキュリティ設定が可能



図11 設定画面では、PDFファイルにパスワードやさまざまな禁止事項を設けたりできる。それにはまず、「PDFのセキュリティ」欄の「変更」をクリック



図12 印刷やデータの編集をさせないようにするには、「セキュリティ設定および指定機能の変更」にパスワードが必要」の項目にチェックを入れた後、パスワードを設定する

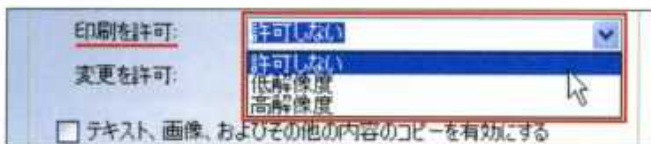


図13 次に「印刷を許可」のプルダウンメニューで「許可しない」を選択すれば印刷できないPDFとなる。「低解像度」は低解像度の印刷のみ可能になる

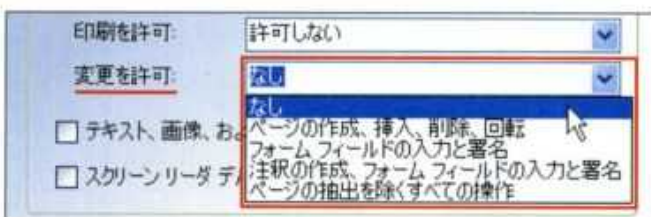


図14 書き込み・書式変更など編集を全く認めない場合は「変更を許可」で「なし」を選択。一部を認める場合は、それに合う項目を選ぶ

日本語の文字化けは注意が必要

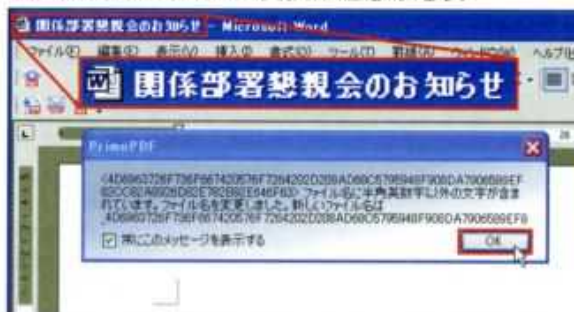


図8 PrimoPDFは海外製ソフトなので、日本語のファイル名が文字化けしてしまう。その警告画面では「OK」をクリック



図9 この設定画面の「ファイルの保存先」欄の末尾にある文字化けしたファイル名を、正しい名前に変更。また、元のオフィスのファイル名とは別に、新たな名前を付けることも可能だ



図10 この操作で、出力されるファイル名は指示通り変更される。でも、この操作で、元のファイルと同じ名前でも問題はない

日本語の文字化けは設定画面で予防できる

PrimoPDFの弱点の一つは、日本語ファイル名の文字化けの問題だ。PDF化しようとする元のワードやエクセルのファイル名が日本語だと、そのまま変換するとすごく長い英語ファイル名に文字化けしてしまう(図8)。

ファイル名だけの話だから、文字化けした後で修正してもいい。でもそれが嫌な場合は、設定画面の「ファイルの保存先」欄で、正しいファイル名、あるいは新たに付けたファイル名にあらかじめ変えておけば文字化けを予防できる(図9、図10)。

以上が基本的な使い方だが、PrimoPDFではこのほかにも、作成するPDFにさまざまな機能を加えることができる。そのためには、まず作成途中に出てくる設定画面で「PDFの作成」をクリックする前に、その上の方にある「PDFのセキュリティ」欄の「変更」をクリック(図11)。

ここではさまざまな設定ができる。自分が作ったPDFを、渡した相手が勝手に印刷したり、内容を変更したりできないようにするには、まず「セキュリティ設定お

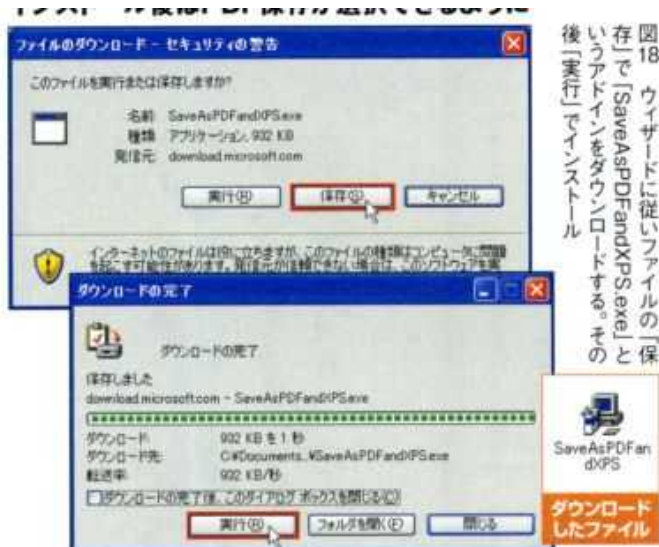


図18 ウィザードに従いファイルの「保存」で「SaveAsPDFandXPS.exe」というアドインをダウンロードする。その後「実行」でインストール

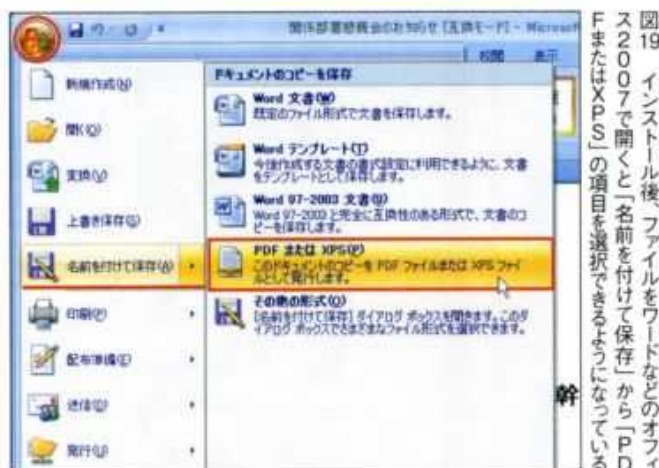


図19 インストール後、ファイルをワードなどのオフィス2007で開くと「名前を付けて保存」から「PDFまたはXPS」の項目を選択できるようになっている

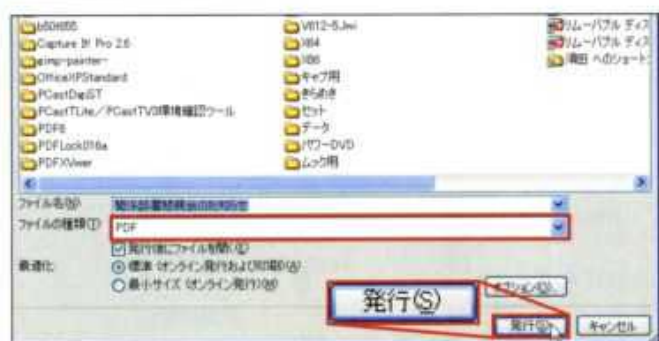


図20 これをクリックすると「名前を付けて保存」のウィンドウが立ち上がるので、「ファイルの種類」欄で「PDF」を選択して「発行」をクリックする

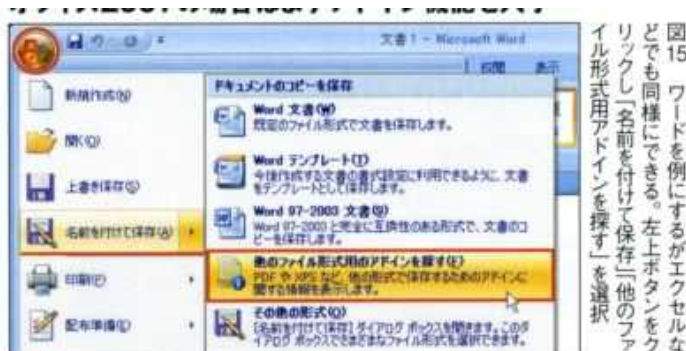


図15 ワードを例にするがエクセルなどでも同様に行える。左上ボタンをクリックし「名前を付けて保存」他のファイル形式用アドインを探す」を選択

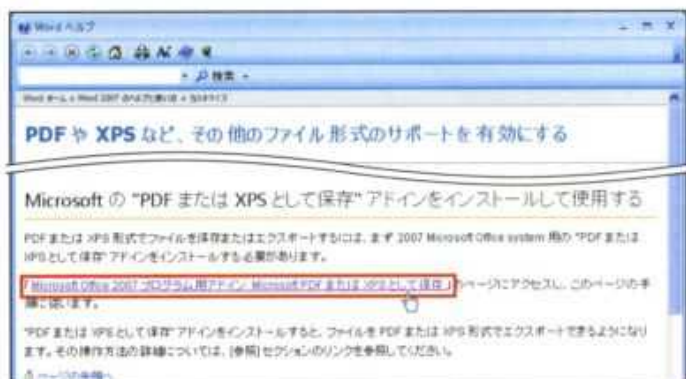


図16 ヘルプのウィンドウが立ち上がるので、ページをスクロールして「Microsoft Office 2007 プログラム用アドイン: Microsoft PDFまたはXPSとして保存」というリンクをクリックする

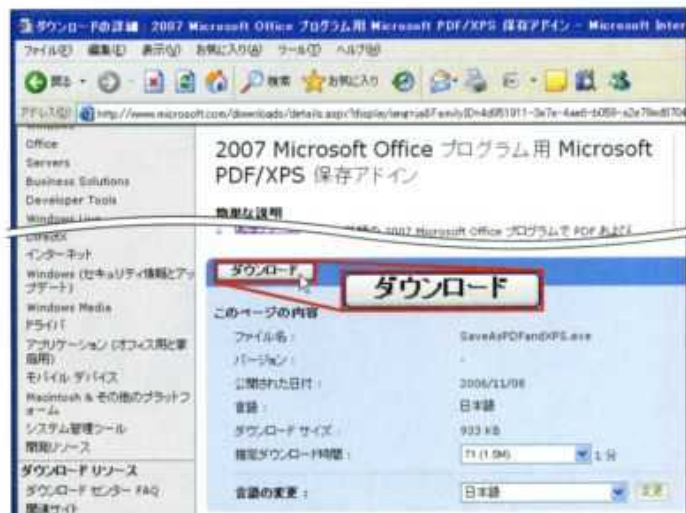


図17 ブラウザーが起動し「2007 Microsoft Office プログラム用 Microsoft PDF / XPS 保存アドイン」というページにアクセス。ネット接続速度や言語「日本語」を選択して、ダウンロードボタンをクリックする

よび指定機能の変更にパスワードが必要」の項目にチェックを入れ、パスワードを設定(図12)。

そしてプルダウンメニューで、「印刷を許可」欄の「許可しない」を選択すれば印刷できない設定に(図13)。「変更を許可」欄の「なし」を選択すれば、文字・図形の追加・修正など編集作業が一切できない設定になる(図14)。これらの設定は、パスワードを入力することで解除・変更できる。

オフィス2007ならアドイン組み込みで対応

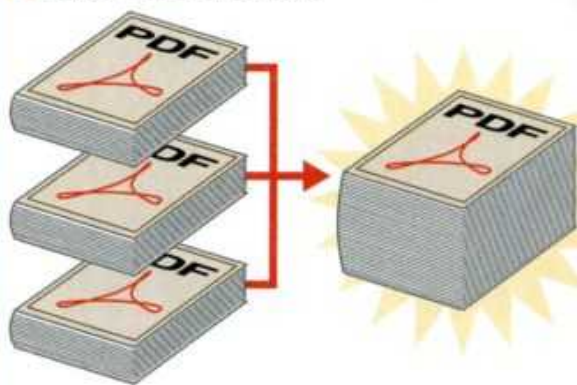
オフィス2007がある場合は、別のソフトの助けを借りる必要なくPDF作成が可能になる。

標準のままではできないので、まずファイルを開き、「名前を付けて保存」他のファイル形式用アドインを探すからヘルプウィンドウとマイクロソフトのサイトを介してアドインを入手(図15、図17)。

インストール後「名前を付けて保存」に「PDFまたはXPS」の項目が加わる。これを選択し、立ち上がるウィンドウの「ファイルの種類」欄で「PDF」を選択。「発行」をクリックすれば、そのファイルをPDFにして保存することができる(図18、図20)。

ファイルの「結合」「抽出」「部削除」 無料ソフトで使いやすいデータに加工

■ 複数ファイルを1つに結合



ConcatPDF



まるごとPDF

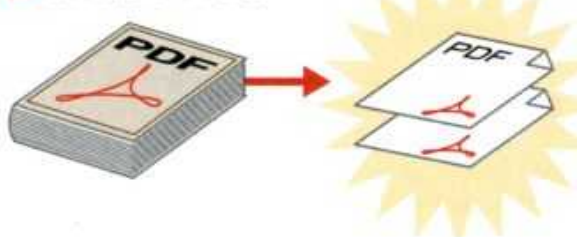


SepPDF



ConcatPDF

■ 必要な部分だけ抜粋



PDF DeletePage



ConcatPDF

■ 不要部分を削除

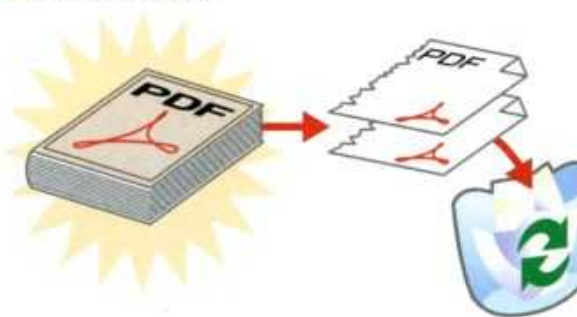


図1 軽くて使い勝手の良いPDFのデータは便利な資料となる。同類のものを1つのファイルにまとめたり、大量ページのファイルから必要な部分のみ抽出しておけば、後の整理が楽になる

ゴミ屋敷じゃないけれど、手に入れたものは何でもかんでも全部そのままHDDにため込むという習性はあまり感心できない。企業や官公庁が提供するPDFファイルは便利な資料なので、あれもこれもと抱え込みがちだが、同じようなものが散在したり、膨大なページで不要な部分が多いデータも少なくない。だから同類のものや同じ企業のファイルをまとめたり、必要な部分だけを抜き出したりして、いざというとき使いやすいデータベースにしたいものだ。

そのために必要な作業「複数ファイルの結合」「必要な部分の抽出」「不要部分の削除」は、いずれもフリーソフトで行うことができる(図1)。今回は「ConcatPDF」「まるごとPDF」「SepPDF」「PDF DeletePage」の4ソフトを紹介しよう。

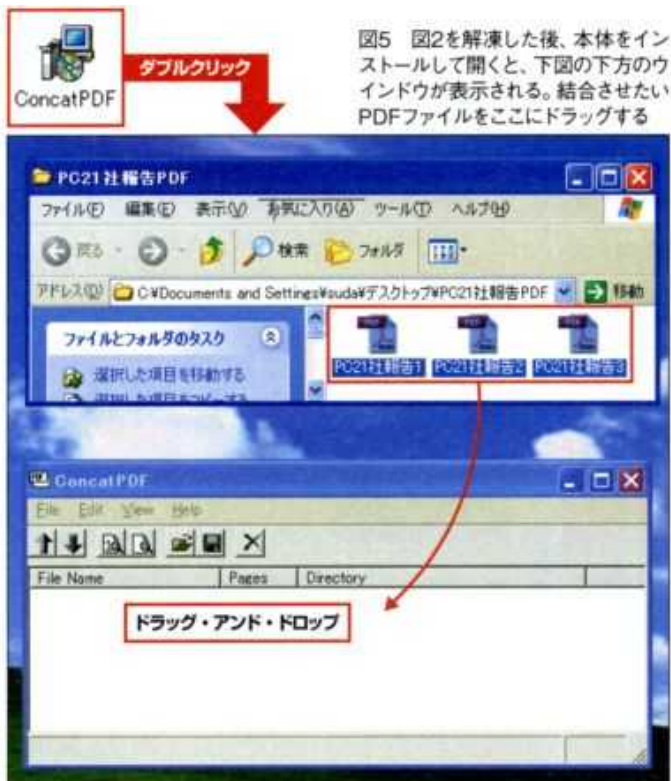


図5 図2を解凍した後、本体をインストールして開くと、下図の下方のウィンドウが表示される。結合させたいPDFファイルをここにドラッグする

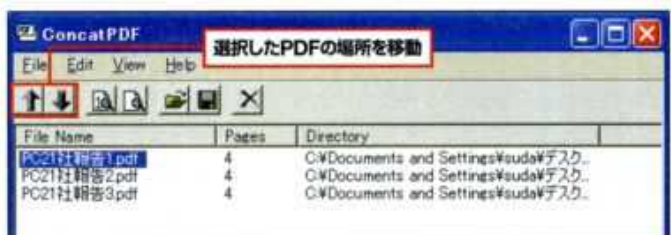


図6 並び順を変えたい場合は、ファイルを選択して上下の矢印キーを押して、順番を入れ替える。上にあるファイルを下に下げても、下にあるファイルを上に上げて同じこと



図7 最後に保存ボタンを押して、ファイル名を入力したら保存する。同ソフトでは、こうして結合したソフトに、パスワードを設定したり、印刷制限などのセキュリティ機能を付けたりできる

「ConcatPDF」は、PDFの「結合」「抽出」「削除」3役をこなす「ConcatPDF」です。このソフトを使うためには、2つのウィンドウズのモジュール（部品）が必要となること。

それは「.NET Framework」と「Visual J#.NET」で、自分のPCに入っていない場合は、いずれもマイクロソフトのサイトから入手して、インストールしておかなければならない（図3、図4）。

両モジュールを組み込み、「ConcatPDF」をインストールすれば、「結合」「抽出」「削除」の操作は、いずれも簡単だ。今回は「結合」のやり方を紹介しよう。

「ConcatPDF」を起動させ、開いたウィンドウの空白スペースに、結合させたいファイルをドラッグ・アンド・ドロップ（図5）。次に並び順を矢印ボタンで調整して、統合した後のファイル名を入力して保存すれば完了だ（図6、図7）。



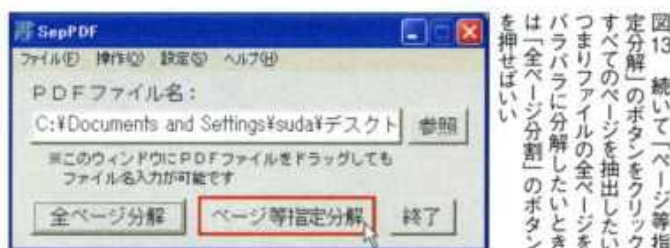
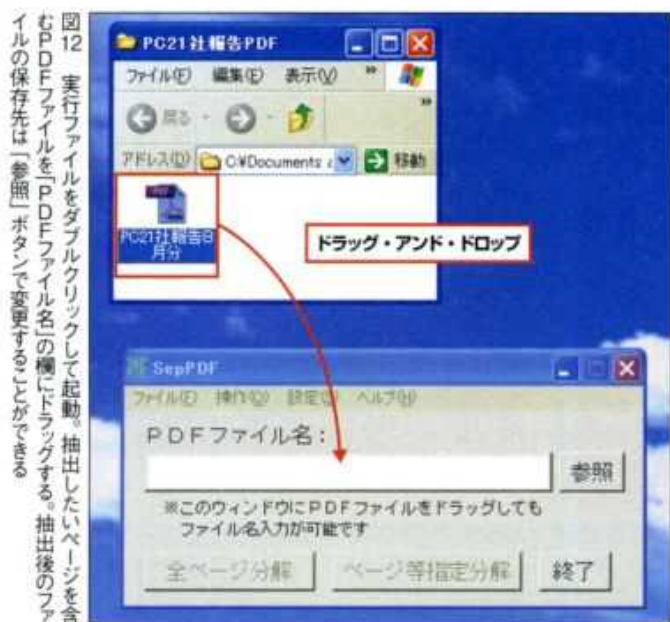
図2 ベクターのサイトで「ダウンロード」をクリックしてZIPファイルを手入。解凍するとセットアップファイルが現れる



図3 使つては事前に「.NET Framework」と「Visual J#.NET」を組み込む必要がある。左は「.NET Framework」の入手サイト



図4 続いて左のサイトで「Visual J#.NET」を手入。「.NET Framework」とともにインストールしてから、ConcatPDFをインストール



「餅は餅屋」という言葉があるように、「両ソフトとも」これ以上はないと思えるほど手軽で簡単に、それぞれの役目を果たすことができる。

「SepPDF」「PDF Delete Page」はいずれも、インストーラーが存在しない。だからダウンロードして解凍すれば、PC



図9 ソフトを起動して現れたウインドウに、結合させたいファイルをドラッグして、上下の矢印キーで順番を入れ替える。その後「詳細設定」タブを開き、インストーラーされているいずれかのPDF作成用仮想プリンタードライバを選択する



図10 「実行」タブを再び開き、「一括」ボタンをクリックし、完了を知らせるウインドウで「OK」をクリックすれば作業は終了。ファイル名は、実行時に選択状態になっていたファイル名の頭に「Merge (合体)」と付いて区別される

「PDFファイルの結合はしたい、しかしモジュールと合わせ、3つのソフトをインストールするのは煩わしい」というユーザーもいるかもしれない。そんな人は、PCにPDFを作る「PrimopDF」などの「仮想プリンターソフト」をインストールしてあるならば「まるごとPDF」を入手して使えば、より簡単にファイルの結合ができる(図8・図10)。

「抽出」の「SepPDF」
「削除」の「DeletePage」

「結合」「抽出」「削除」の役割が3つ共必要」という人は「ConcatPDF」で決まり。でももし「抽出」のみでいい」「削除」のみでいい」というならば、それぞれの機能に特化している「SepPDF」(抽出)、「PDF Delete Page」(削除)を使ってみてもいい。

[注] 「まるごとPDF」はLZH形式で圧縮されている。LZH形式のファイルを解凍するには、「Microsoft 圧縮(LZH形式) フォルダ」(<http://support.microsoft.com/kb/896133/ja>からダウンロード)などを利用する



図18 ベクターのサイトで「ダウンロード」をクリックしてZIPファイルを手に入れる。PDFや「SepPDF」や「SepPDF」同様、インストーラーが存在しないので、それを解凍すると実行ファイルが現れる。



図19 ソフトを起動すると右図の下のウィンドウが開く。空欄となっている「PDFファイル名」の欄に、操作したいファイルをドラッグする。

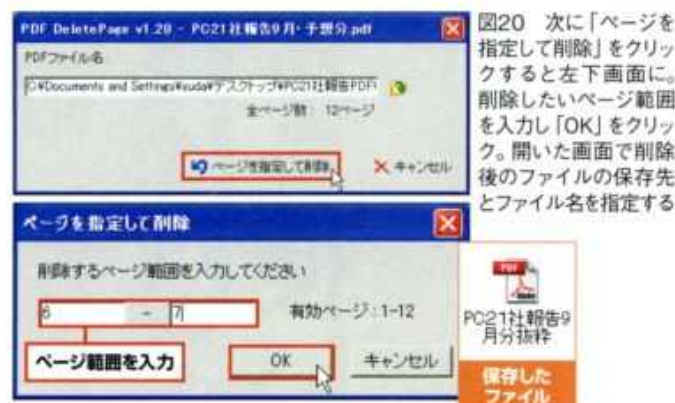
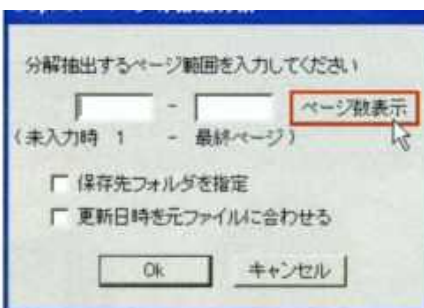


図20 次に「ページを指定して削除」をクリックすると左下画面に。削除したいページ範囲を入力し「OK」をクリック。開いた画面で削除後のファイルの保存先とファイル名を指定する。



ボタンを押すと、左のようなウィンドウが出てくる。ここはまず、空欄のまま、右にある「ページ数表示」のボタンをクリック

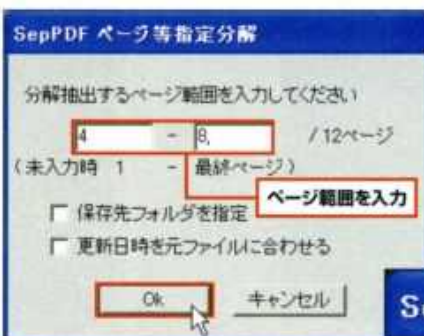


図15 すると全ページ数がそこに表示されるので、抽出する部分の最初のページ数と最後のページ数を入力する。そのファイルにどのようなページ番号が振ってあろうと、最初のページが1となるので注意を



図16 上のウィンドウで「OK」をクリックすると抽出作業がスタート。終わると右のウィンドウが現れるので、これも「OK」をクリックすれば、作業は終了する



図17 標準設定のままなら、ファイルから抽出したページは元のファイルと同じフォルダーに保存される。ファイル名は、元のファイル名にページ番号が付いた形となる

次に「ページを指定して削除」のボタンを押して、現れる画面で削除したいページの範囲を入力(図20)。不要部分が削除された新しいファイルの保存先とファイル名を指定すれば、操作は完了する。

「SepPDF」を使ってファイルの必要な部分を抽出するための操作は、まず起動して現れたウィンドウに、抽出したいページがあるファイルをドラッグ・アンド・ドロップ(図12)。

後は「ページ等指定分解」のボタンを押して、抽出したい範囲を指定すれば、その範囲のページが、1ページずつバラバラに保存される(図13、図17)。

「全ページ抽出」つまり「全ページをバラバラにして、それぞれを1ファイルずつにしたい」場合は、「ページ等指定分解」ではなく「全ページ分解」のボタンを選ぶ。

「PDF DeletePage」を使って「不要なページを削除する」つまり「必要なページのみで構成されたファイル」にするには、まず起動して現れたウィンドウに、対象となるファイルをドラッグ・アンド・ドロップ(図19)。

次に「ページを指定して削除」のボタンを押して、現れる画面で削除したいページの範囲を入力(図20)。不要部分が削除された新しいファイルの保存先とファイル名を指定すれば、操作は完了する。

お値段そこそこ、機能はバツチリ！ スグレもののソフト2本を使い倒す

それぞれ特徴を持つ、2つの定番PDF作成ソフト



ソースネクスト
**いきなりPDF
COMPLETE**

対応OS: 7/ビスタ/XP
<http://www.sourcenext.com/>



アンテナハウス
**書けまっせ!!PDF4
プロフェッショナル**

対応OS: 7/ビスタ/XP/2000
<http://www.antenna.co.jp/>

図1 両ソフトとも機能を限定したスタンダード版がある。「書けまっせ〜」は、タブレット入力対応の最上位版「書けまっせ!!PDF4プロフェッショナルPlus」も

「いくらなんでも高いでしょ！スタンダード版で3万円以上するなんて。そりゃあ純正品は欲しいけど……」

これがPDFをよく利用するユーザーの、アドビ・アクロバットに対する、率直な気持ちではないだろうか。しかし、その一方で、「フリーソフトもいけれど、

本格的な文字の書き込みなど、狙い通りにできないことがあるので、満足はしていない。仕事に使うことが多いので、それなりに信頼性が高くないと困る」

なるほど！これも本音。それでは「お値段そこそこ、機能はバツチリ」のスグレもののPDF作成ソフトを試してみようか。

定番はやはりこの2つ。「書けまっせ!!PDF4」（アンテナハウス）と「いきなりPDF」（ソースネクスト）だ（図1）。

どちらも1万円前後
「いきなり〜」は新バージョン

「書けまっせ!!PDF4プロフェッショナル」「いきなりPDF COMPLETE」はいずれもPDFファイルの作成「テキストの直接書き込み」「編集」「ファイルの組み替え」「他のファイル形式への書き出し」「セキュリティ付加」など、PDFを扱うために必要となる機能を十分に備えたバージョンだ。

また、両ソフトとも、機能を限定したスタンダード版が用意されている。「書けまっせ!!PDF4スタンダード」（7000円前後）は、「PDFを画像として張り付ける」など、「プロフェッショナル」ではできないいくつかの機能が使えないが、その数は少ない。一方「いきなりPDFSTANDARD」（4000円前後）は、「テキス

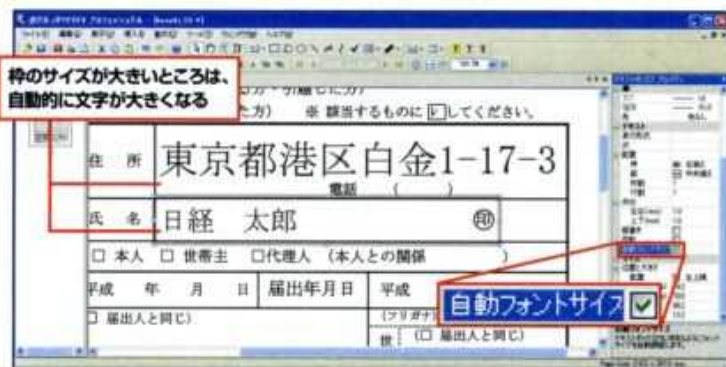


図4 画面右側に現れる「プロパティペイン」のテキスト欄の「自動フォントサイズ」をチェック。すると書き込んだ文字が自動的に枠のサイズに合う大きくなる

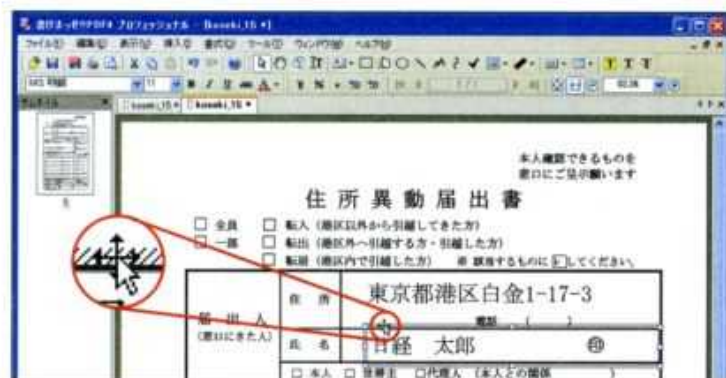


図5 テキストボックスをドラッグすることで、文字を左右上下に動かして位置を調整できる。またテキストボックスのコーナーをドラッグして、文字の大きさも調整できる

ドラッグしてチェックマークを入れる。大きさも自在

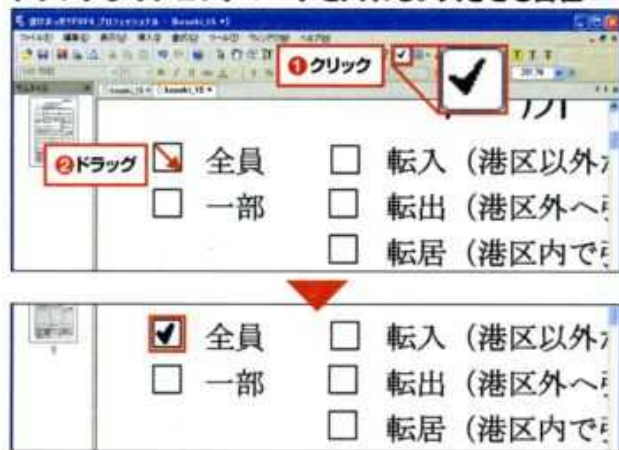


図6 チェックマークを入れるには、ツールバーの「チェックマーク」をクリックした後に(1)文書のチェックボックスに合わせて斜めにドラッグする(2)。

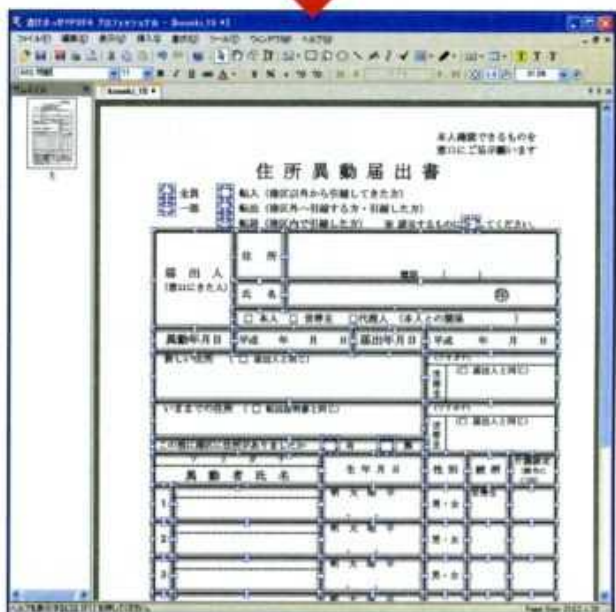
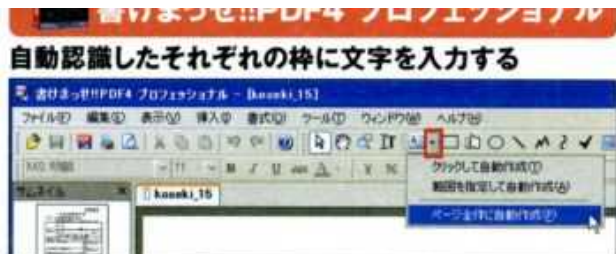


図2 申請書などPDF内の記入枠を認識するには、ツールバーの「テキストボックス」右側の「▼」をクリックし「ページ全体に自動生成」を選択。すると文書内の枠がすべてテキストボックスとなり、選択された状態に



図3 文字の大きさを枠に合わせたいときは、まず「表示」メニューから「プロパティペイン」を選ぶ

「書けまっせ!!PDF4」の強みは、役所や企業の申込書として配布されるPDF文書の記入枠をきちんと認識し、そこに文字を直接入力できる機能だ。

通常こうした申請書は、サイトからデータをダウンロードして、印刷したものに必要事項を手書きして、ファクスや郵便で送る、というケースが多い。字がきれいな人ならまだしも、そうでない人は、せっかく整ったPDF画面を、へたな字で汚すことになり、「画面点検を欠く」感が否めない。

「整った画面には、パソコンで活字を入力したい」。こんなこだわりのニーズに应运てくれる機能だが、その操作は決して難しくはない。記入枠への文字入力だけ

トの直接編集「クリップボードの挿入」など、制限が比較的多く、「COMPLETE」との格差を大きくしてあるのが特徴。

また「書けまっせ!!PDF4」には、タブレット入力に対応した最上位版「書けまっせ!!PDF4プロフェッショナルPlus」も用意されているので、用途と予算に応じた選択をするとい。

「書けまっせ!!PDF4」の強み
文字の記入欄を自動認識

7 点線で区切られたふりがな欄まで自動認識できない。そこで、テキストボックスの上端をドラッグして下げ、ふりがな欄にスペースを作る

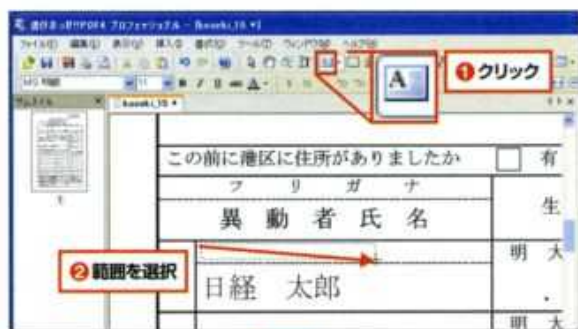
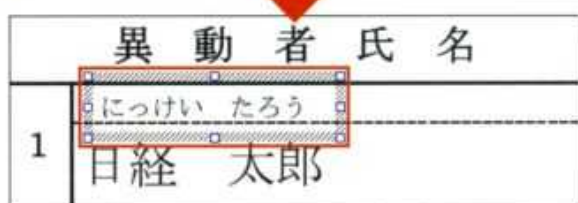


図8 ツールバーの「テキストボックス」ボタンをクリックした後(1)、ドラッグして範囲を選択すると(2)、新たにテキストボックスができるので、そこに入力する



○印もチェック同様ドラッグして付ける

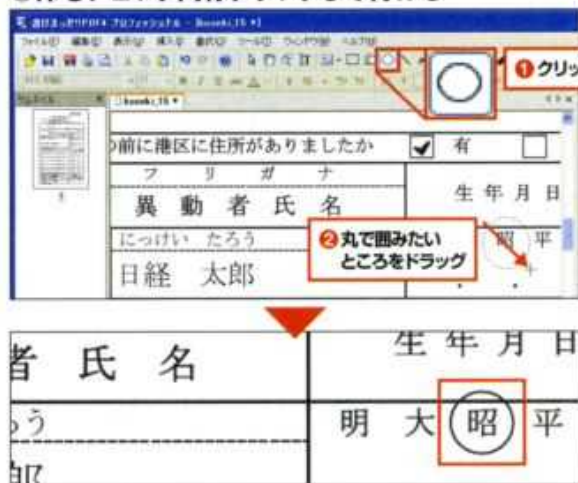
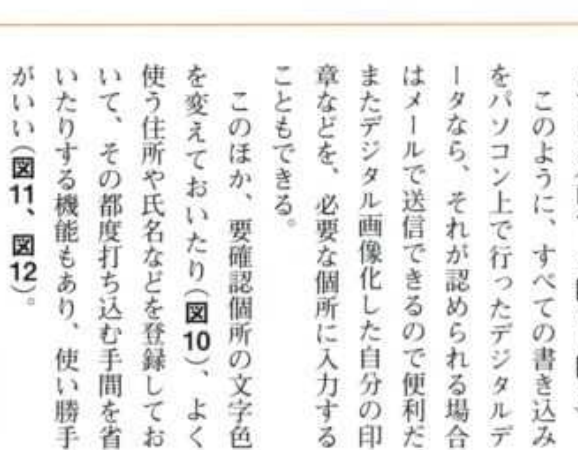


図9 ○印の付け方はチェックと同様。ツールバー「罫線」ボタンをクリックして(1)、で囲みたい部分を斜めにドラッグして(2)、もちろん罫線だけでなく、真円にもできる



このほか、要確認箇所の文字色を変えておいたり(図10)、よく使う住所や氏名などを登録しておいて、その都度打ち込む手間を省いたりする機能もあり、使い勝手がいい(図11、図12)。

「いきなり」新バージョンはインタフェースを刷新

PDFファイルを取り扱うフリーソフトは、「作成専用」「編集専用」など、そのソフトでできる作業のジャンルが限られていることが多い。そのため「いきなりPDF」のような、何でもできるPDF総合ソフトを使う場合、初心者には操作に戸惑うこともある。新「いきなりPDF」は、立ち



図10 後で確認したい項目などは、色を変えておくと分かりやすい。テキストボックスを選択した状態で「文字色」ボタンを押し、パレットから色を選ぶ

繰り返し使う文字や図形はデータトレイに登録



図11 住所など、繰り返し使う項目をその都度キーボードで打つのは面倒。メニューの「ツール」にある「データトレイ表示」を選択し、現れたデータトレイに文字を入力。「閉じる」を押して登録完了

図12 登録を入力するにはテキストボックス上で右クリックして(1)「データトレイ」↓「データトレイ表示」を選択(2)。表示されたら「選択位置に挿入」をクリックする

図12 登録を入力するにはテキストボックス上で右クリックして(1)「データトレイ」↓「データトレイ表示」を選択(2)。表示されたら「選択位置に挿入」をクリックする



第2に、「作る」の操作画面を開く。DFにしたいファイルを選択し、ドラッグ・アンド・ドロップして「実行」をクリックする方法。

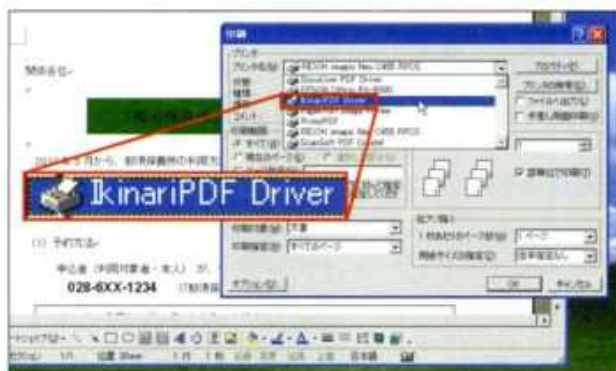


図17 第3は、仮想プリンターを使う方法。ファイルを開いた状態で「印刷」の操作をすれば、PDF化するための「いきなりPDF Driver」が選択できる。

スタンプやクリップアートの種類も充実



図18 スタンプやクリップアートの種類も充実。クオリティーが高いので、仕事にも、プライベートにも活用できそうだ。

また「いきなりPDF」には、書面に張り込むスタンプやクリップアートも充実(図18)。仕事や友人同士でやりとりするPDFに活用すれば、ワンランク上のデータを作れそう。

「作る」では、ワードやエクセルなどのファイルをPDFにする時に、3種類のの方法を選ぶことができる(図15、図17)。複数のファイルを一括してPDF化したいならドラッグ・アンド・ドロップで、一つひとつPDFの画質を変えるなら右クリックを使って、などと使い分けられて便利だ。

「作る」では、ワードやエクセルなどのファイルをPDFにする時に、3種類のの方法を選ぶことができる(図15、図17)。複数のファイルを一括してPDF化したいならドラッグ・アンド・ドロップで、一つひとつPDFの画質を変えるなら右クリックを使って、などと使い分けられて便利だ。

「作る」では、ワードやエクセルなどのファイルをPDFにする時に、3種類のの方法を選ぶことができる(図15、図17)。複数のファイルを一括してPDF化したいならドラッグ・アンド・ドロップで、一つひとつPDFの画質を変えるなら右クリックを使って、などと使い分けられて便利だ。

「作る」では、ワードやエクセルなどのファイルをPDFにする時に、3種類のの方法を選ぶことができる(図15、図17)。複数のファイルを一括してPDF化したいならドラッグ・アンド・ドロップで、一つひとつPDFの画質を変えるなら右クリックを使って、などと使い分けられて便利だ。

「作る」では、ワードやエクセルなどのファイルをPDFにする時に、3種類のの方法を選ぶことができる(図15、図17)。複数のファイルを一括してPDF化したいならドラッグ・アンド・ドロップで、一つひとつPDFの画質を変えるなら右クリックを使って、などと使い分けられて便利だ。

「作る」では、ワードやエクセルなどのファイルをPDFにする時に、3種類のの方法を選ぶことができる(図15、図17)。複数のファイルを一括してPDF化したいならドラッグ・アンド・ドロップで、一つひとつPDFの画質を変えるなら右クリックを使って、などと使い分けられて便利だ。

スタートパネルでまず作業ジャンルを選ぶ



図13 ソフトを立ち上げると分かりやすいスタートパネルの画面に。各ジャンルには、それぞれ使いやすいインターフェースが用意されている。

「編集する」はオフィス2007の「リボン」方式を採用



図14 「編集する」で現れるインターフェース。オフィス2007でおなじみの「リボン」で作業を切り替える方式が採用された。

3つの方法でPDFの作成ができる

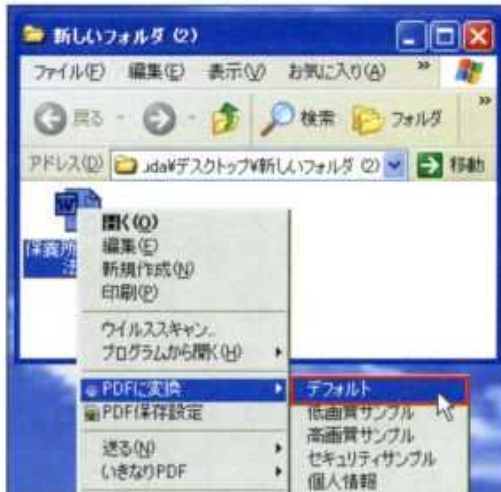


図15 「作る」では3つの方法でPDF作成ができる。第1に、PDFにしたいファイルを右クリックし、開いたメニューから「PDFに変換」(「ファイル設定」)の選択で作成。

連続処理、「禁止」も印刷、一部のみも印刷の不便を無料2ソフトで解消

●複数のPDFを連続印刷したい



●印刷禁止のPDFを印刷したい



●PDFの一部だけを印刷したい



図1 何かと不便さを感じることが多いPDFファイルの印刷。「PDF連続印刷」と「Brava! Reader」が、その悩みを簡単に解決してくれる

フリーソフトで閲覧できて、活用しやすく、データも軽い。そんな気軽・手軽・身軽が身上のPDFファイルだが、時にアドビ・リーダーだけでは「ちよつと、どうにかならないの?」という不便さを感じることもある(図1)。

特に、そう感じることが多いのが印刷に関連した作業。いくらPDFが「ペーパーレス」を標榜するファイル形式だと言っても、「やっぱり印刷して確認したい」「印刷して、取っておきたい」というニーズがなくなるものではない。

そこで今回は「印刷に絡む不便さ」の中でも、特にイライラする「連続印刷ができない」「印刷禁止のファイルが印刷できない」「一部の印刷ができない」という3大不便を、簡単に解消してくれる2つのフリーソフトを紹介しよう。どちらも使い勝手は抜群だ。

1回の操作で後はダダダダ:
複数のファイルを連続印刷

複数のPDFファイルがある場合、それを全部印刷するのは、通常のやり方だと面倒な作業だ。原則として、すべてのファイルをアドビ・リーダーで開いて、1つずつ「印刷」の操作をしていかなければならない。

「ああ、1回の操作をするだけで、あと放っておけばダダダダーと全部印刷してくれればなあ……」。そんなユーザーの要望に応じてくれるフリーソフトが「PDF連続印刷」だ(図2)。

このソフトを使うには、フリーソフトのアドビ・リーダーが有料ソフトのアドビ・アクロバットのどちらかが必要となる。

これに加えて、ソフトウェアのモジュール(部品)「Visual Basic

まずプリンターを選び、その後ファイルを選ぶ



図6 「初期設定」も「出力プリンター」メニューから、ファイルを印刷するプリンターを選択。ここで「保存」ボタンを押せば、以後ソフトを立ち上げたときに、何もなくてもそのプリンターが選択された状態になっている

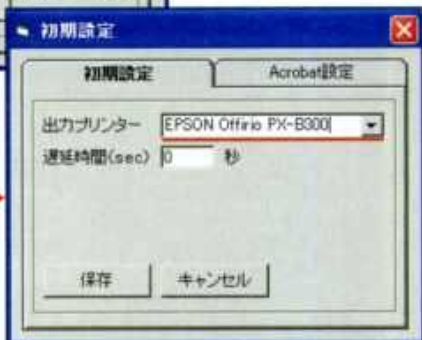
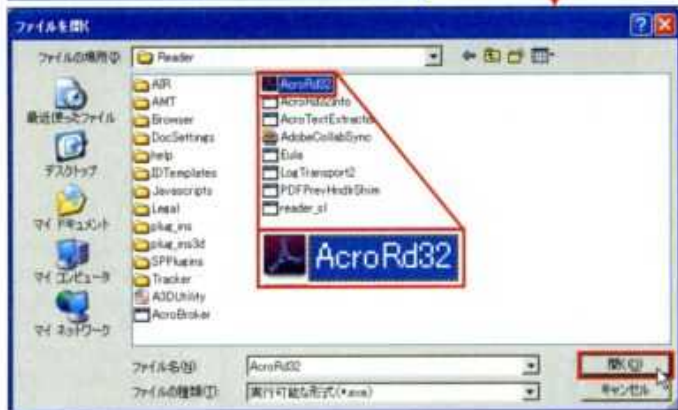


図7 次に「Acrobat設定」のタブに切り替えて、「Path」欄の右にある「...」ボタンをクリック。するとCドライブ「Program Files」内にある「Reader」フォルダーが開くので「AcroRd32」を選択して「開く」ボタンを押す



複数のPDFファイルを連続で印刷できる



図2 パソコンにつながっているプリンターを使ってでも、複数のPDFファイルを連続して印刷できるようにするフリーソフト。左記サイトからダウンロードしてインストール



print11
ダウンロードしたファイル

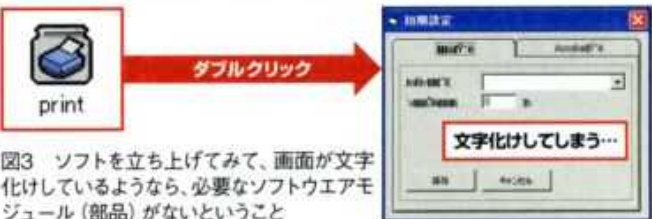


図3 ソフトを立ち上げてみて、画面が文字化けしているようなら、必要なソフトウェアモジュール（部品）がないということ



図4 その場合は必要なモジュール「Visual Basic 6.0 SP6 ランタイムライブラリ」を左記サイトからダウンロードしてインストールする

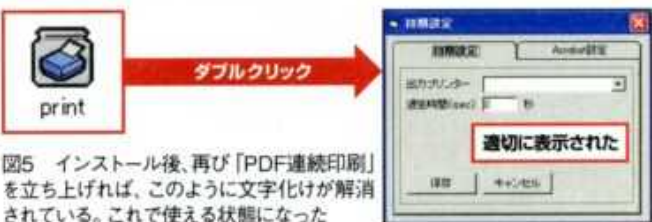


図5 インストール後、再び「PDF連続印刷」を立ち上げれば、このように文字化けが解消されている。これで使える状態になった

の「ランタイム」が必要なので、自分のパソコンにこれがない場合は、前もってインストールしておくとい（図3～図5）。

アドビ・リーダーがある場合の操作は「プリンターを選択」「アドビ・リーダーの実行ファイル「AcroRd32.exe」を選択」「印刷するファイルを選択」「印刷の実行」という手順で進めていく（図6～図10）。

「プリンターを選択」「AcroRd32.exe」を選択は、PDF連続印刷と、印刷するプリンター、アドビ・リーダーとを関連付けするためにいう操作。その設定を「保存」しておけば、次回起動時からは、最初からそれらが選ばれる。

一連の操作では、一つひとつのファイルをいちいち開く必要がないので、時間と手間を大幅に節約することが出来る。また、メモリが少ないパソコンでも、実行できるメリットがある。

ただし、勘違いして、対象としていないファイルもプリントアウトして気付かないというリスクがある。大量のファイルを選択して「印刷」指令を出し、印刷物を見て初めて、間違ったファイルだったことが分かりることがないように、十分注意が必要だ。

[注] PCにアドビ・リーダーがなくアドビ・アクロバットのみある場合は「AcroRd32.exe」の代わりに「acrobat.exe」を選択する



図11 ベクターのサイトで「ダウンロード」をクリックして「印刷禁止」ファイルを手に入れる。閲覧に関するユーニークな機能もあり、ぜひ持っておきたい



図12 PDFは、作者がさまざまな禁止事項を設定できる。「印刷禁止」を設定されたファイルをアドビ・リーダーで開いても印刷できない

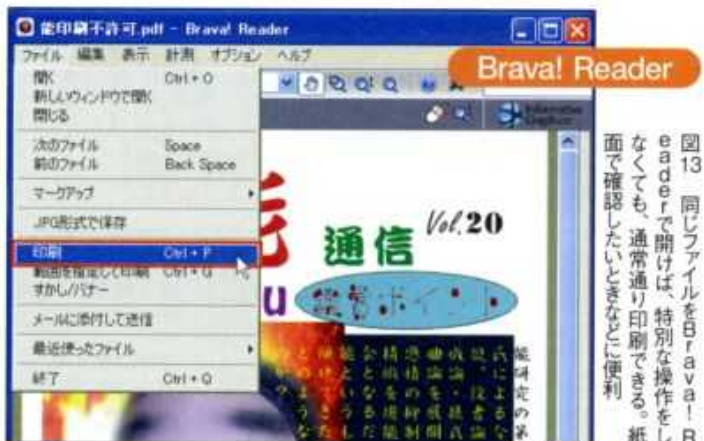


図13 同じファイルをBrava! Readerで開けば、特別な操作をしなくても、通常通り印刷できる。紙面で確認したいときなどに便利

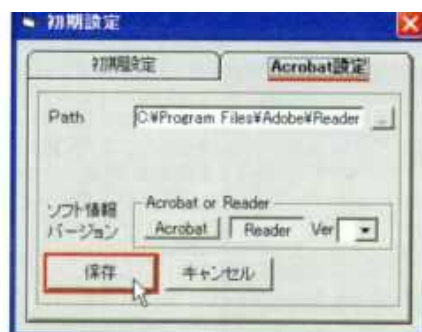


図8 「PDF連続印刷」の「初期設定」画面の「Acrobat設定」タブに戻るので、「保存」ボタンをクリックする

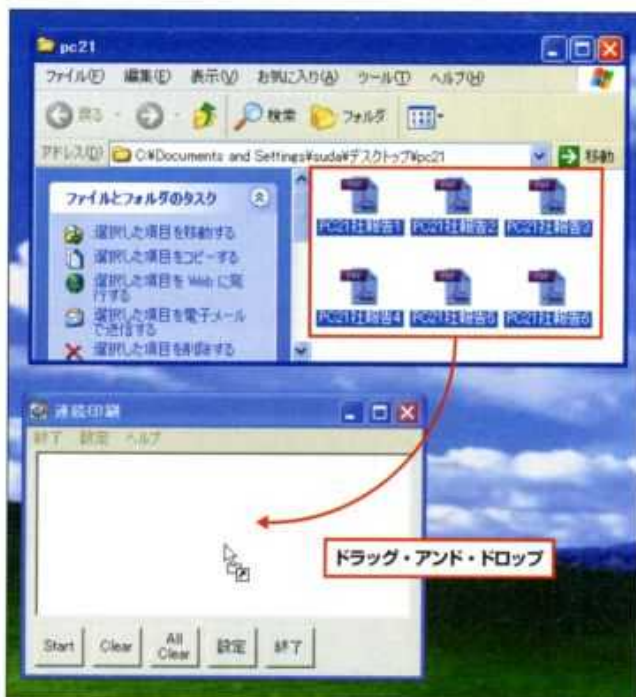


図9 「PDF連続印刷」の画面が開くので、そこに印刷したいファイルをドラッグ・アンド・ドロップする。別のフォルダーにあるファイルを同様にしてドラッグ・アンド・ドロップすればそれが追加される



図10 「PDF連続印刷」のウィンドウには、指定されたファイルの一覧が表示される。「Start」ボタンを押せば、アドビ・リーダーが自動的に起動し、印刷がスタートする

「印刷禁止」も何のその
Brava! で難なく印刷

PDFファイルは、作成するソフトによっては、さまざまな禁止事項を設定することができる。

印刷をさせないようにする「印刷禁止」もその1つ。しかしそんなファイルを手に入れた場合、実際に印刷できないのはちょっと不便だ。別に作者の権利を侵して悪用しようというわけじゃない。印刷物でチェックしたり、紙の形で取っておきたいだけだというのに……

裏技としては、「PrintScreen」キーなどによってキャプチャーして、画像ファイルとして印刷することでもできるのだが、せっかくの良い画質が台無しになることもある。

こんなとき、フリーのPDF閲覧ソフト「Brava! Reader」を使えば、その不便さを難なく解消できる(図11)。

例えば印刷禁止設定をされたファイルは、アドビ・リーダーで開くと、そもそも「ファイル」メニューの「印刷」が選択できない状態になる(図12)。ところが同じファイルでも「Brava! Reader」で開けば、「ファイル」メニューの「印刷」がちゃんと選択でき、問題なく印刷できるのだ(図13)。

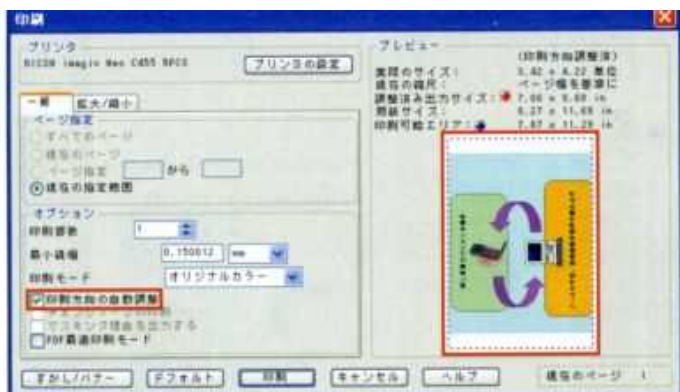


図17 「印刷」画面が開き、指定した範囲が表示される。デフォルトでは「印刷方向の自動調整」の欄にチェックが入り、横長の画面は横向きに印刷される

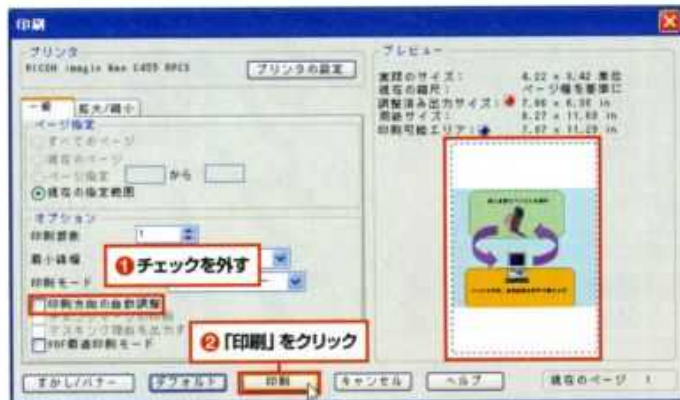


図18 もし横長画面でも縦向きに印刷したいような場合などは、「印刷方向の自動調整」欄のチェックを外してから「印刷」ボタンをクリックする

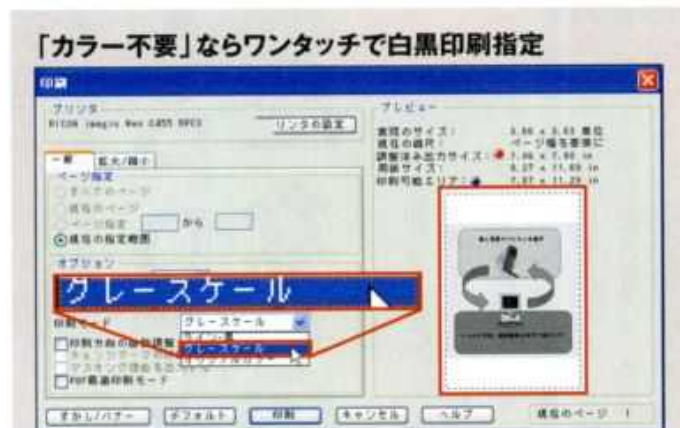


図19 「印刷」画面ではほかの設定もできる。カラー印刷が不要の場合は、「印刷モード」で「グレースケール」を選択すればいい

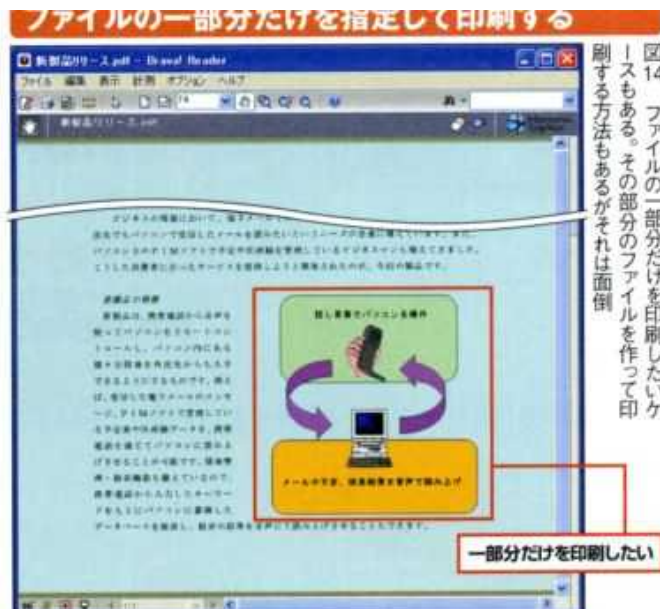


図14 ファイルの一部分だけを印刷したいケースもある。その部分のファイルを作って印刷する方法もあるがそれは面倒

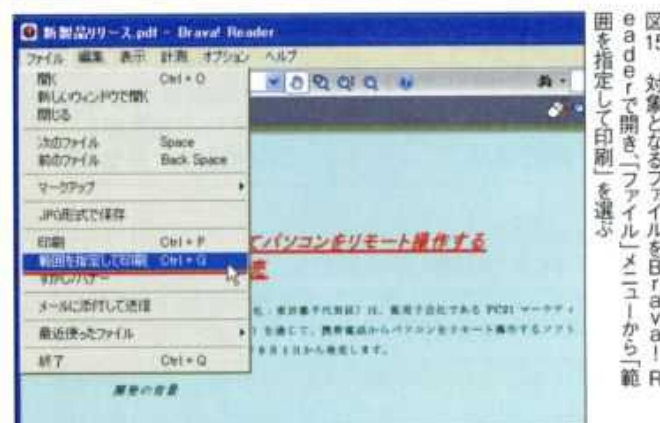


図15 対象となるファイルをBravia Readerで開き、「ファイル」メニューから「範囲を指定して印刷」を選ぶ



図16 するとマウスポインターが十字になるので、印刷したい部分をドラッグすれば、四角い形に印刷範囲を指定できる

「部分印刷」で紙も時間も無駄を省くことができる

アドビ・リーダーを使ってPDFファイルを開いて、それを印刷する場合、ページ単位で印刷しなければならぬ。

しかし資料として配付されることの多いPDFファイルでは「この部分の解説図だけが必要」「このグラフだけ印刷したい」などといったケースが少なくない(図14)。

こういう場合、不要な部分が入っていない、焦点を絞った印刷物にするには、必要な部分のみをカット・アンド・ペーストして、別のPDFファイルや画像ファイルなどを作り、印刷しなければならぬ。しかしこれはかなり面倒くさいし、アクロバットや画像の作成ソフトが必要となる。

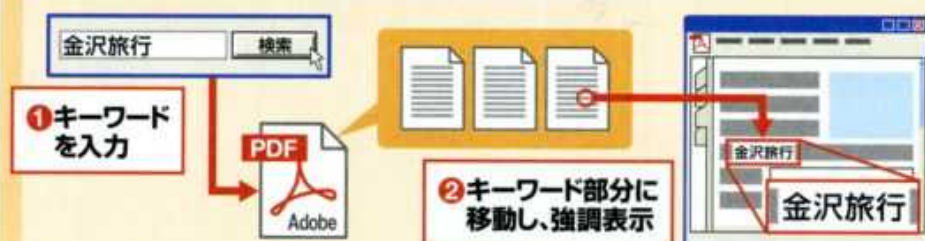
ところが先に紹介した「Bravia Reader」を使えば、この不便さも簡単に解消できる。

まず「範囲を指定して印刷」のメニューを選択。そして印刷したい範囲をドラッグして四角形に切り取る。これを印刷すれば完了だ(図15・図18)。

また、同じ画面で、白黒画像にして印刷する指定も、ワンタッチでできる(図19)。

検索機能で必要なPDFを探し出す 「インデックス検索」なら瞬時に完了

1 開いているファイルの中からキーワードを探す



2 複数のPDFからキーワードを含むものを検索する

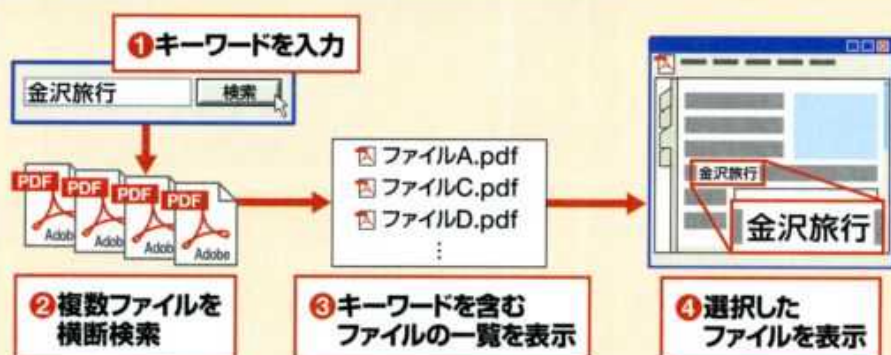


図1 PDFの検索には2種類ある。開いているPDF内でキーワードのある場所を探す「ファイル内検索」と、複数のPDFからキーワードを含むものを探す「複数ファイルの横断検索」だ。後者を瞬時に実行する「インデックス検索」という方法も紹介する

文書をPDFにして管理するときに便利なのが、中に含まれる文字を対象に検索できるという点だ。知りたい情報に関するキーワードを指定すると、それを含むPDFを探し出し、すぐに閲覧できる。紙の文書にはない、大きなメリットだ。

PDFの検索には、大まかに2種類ある。1つは、今開いているPDFの中からキーワードの位置を探す方法。もう1つは、複数のPDFの中からキーワードを含むファイルを探す方法だ。どちらも、無料のPDF閲覧ソフト「アドビ・リーダー」を使って行える。

ただし2つ目の方法では、PDFが多数あると、かなり時間が掛かりイライラする。これを解決するのが、76ページで後述する「インデックス検索」だ。インデックス検索なら、数百のPDFがあっても、必要なものを瞬時に探し出

せる。これらの検索方法を紹介しよう(図1)。

**アドビ・リーダーでPDF検索
キーワードの場所をすぐ表示**

まずはアドビ・リーダーを使って、開いているPDFの中からキーワードの場所を探す方法を見ていこう。

アドビ・リーダーでPDFを開き、ツールバーにある入力欄にキーワードを書き込む。「Enter」キーを押すと、キーワードを含むページに移動し、該当部分が強調表示される(図2、図3)。文書中にキーワードが複数ある場合は、「次を検索」ボタンを押すと、次のキーワードの場所が自動で表示される(図4)。

続いて、複数のPDFの中から、キーワードを含むファイルを検索してみよう。

「編集」メニューから「検索」を

複数のPDFから探し出す



図5 複数のPDFからキーワードを含むファイルを探そう。「編集」メニューの「検索」を選ぶと①、新たに「検索」ウィンドウが開く②

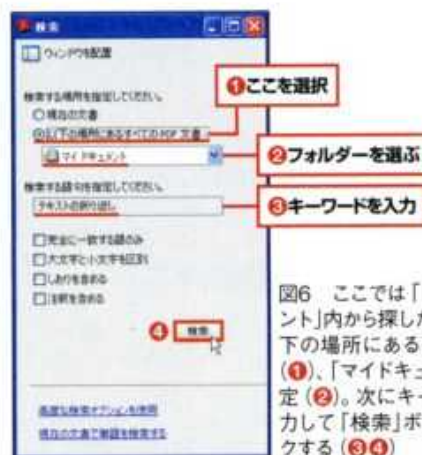


図6 ここでは「マイドキュメント」内から探したいので、「以下の場所にある…」を選択し①、「マイドキュメント」を指定②。次にキーワードを入力して「検索」ボタンをクリックする③④

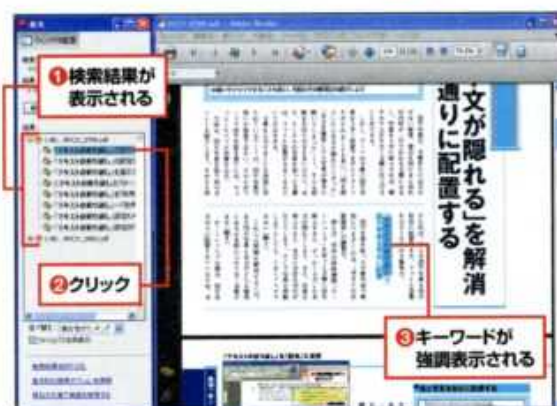


図7 「結果」欄に、キーワードを含むPDFファイル名と、キーワードを含む文章の一部が一覧される①。クリックすると②、ファイルが開き、キーワード部分が自動で表示される③

ファイル内でキーワードの位置を探す



図2 閲覧ソフトの「アドビ・リーダー」でファイル内検索をするには、ツールバーの入力欄にキーワードを書き込み①、「Enter」キーを押す②[注1]



図3 キーワードのあるページに自動で移動し、キーワードが強調表示される。なお該当するキーワードがない場合は、「…ありませんでした。」とメッセージが出る



図4 ツールバーの「次を検索」ボタンをクリックすると①、次のキーワードの場所に移動し、強調表示される②。隣の「前を検索」ボタンを押すと、前のキーワードへ移動する

選ぶと、「検索」ウィンドウが表示される(図5)。ここで、検索対象とするフォルダーやキーワードを入力(図6)。大文字と小文字の区別などの条件も指定できる。

「検索」ボタンを押すと、キーワードを含むPDFのファイル名と、キーワードを含む文章の一部が一覧表示される。文章部分をクリックすると、実際にPDFが開

き、キーワードを含むページが自動で表示される(図7)。ただし、この検索方法ではすべてのPDFファイルを順番に調べっていくので、ファイルが多数ある

ときは非常に時間が掛かる。検索を短時間でを行うには、次に紹介する「インデックス検索」を使う。Google・デスクトップを導入手明テキストPDFの検索も

インデックス検索とは、専用ソフトを使う。今回は、PDFをはじめ、エクセルやワード、メールなど、パソコン内のさまざまなファイルをインデックス検索できる「Google・デスクトップ」を使ってみる。

まずはソフトをインストールする。Googleのウェブページからインストーラー用ソフトをダウンロード。それをダブルクリックすると設定画面が表示され、インストーラーが始まる(図10、図11)。

インデックス検索では、あらかじめファイル内の文章を解析して、さまざまなキーワードがどのファイルのどのページにあるかをまとめた「索引」(インデックス)を作成する。検索をするときは、ファイルそのものではなく、インデックスを対象に行う。個々のファイルの内容をそのつど調べるわけではないので、通常の検索よりも素早く実行できる(次ページ

図8、図9)。

[注1] ツールバーに入力欄がない場合は、「表示」メニューから「ツールバー」→「検索」と選ぶ
[注2] ウィンドウズ・ビスタは、インデックス検索機能を最初から持っている
[注3] 「テキストのコピー」が禁止されているPDFは検索できない

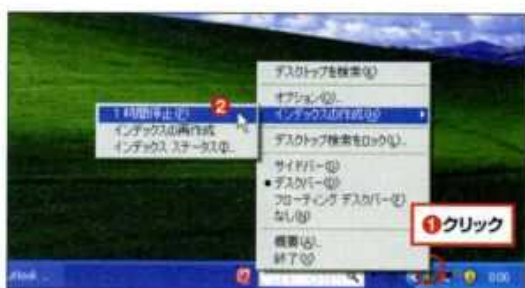


図12 インストール後、自動的にインデックスの作成が始まるが、いったん停止する。タスクバーのアイコンをクリックし(①)、「インデックスの作成」→「1時間停止」を選ぶ(②)

透明テキスト付きPDFを検索可能にする



図13 透明テキスト付きPDFの検索には、フリーのプラグインソフト「GoogleXdoc」を導入する[注5]。上記のページで「ダウンロード」をクリックし、ファイル入手。解凍しておこう



図14 「メモ帳」を起動し(①)[注6]、解凍したフォルダーにある「SoftFarmXdocFileIndexer.conf」をメモ帳の上にドラッグ・アンド・ドロップして開く(②)



図15 テキストの下の方にある「#AddNewExtension "pdf"」の「#」を削除する。削除したらファイルを上書き保存して、メモ帳を閉じる

[注4] ガジェットとは、デスクトップ画面に常に表示させておく小物ソフトのこと

[注5] PDFなどから文字を取り出す「Xdoc」(hishida氏作)を基に、ソフトファーム氏がプラグイン化したもの

[注6] メモ帳を起動するには、「スタート」メニューの「すべてのプログラム」→「アクセサリ」→「メモ帳」を選ぶ

の作成が自動的に始まる。しかしここでは、いったんインデックス作成を停止しよう(図12)。グーグル・デスクトップでは、紙をスキャナーで取り込み、OC

R(光学式文字読み取り)機能で認識した文章を画像の上に重ねた、いわゆる「透明テキスト付きPDF」の検索はサポートしていない。そこで、透明テキスト付き

PDFも検索できるよう、プラグインソフトを追加する。まずプラグインソフトのファイル入手(図13)。次に、透明テキスト付きPDFが検索対象にな

るように設定を変更する(図14、図15)。設定が済んだらソフトをインストールし、インデックスを改めて作成する(図16、図17)。パソコン内のファイルの数が多

「インデックス検索」でスピードアップ!

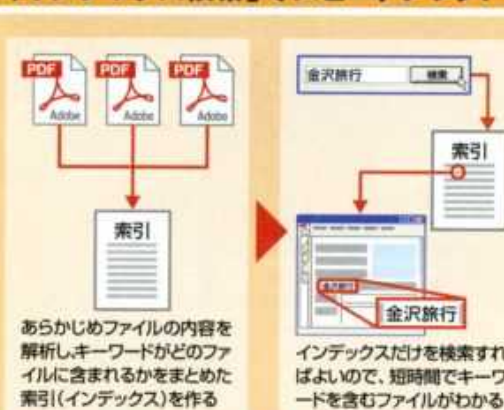


図8 「インデックス検索」では、PDFの内容を解析して、さまざまなキーワードがどのファイルに含まれるかをまとめた「索引」を事前に作成。それを使って検索する

通常は3分以上掛かる検索も瞬時に完了

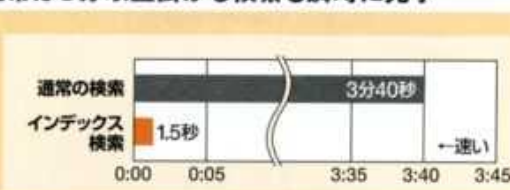
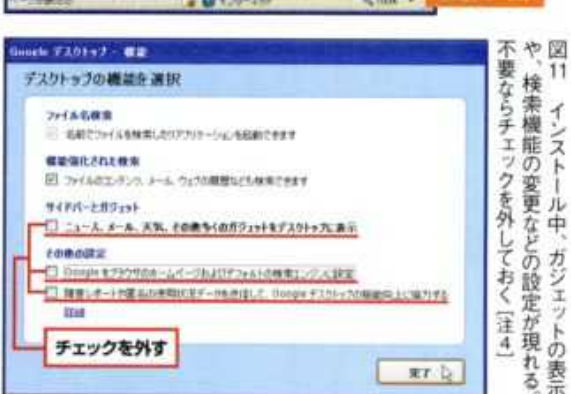


図9 通常の検索は、個々のPDFの内容をそのつど読み取るので時間が掛かる。今回、Cドライブ内にある200個のPDFを検索したところ、3分40秒掛かった。一方インデックス検索は一瞬で終わった

Googleデスクトップを利用する



ブラウザーで検索すれば結果も見やすい

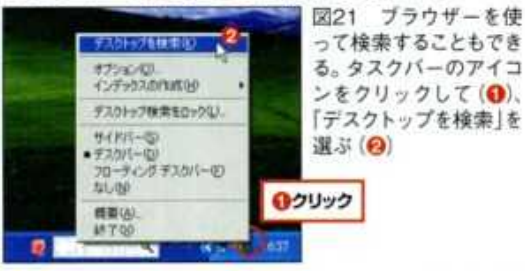


図21 ブラウザーを使って検索することもできる。タスクバーのアイコンをクリックして①、「デスクトップを検索」を選ぶ②。



図22 キーワードを入力して「デスクトップを検索」を押す①②。検索結果をPDFに絞るには、「ファイル」をクリックし③、現れる「表示」欄で「pdf」を選び「実行」を押す④⑤。



図23 ファイル名の下にある「プレビュー」をクリックすると①、文字部分の内容を確認できる②。[注7]

いと、インデックス作成は時間が掛かるので、気長に待とう。タスクバーに表示されるグーグル・デスクトップのアイコンにマウスポインターを合わせると、進行状況を確認できる。

インデックスの作成が完了したら、検索を試してみよう。タスクバーに入力欄が表示される。

インデックスで瞬時に検索 ブラウザー画面での操作も

PDFだけを検索対象にしたい

検索結果画面の「ファイル」と書かれた部分をクリックすると、ファイルの検索結果だけに絞りこめる(図22)。また「プレビュー」をクリックすると、PDF内の文字部分を確認できる(図23)。

タスクバーでの操作が狭くて見づらいと感じたら、ブラウザーを使ってインデックス検索しよう。表示場所が広く、結果も見やすい。タスクバーのアイコンで「デスクトップを検索」を選択(図21)。



図16 フォルダー内の「Indexing」ボタンを押す。確認画面が表示されたら「インストール」ボタンを押す。

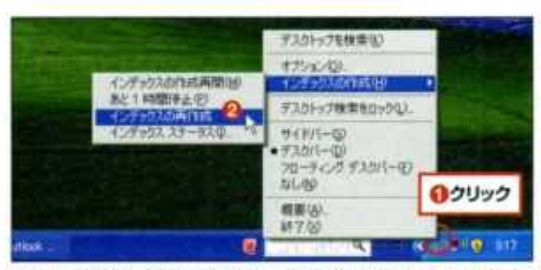


図17 設定後、改めてインデックスを作成する。タスクバーのアイコンをクリックし①、メニューから「インデックスの作成」→「インデックスの再作成」と選ぶ②。

インデックス検索で目的のPDFを見付ける

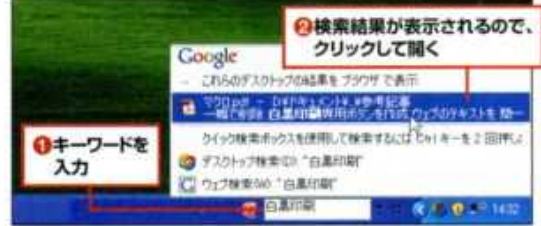


図18 タスクバーに表示される入力欄に、キーワードを書き込む①。すると、キーワードを含むファイル名とその前後の文が瞬時に表示されるので、クリックして開く②。

PDFだけを検索対象にする

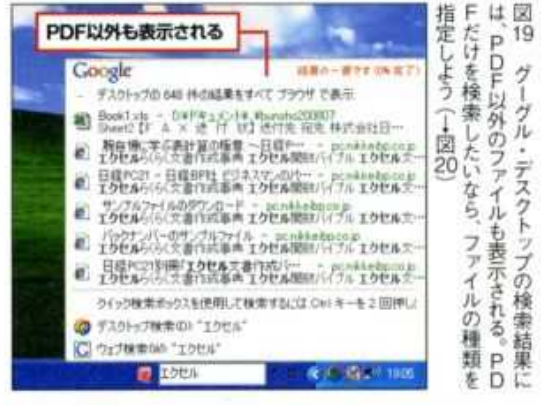


図19 グーグル・デスクトップの検索結果にはPDF以外のファイルも表示される。PDFだけを検索したいなら、ファイルの種類を指定しよう(図20)。



図20 キーワードの後ろに、半角空白に続けて「filetype:pdf」と入力する①。するとPDFだけを対象に検索が実行されるようになる②。

[注7] 図23の画面では、プレビューを開いた後なので「プレビューを非表示」になっているが、開く前は同じ場所に「プレビュー」と表示され、クリックするとプレビューが表示される。

エクセルやPDFの操作が一段と楽に！

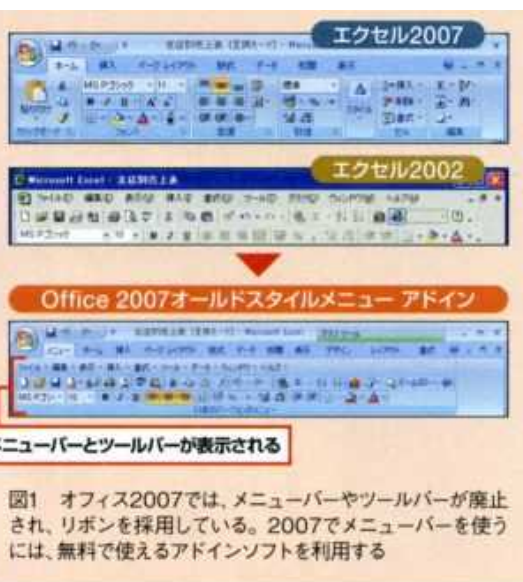


図1 オフィス2007では、メニューバーやツールバーが廃止され、リボンを採用している。2007でメニューバーを使うには、無料で使えるアドインソフトを利用する

仕事で頻繁に利用するエクセルやワード、そしてPDF文書。この章では、これらのファイルを快適に使うためのフリーソフトを7本紹介する。いずれも、簡単にパソコンへ導入でき、すぐに役立つものばかりだ。

2007のリボンは不要！メニューバーを利用する

まず、オフィス2007のユーザーにお勧めしたいのが「オフィス2007 オールドスタイルメニュー」メニューバーとツールバーが表示される

「メニュー」タブが追加された。従来のようにメニューバーを利用できる。以降は、エクセルやワード2007を起動すると、リボンの左端に「メニュー」タブが新たに追加される。ここに「ファイル」「編集」といったメニューがあり、2003と同じ感覚で操作できる（図4）。リボンを完全に消すと、さらに2003の操作性に近付けられる（図5）。

なお、このソフトを導入しても、旧バージョンと完全に同じ機能になるわけではない。例えば、印刷プレビュー画面はリボン表示のままだし、右クリックメニューも2007と変わらない。

続いて紹介するのは、エクセル



図2 サイトで「ダウンロード」をクリックして、ファイル「Office2007legacyUI_v092」を入手。ダブルクリックしてインストールする

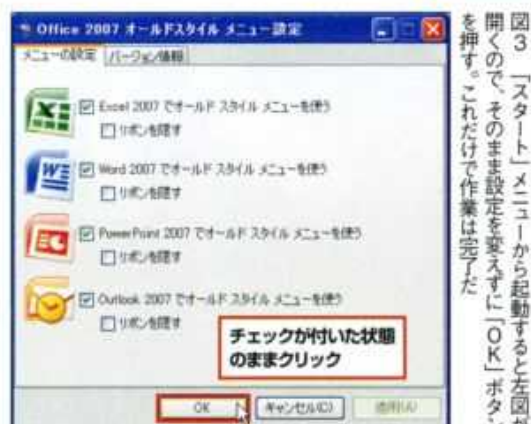


図3 「スタート」メニューから起動すると左図が開くので、そのまま設定を変更せずに「OK」ボタンを押す。これだけで作業は完了した

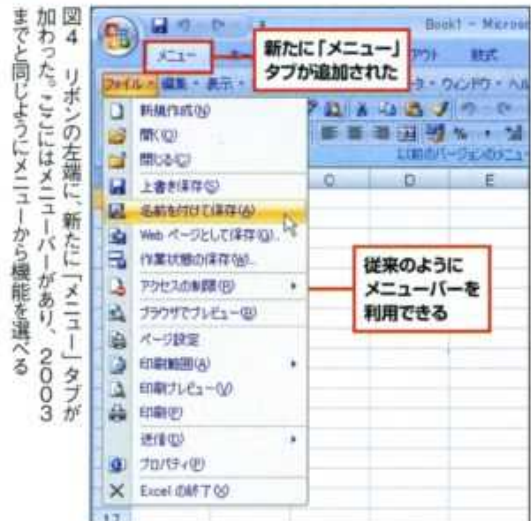


図4 リボンの左端に、新たに「メニュー」タブが追加された。ここにはメニューバーがあり、2003までと同じようにメニューから機能を選べる

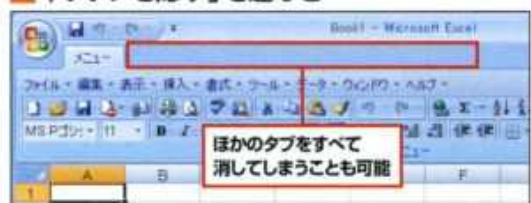


図5 図3の画面で各ソフトの「リボンを隠す」にチェックを入れると、ほかのタブが消え、「メニュー」タブだけになる

【注1】動作には「.NET Framework 2.0」以上が必要だ。マイクロソフトのサイト（<http://msdn.microsoft.com/ja-jp/netframework/>）から最新版を入手できる。ちなみに、ウィンドウズ・ビスタと7では、新たに.NET Frameworkを組み込む必要はない

PDFファイルを素早く開く



図11 画面が開いたら、文字化けしているの米国国旗マークをクリックして英語に切り替える(上図)。そして「Optimize」を押す(下図)(注3)

やワードを素早く起動するためのフリーソフト、その名も「Excel高速起動」と「ワード高速起動」だ。ソフトのアイコンをダブルクリックするだけで、通常よりワンテンポ早く立ち上がる(図6)。

これも使い方は簡単。サイトから入手したファイルを解凍して現れる「excelrun」と「wordrun」ファイルをそれぞれデスクトップ上に置くだけでよい(図7、図8)。

ブルクリックすれば、Excelやワードが高速に起動する。PDFファイルを見るために使う「アドビ・リーダー」も、フリーソフトで高速化できる(図9)。ここでは「PDFスピードアップ」と

いうソフトを利用する。これはアドビ・リーダーの起動時に読み込まれるプラグインを絞り込むほか、自動アップデート機能や読み込み画面をオフにすることでアドビ・リーダーを徹底的に

Excelやワードを高速で起動



図6 Excelやワードを少しでも早く起動するには、専用のフリーソフトを使うとよい。アイコンをダブルクリックすると、通常よりも早く立ち上がるようになる



図7 「Excel高速起動」を入手するには、ベクターのサイトで「ダウンロード」をクリック。LZH形式のファイルを手に入れたら、解凍する



図8 「ワード高速起動」も、同様にベクターのサイトからダウンロードする。LZHファイル解凍すると図6右上のアイコンが現れる

[注2] LZHファイル解凍するには、「Microsoft圧縮 (LZH形式) フォルダ (<http://support.microsoft.com/kb/896133/ja>)からダウンロード」などを利用する

[注3] この後で、アドビ・リーダーを起動するか尋ねる画面が現れるので「いいえ」をクリックする。なお、設定を

PDF文書に線や文字を書き込める



コメントや指示などを自由に書き込める

図17 PDF文書へ自由に文字や線を書き込む場合、フリーソフトを使えば事足りる。書き込んだファイルは、PDFファイルとして保存できる

PDFエクステンジ・ビューワー PDF-XChange Viewer

作者: Tracker Software Products
OS: 7/ビスタ/XP/2000

<http://www.forest.impress.co.jp/lib/office/document/pdf/pdfxchange.html>

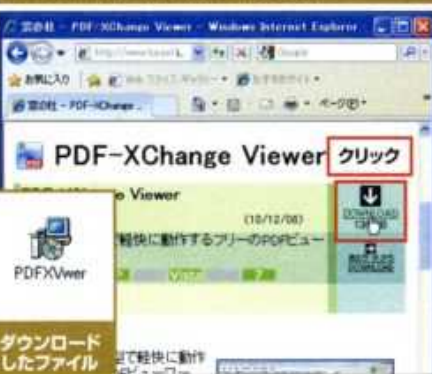


図18 サイトで「DOWNLOAD」をクリックすると、インストールが開始する

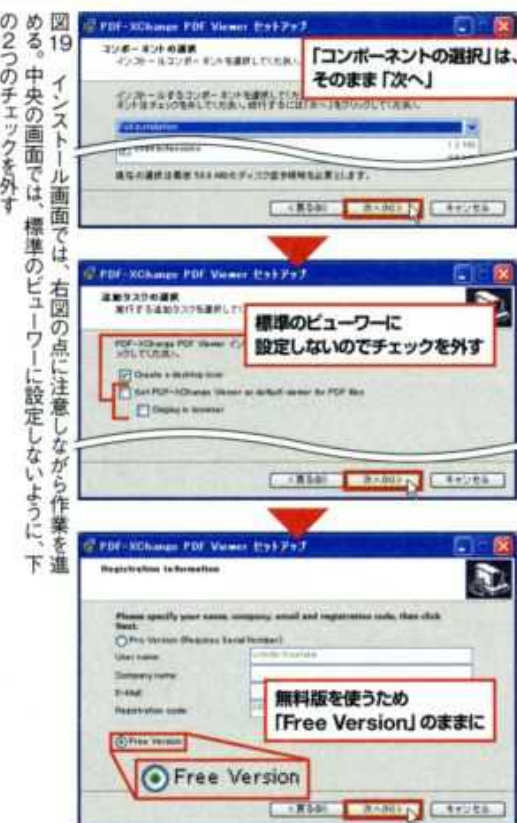


図19 インストール画面では、右側の点に注意しながら作業を進める。中央の画面では、標準のビューワーに設定しないように、下の2つのチェックを外す

軽量化するソフトだ(前ページ図10と図12)。ワンクリックですべて設定できるので、難しい操作は何も要らない。
続いて、無料で使えるPDF作成ソフトを見ていこう。お薦めは

「プリモPDF」(図13、図14)。どんなソフトの文書も、紙に印刷するのと同じ感覚で手軽にPDFに変換できる(図15)。
操作は簡単だが、気を付けないポイントがある。それは、PDF

化する際に現れる図16の画面。PDFファイルを、後で画面で見ただけなら解像度が低い「スクリーン」、印刷して使うなら解像度が高い「印刷」を選ぶ。そしてファイルの保存先がわからなくなならない

ように、しっかり指定しよう。PDF文書に文字を書き込んだり線を引いたりするのなら、フリーソフト「PDFエクステンジ・ビューワー」がベストだ(図17と図19)。無料とは思えないほど、機

さまざまなファイルをPDFに変換する

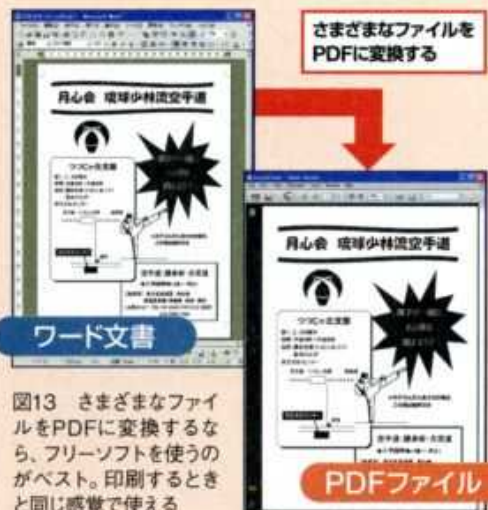


図13 さまざまなファイルをPDFに変換するのなら、フリーソフトを使うのがベスト。印刷するときと同じ感覚で使える

プリモPDF PrimoPDF

作者: エクセルソフト OS: ビスタ/XP/2000

<http://www.xlsoft.com/jp/products/primopdf/>



図14 サイトで「ダウンロードはこちら」をクリック。次に現れる画面で「ダウンロード」をクリックして実行形式のファイル入手する。それをダブルクリックしてインストールする



図16 この画面が開いたら、「スクリーン」「印刷」などからPDFの解像度を選択(1)。次にファイルの保存先を選んでから(2)、「PDFの作成」ボタンを押せばよい(3)

議事録専用のメモ帳ソフト

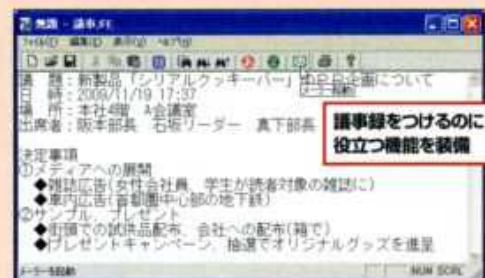


図23 議事録をつけるときに便利なフリーソフトがある。一見、普通のメモ帳ソフトだが、かゆいところに手が届く工夫が、随所に盛り込まれている



議事メモ

作者: アイデステクノロジ OS: 7/ビスタ/XP/2000

<http://www.aides-tech.com/>



GiJiMemo_V1.03
ダウンロードしたファイル

図24 サイトで「ダウンロード」をクリック(1)。次に「議事メモ」欄の「ダウンロード」をクリックして(2)、ZIP形式のファイル入手。これを解凍すると実行ファイルが現れる



図25 ダブルクリックして「表題の挿入」ボタンを押す(1)。次に「日時」など定型文が挿入される(2)



図26 議事メモの画面が、常にウィンドウの最前面に表示されるのも特徴だ。陰に隠れず、常時見られるので便利だ

最後に紹介するのは、機能を「議事録作成」に特化したメモ帳ソフト「議事メモ」(図23、図24)。一見普通のメモ帳ソフトのように見

えるが、かゆいところに手が届く工夫が随所に盛り込まれている。まず「表題」ボタンを押すと、「議題」「場所」「出席者」という文字のほか、そのときの「日時」も自動で入力される(図25)。そして、議

事録を書き込んだ後で「メール」起動ボタンを押すと、メールソフトが立ち上がり、送信メールの文面に議事メモ上の内容が貼り付けられる。そのまま、議事録をメールで送れる仕組みだ。

便利なのはそれだけではない。議事メモを起動しているときは、常にウィンドウの最前面に表示される(図26)。議事進行中にエクセルの資料などを開いても画面が隠れないので、快適に入力できる。

起動してPDF文書に書き込む

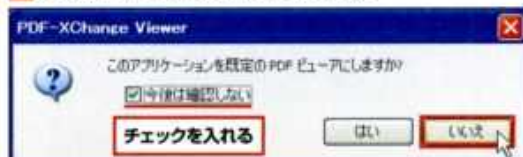


図20 最初に起動するとこの画面が現れるので、「今後は確認しない」にチェックを入れて「はい」をクリックする



図21 メイン画面。複数のPDFファイルをタブで切り替えて表示できる。開いたファイルには文字を入力できるほか、蛍光ペンや描画ツールを使って線を直接書き込める

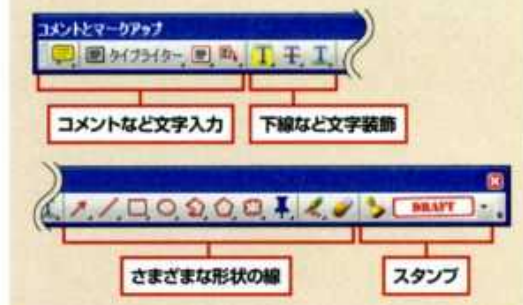


図22 PDFエクスチェンジ・ビューワの文字入力や描画ツールは、「コメントとマークアップ」ツールバーにある。スタンプ機能まで付いている

[注4] これらのツールバーが表示されていない場合は、ツールバーの余白で右クリックし、「コメントとマークアップツールバー」を選ぶ

インストール不要で気軽に使える！

フォントの書体を一覧表示



図2 パソコンには多数のフォントが入っている。どんな書体があるのかわからないと、宝の持ち腐れだ。そこで「マイ・フォントブック」で、確認しよう

マイ・フォントブック myFontbook

作者: Jeremy Taylor氏

<http://www.myfontbook.com/>



図3 マイ・フォントブックを利用するには、ウェブサイトを開いて、「Launch Viewer」ボタンをクリックしよう

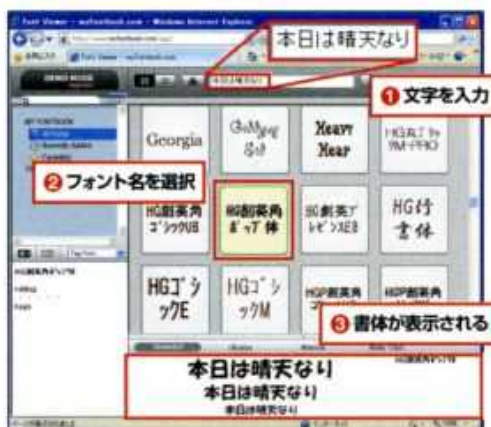


図4 画面が切り替わり、パソコン内のフォントがすべて表示される。画面上部に文字を入力して①、フォント名を選択する②。すると、入力した文字がそのフォントで表示されるので、どんな書体かすぐにわかる③

ブラウザー上でソフトが動く！

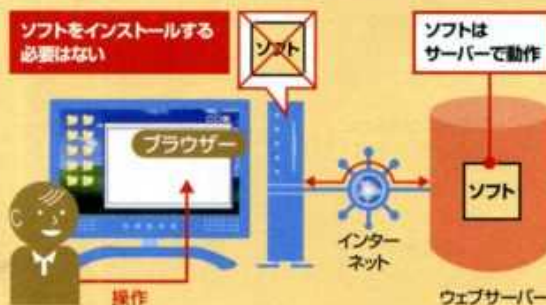


図1 ウェブアプリケーションは、パソコンにインストールせずに使えるソフトだ。インターネット上のサーバーにソフトがあるため、ブラウザーを使用してどこからでも操作できる

自分のパソコンに使用したいソフトが入っていない場合は、フリーソフトなどをインストールすればよい。しかし、それが会社や出先のパソコンだと、勝手にソフトを入れるわけにはいかない。

そんなときに便利なのが、無料で利用できるウェブアプリケーション。これは、ブラウザー上で画像編集やPDF変換など、通常のソフトと同じ機能が利用できるものだ(図1)。

ソフトはインターネットにあるサーバー上で動作するので、パソ

コンにインストールする必要がない。HDDの容量を取ったり、パソコンのレジストリが汚れたりすることがなく、気軽に利用できる。ブラウザーだけでソフトを動かせるので、どのOSでも使える。

ここでは、知っておくと必ず役立つ便利なウェブアプリを6本紹介しよう。

最初に紹介する「マイ・フォントブック」は、パソコンに入っている

大量のフォントを閲覧

コンにインストールする必要がない。HDDの容量を取ったり、パソコンのレジストリが汚れたりすることがなく、気軽に利用できる。ブラウザーだけでソフトを動かせるので、どのOSでも使える。

ここでは、知っておくと必ず役立つ便利なウェブアプリを6本紹介しよう。

最初に紹介する「マイ・フォントブック」は、パソコンに入っている

[注1] 登録を求められるので、名前、メールアドレス、パスワードを2回入力して「Create!」をクリックする。入力したメールアドレスはHTMLメールが届くので、URLをクリックすると登録完了。その後はメールアドレスとパスワードを入力して「Sign in」をクリックすると図4の画面が表示される



図8 実際にエクセル2007形式(XLSXファイル)を2003以前の形式(XLSファイル)に変換してエクセル2002で開いた。文字化けもせず、表やグラフもそのまま変換できた

変換完了をメールで通知する



図9 動画などファイルサイズが大きいと、変換に時間が掛かる。その場合は「Send a download...」にチェックを入れ、表示されるアドレス欄にメールアドレスを入力。完了後にダウンロード先のURLがメールで届く

変換完了後に
ダウンロード先の
URLがメールで届く

50種類以上の形式に対応

文書	DOC(ワード)/DOCX(ワード2007)/XLS(エクセル)/XLSX(エクセル2007)/TXT/HTML/PDFなど
プレゼン	PPT(パワーポイント)/ODP(オープンオフィス)/SWF(フラッシュムービー)
画像	BMP/JPG/GIF/PNG/TIF/PSD(フォトショップ)/EPS(フォトショップやイラストレーター)
音声	MP3/WAV/WMA/AACなど
動画	AVI/MPEG/MP4/MOV/3GP(携帯電話用)/FLV(ネット動画用)など

図10 変換できるファイル形式の一部。文書や画像、動画など50種類以上に対応している

開けないファイルを変換



図5 オフィス2007文書や「フォトショップ」のPSD形式ファイルなどは、対応ソフトがないと開けない。自分のパソコンで開ける形式に変換しよう

開けないファイル対策！
あらゆる形式に一発変換
オフィス2007や「フォトショップ」のファイルは、どのパソコンでも開けるわけではない。その



図6 サイトを開いて「Browse」ボタンをクリックし、変換したいファイルを選択(1)。すると、元ファイルの形式が自動で認識される。次に、どの形式に変換したいかを指定して(2)、「Convert」ボタンを押す(3)



図7 ファイルの変換が終了すると、ダウンロード用のURLが表示される。これをクリックして、変換済みのファイルをパソコンにダウンロードする

ここで、ウェブアプリ「コンバート・ファイルズ」を活用しよう。さまざまな形式のファイルを変換できる(図5)。
操作は簡単。サイトを開いたら、「Browse」ボタンをクリックし

て、変換したいファイルを指定する。次に、変換するファイル形式を選べばよい(図6、図7)。
実際に、エクセル2007形式のファイルを2003以前の形式に変換してみたところ、文字化け

もせず開くことができた(図8)。
ただしファイルサイズが大きい場合、変換に時間が掛かる。そんなとき、画面を開いた状態で待つのは時間の無駄だ。そこで「Send a download link...」にチェックを入れてメールアドレスを入力しよう(図9)。変換完了後にダウンロード先のURLをメールで知らせてくれる。
なお、変換できるファイルは容量が150メガバイトまで。また変換後、24時間以内にファイルをダウンロードしないと消されてしまうので注意しよう。
ちなみに、オフィス文書や画像以外にも、動画や音声、プレゼンファイルなど多数の形式に対応しているので便利だ(図10)。

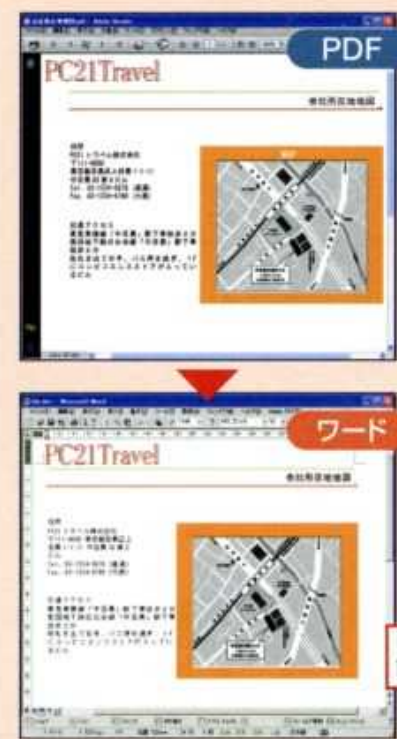


図14 PDFファイルをワード形式に変換できる。PDFをワード文書に変えれば、自由に編集可能だ。「PDF to Word」は海外サイトだが、日本語のPDFも文字化けしない

ワードに変換できる

PDF to Word

作者: Nitro PDF

<http://www.pdf2word.com/>



図15 サイトで「参照」ボタンを押し、変換したいPDFファイルを指定する(1)。「DOC」が選ばれていることを確認して(2)、メールアドレスを入力(3)。「Convert」を押すと(4)、変換済みのワード文書がメールで届く



図16 PDFをエクセルに変換したいときは、姉妹サイト「PDF to Excel」を利用しよう。操作方法はまったく同じだ

続いて、PDFを便利に扱うウェブアプリを4本紹介しよう。「PDFオンライン」を使うと、手軽にPDFを作成できる(図11、

図12)。操作は、PDFに変換したいファイルを指定して、ファイル名とメールアドレスを入力するだけ。PDFに変換されたファイルが、メールに添付されて届く(図13)。エクセルやワードはもちろん、パワーポイントやJPEG、

TIFFなど主要な形式の画像ファイルもPDFにできる。逆にPDFをワード文書に変換したいときは、「PDF to Word」が役に立つ(図14)。こちらも操作は簡単。「参照」を押して変換したいPDFファイルを指定し、

メールアドレスを入力すればよい。変換されたワード文書がメールに添付されて届く(図15)。なお、エクセル文書に変換したいときは、「PDF to Excel」を利用しよう(図16)。PDF文書に文字を記入したり、

PDFに変換されてメールで届く



図11 エクセルやワードの文書をPDFにするなら、「PDFオンライン」を利用しよう(1)。変換後、指定したメールアドレスにファイルが送られてくる(2)



図12 操作は簡単。まずウェブサイトを開き、画面左側の「PDF Online」で「PDF生成を開始」をクリックする

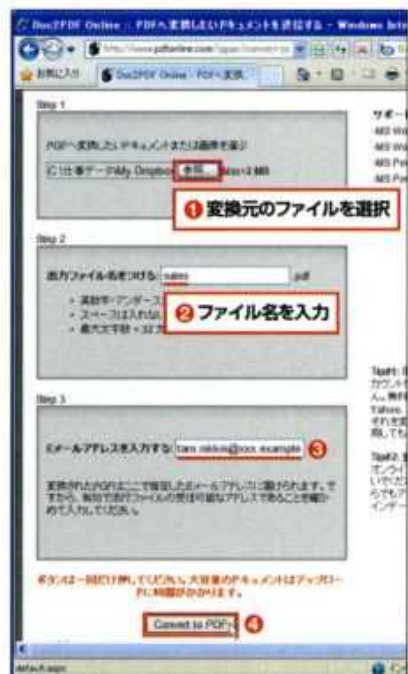


図13 「参照」ボタンを押して、PDFにしたいファイルを選択(1)。ファイル名を半角英数字で指定しよう(2)。メールアドレスを入力して(3)「Convert to PDF」をクリック(4)

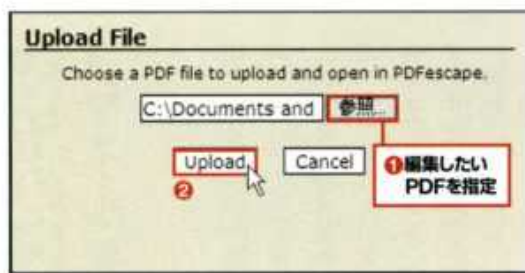


図20 図19下図の画面の上に重なって開く画面で「参照」を押し、編集したいPDFを指定(1)。「Upload」をクリックするとファイルが開く(2)

PDFへの書き込みやページの削除もOK



図17 PDFファイルに文字を書き込んだり、不要なページを削除することもできる。ウェブアプリ「PDFエスケープ」を使うと、出先でPDFファイルを編集するとき大助かりだ



図18 PDFを編集するには、まずウェブサイトを開いて「Click Here To Use...」をクリックする。ユーザー登録をしなくても利用可能だ



図19 次の画面で「Start Using Unregistered」をクリック(上図)。次の画面で「Upload PDF to PDFescape」をクリックする(下図)



図21 画面左上のツールパネルで「Text」を選ぶと(1)、文字を入力できる(2)。このとき、フォントサイズも変更可能だ(3)。入力済みのテキストをドラッグすると、位置を動かせる(4)



図22 「Checkmark」を選べば、チェックマークの入力も可能だ(1)。マウスカーソルが3の形になったら、ドラッグして大きさを調整できる[注2]



図23 編集したファイルをパソコンに保存しよう。画面左側にある緑色のボタン「Save & Download」をクリックする

不要なページを削除したいときは、「PDFエスケープ」がオススメだ。メニューは英語だが、使い方は難しくなく(図17、図18)。ユーザー登録をしなくても利用できる。ち

なみに、無料のユーザー登録をすると、編集したPDFファイルをサーバー上に保存しておけるようになる(図19)。では、操作方法を見ていこう。

編集したいPDFファイルをアップロードしたら、文字やコメントを記入する。もちろん、日本語も入力可能だ(図20、図21)。チェックマークを入れたり、線

や四角形など図形も描き込める(図22)。編集後にPDFファイルをパソコンに保存するには、「Save & Download...」ボタンをクリックすればよい(図23)。

[注2] 図21の画面左上に表示されるツールパネルで「Expand」ボタンを押すとすべてのツールが表示され、その中に「Checkmark」ボタンがある。ページを削除したり入れ替えるには、ツールパネルで「Pages」タブを選べばよい

フリーソフト を訪ねて

待望の国産PDF作成ソフト ファイル名も日本語でOK!

これまで、無料で使えるPDF作成ソフトは海外製ばかり。たとえば、メニューなどが日本語化されていても、日本語の対応は不十分だった。そのためPDF化する際に日本語の一部が文字化けしたり、ファイル名が英語になったり、使い勝手はいずれもいまひとつなものが多かった。

だが、もうそんなストレスからは解放される。2010年7月、日本人作者によるメード・イン・ジャパンのPDF作成ソフト「CubePDF」(キューブPDF)が公開された(図1)。

設定画面をはじめ、すべて日本語対応だ。デザインは洗練されていて操作しやすく、作業で戸惑うことは一切ない。快適な操作性で支持を集めて、キューブPDFは公開してからわずか3カ月で、1日のダウンロード数が1000件に上る人気ソフトになった。

**作者は阪大出身の天才。
2週間帰らず制作に没頭。**

このソフトを作ったのは、大阪府豊中市にあるソフト会社、キュー

ーブ・ソフト。2010年に起業したばかりのベンチャー企業だ。キューブPDFは起業と同時に公開した、記念すべき第1作になる。メインのプログラマーは同社取締役の津川知朗氏、28歳。ほかに、ソフトのデザイナーなど社員3人、アルバイトの学生3人でソフトを開発している。

事務所は、大阪大学の目の前にあるマンションの一室。津川氏は同大の大学院出身で、アルバイトのほとんどが大学の後輩だという取材で事務所を訪ねたところ、5〜6人ほどの若いスタッフが、さながらサークルの部室を思わせるような活気あふれる雰囲気の中、パソコンに向かっていた。

津川氏が自宅に帰るのは1〜2週間に1度というから驚きだ。ほとんどの時間を事務所で過ごし、プログラミングに没頭している。そんな彼のことを周りの仲間は「天才」と呼ぶ。プログラマーとしての腕はもちろん、アイデアをすぐさま形にできるスピード感が抜群なのだという。

それでは、キューブPDFの使

「CubePDF」

キューブ・ピーディーエフ / 対応 OS: 7/ビスタ/XP
<http://www.cube-soft.jp/cubepdf/>



作者/キューブソフト 津川知朗氏

キューブ・ソフトは大阪府豊中市にあるソフト会社。中央はプログラマーの津川氏、29歳。左はデザイナーの末次氏41歳、右は学生アルバイトの首藤氏24歳



い方を見ていこう。操作はとても簡単。エクセルなどのソフトで文書を開いたら、印刷を実行して「印刷」画面を開く(図2、図3)。ポイントは、プリンターの「名前」欄でプリンターの代わりに「CubePDF」を選ぶことだ(図4)。キューブPDFの設定画面が現れたら、「変換」ボタンを押すだけでPDFが出来上がる(図5、図6)。

キューブPDFは「元文書と同じ名前」で保存される。ここが国産ソフト、キューブPDFのありがたい点だ。海外製ソフトだと、元の文書が日本語のファイル名だと、PDF化の際にファイル名が引き継がれない。そのため、自分で手入力しなければならず、とても煩わしい。ちなみに、キューブPDFで保存場所やファイル名を変更する場合は、図5の「出力ファイ



元のファイルと同じファイル名のPDFが上がる。縦書きのレイアウトが崩れる場合は、なフォントを使わないようにしよう(注2)。

2つのPDF文書を結合する

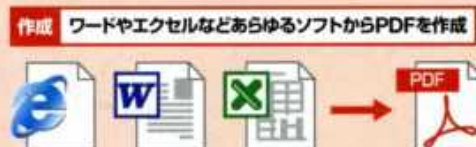


図7 PDF文書を結合する場合は、結合したい文書を開いて図4の要領でメイン画面を開く。「…」ボタンをクリックし(1)、開く画面で結合先のPDFを選択(2)。戻った画面で「末尾に結合」を指定して「変換」ボタンを押せば(4)、結合先のPDF文書の最後に追加される。

パスワードでPDFを保護



図8 PDFをパスワードで保護したり、文書内のテキストや画像のコピーを防止したりする機能もある。PDFを作成する際に、メイン画面で「セキュリティ」タブを開き、それぞれの項目にチェックを入れて指定すればよい。



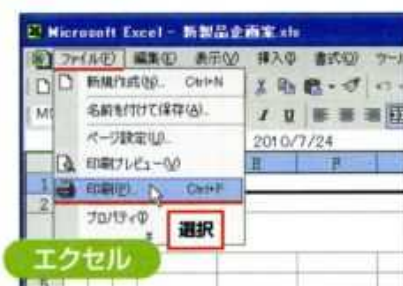
結合 別々に作成した2つのPDFを1つにまとめる



図1 キューブPDFを使えば、パソコンから印刷できるものなら何でもPDF化できる。さらに、2つのPDF文書を結合することも可能だ。



図2 サイトで「無料ダウンロード」を押してソフトを入手し、ダブルクリックしてインストールする(注1)。64ビット版は「64bit…」から入手する。



「欄」欄で変更できる。単純にPDFを作成するだけでなく、2つのPDF文書を結合する機能もある(図7)。さらに、文書全体をパスワードで保護したり、編集作業を制限したりすることも可能だ(図8)。

作者のキューブPDFに対するこだわりは、なんといっても日本人が使うのだから、徹底的に日本人向けのソフトに仕上げよう」と臨んだそう。ただ、縦書きの文字がきれいに表示されない場合があるの

が難点。目下、改良中だそう。キューブ・ソフトは現在、PDFのビューワーソフトやツールバーも無料で公開しているが、近日中に圧縮解凍ソフトも公開予定だという。その後も本業のソフト開発とは別に「3カ月に1回のペー

スで、何らかのフリーソフトを出していきたい」と意気込む。野望を聞くと、即座に「中国への進出」と答えて返ってきた。メード・イン・ジャパンの良質なソフトをどんどん海外へ送り込んでほしい。今後の活躍が楽しみだ。

[注1] 動作には「.NET Framework 2.0」以上が必要。マイクロソフトのサイト(<http://msdn.microsoft.com/ja-jp/netframework/>)から最新版を入手できる

[注2] 縦書きの場合、「MS明朝」や「MSゴシック」などの等幅フォントにすると崩れにくいという

オフィスからPDF・画像・動画まで ソフトはUSBメモリーから起動する

■ USB専用ソフトがどのパソコンでも使える理由

通常のパソコンソフト

パソコン内のファイルを参照しながら動作する



USBメモリーで運べるソフト

USBメモリー内のファイルだけを参照して動作する



■ 持ち運ぶファイルをUSB専用ソフトで閲覧・編集

閲覧用のソフト



保存したファイル

USBメモリーにファイルとソフトを入れて持ち歩けば、パソコン環境に関係なく、ファイルを閲覧できる

図1 USBメモリーでファイルを持ち運ぶのは当たり前。もう一歩進んで、ファイルを開覧するソフトを持ち運んでみよう。万が一、パソコンにソフトがなくても、USBメモリー内のソフトを使ってファイルを閲覧・編集できる

大量のデータを簡単に持ち運べるUSBメモリー。いざ、ファイルを開こうとしたら、ソフトがパソコンにインストールされていなくて、開けなかった。絶対にオフィスやPDFビューワー、写真や動画用のビューワーは入っていると...。

こうしたトラブルを避ける方法を紹介したい。それはファイルと一緒にソフトを持ち運ぶことだ。USB専用のソフトを使えば、パソコン内にソフトがインストールされていなくても、USBメモリーからソフトを起動してファイルを開ける(図1)。

エクセルなどのオフィス互換PDFビューワーを導入する

まずは、オフィス文書用のソフトを導入しよう。使うのは、フリーソフトの「オープンオフィス・オ



図6 後は文書ファイルを各互換ソフトで開くだけ。エクセル文書ならカルクヘドラッグ(上図)。ソフトが起動してファイルが開く(下図)



図7 図6のファイルを2003/2010で開いたところ。オープンオフィスのユーザーインターフェイスは2003風だ。2007/2010とは違う

編集作業後は保存形式に注意



図8 オープンオフィスではファイルの編集もできる。ただし編集したファイルは、必ず「エクセル形式」で保存するように心がけたい

「ログ・ポータブル」。マイクロソフトオフィスの互換ソフトだ。配布先から日本語版のソフトをダウンロード(図2)。インストール先にUSBメモリを指定すると、オフィス互換のソフトが登録される(図3、図4)。

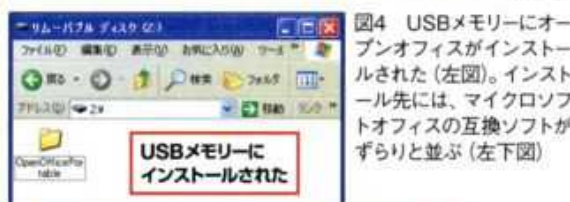
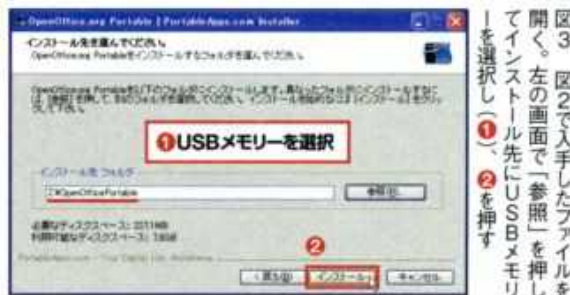
初回起動時にユーザー登録を求められるが、その後はファイルをソフトにドラッグするだけですぐにファイルの中身が表示される(図5、図6)。オープンオフィスのインターフェイスは、リボンメニューが採用されたオフィス2007以降

降ではなく、オフィス2003以前に近い。昔からオフィスを使ってきたユーザーなら、すぐに使いこなせるはずだ(図7)。オープンオフィスでは、ファイルの閲覧はもちろん、簡単な修正もできる。ただし、修正したフ

イルを保存するときは、ファイルの保存形式に注意。オープンオフィスの形式を使うとマイクロソフトオフィスで開けなくなる。必ず、マイクロソフトオフィスの各形式を選ぶこと(図8)。続いてはPDFビューワの導



図2 まずは日本語版のオープンオフィスを入手する。上記の配布サイトを開き、「Japanese」欄にある「Download」をクリック



ユーザー登録は必要なし

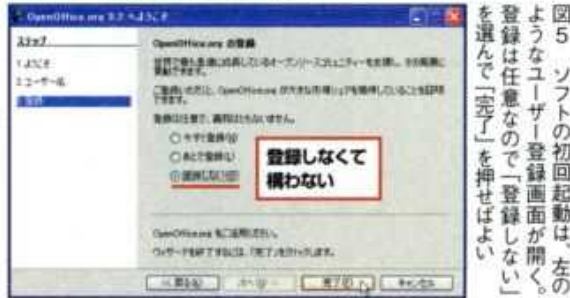




図13 「PDFエクステンジ・ビューワ」は機能の豊富さが特徴。メニューバー上から注釈ツールを呼び出せば、上のように校正作業もできる

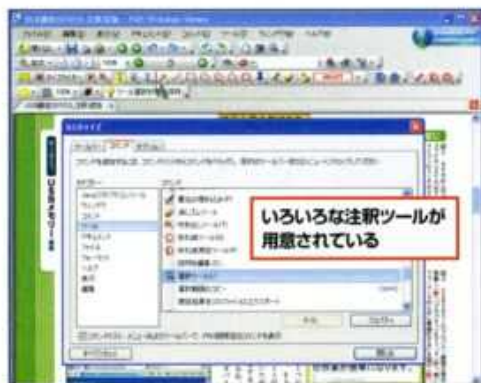


図14 メニューバーのカスタマイズもお手の物。初期状態ではメニューバーにない注釈ツールも、カスタマイズ画面からドラッグ操作で追加できる

注釈はアドビ・リーダーでも表示される



図15 注釈を加えたPDFファイルをアドビ・リーダーで表示したところ。このように加えた注釈は、ビューワーを変えてもちゃんと確認できる

写真や動画を持ち歩く方は、写真用と動画用の閲覧ソフトもUSBメモリーに入れておこう。写真や動画は、パソコンの標準機能で閲覧できる場合も多いが、専用ソフトを使った方がより快適だ。では、写真用の閲覧ソフトから見ていこう。お薦めは「エックスエヌビュー・ポータブル」。数百種類以上のファイル形式に対応した画像ビューワーのUSB版だ。まずは配布先のサイトを開き、

入。定番のアドビ・リーダーは、USBメモリーで持ち運べないため、ここでは「PDFエクステンジ・ビューワー・ポータブル」を使う。非常に高性能なフリーのPDFビューワだ。

インストール方法は図9のサイ

トから入手したファイルを解凍して、USBメモリーにコピーするだけ(図10)。後は、USBメモリーに保存したPDFファイルを、このソフトで開けばよい(図11、図12)。

いろいろな用意された注釈ツール

を使って、PDFファイルの校正作業も可能。「直線ツール」で文字に取り消し線を引いたり、「吹き出しツール」や「ノートツール」で指示を書き加えたりといった具合だ(図13、図14)。

注釈を加えたファイルの使い勝

対応ファイル形式の豊富な写真・動画ビューワーを導入

写真や動画を持ち歩く方は、写真用と動画用の閲覧ソフトもUSBメモリーに入れておこう。写真や動画は、パソコンの標準機能で閲覧できる場合も多いが、専用ソフトを使った方がより快適だ。では、写真用の閲覧ソフトから見ていこう。お薦めは「エックスエヌビュー・ポータブル」。数百種類以上のファイル形式に対応した画像ビューワーのUSB版だ。まずは配布先のサイトを開き、



図9 USBメモリー上で使えるPDFビューワーを導入する。まずは上記の配布サイトから最新版のソフトを入手。デスクトップなどにファイルを解凍する



図10 USBメモリーのルートフォルダーを開き、図9で解凍しておいたフォルダーをドラッグ。フォルダーごとUSBメモリー上にコピーする

編集したいPDFファイルを開く



USBメモリー内に入れておいたPDFファイルをソフト上にドラッグ

図11 後はUSBメモリー上に保存しておいたPDFファイルを、同じく図10でコピーした閲覧ソフトへドラッグするだけ



図12 するとビューワーソフトがUSBメモリーから起動して、お目当てのPDFファイルの中身が表示される。拡大しながら、PDFを読んでいる



図20 さまざまなファイル形式に対応した動画ビューワーを導入しよう。まずは上記のサイトで「Download...」ボタンをクリック



図16 画像ビューワーを導入しよう。まずは上記のサイトを開き、「Download」ボタンをクリック。実行ファイルを入手する



図21 入手したファイルをダブルクリックし、インストール作業へ。上の画面でインストール先にUSBメモリーのフォルダを選択(①)。「インストール」を実行する(②)



図17 入手したファイルをダブルクリックしてインストール作業へと移る。上の画面まできたらインストール先に「USBメモリー」上のフォルダを選び(①)、②を押す

動画ファイルを再生する



図22 動画の視聴はとても簡単。USBメモリーからソフトを起動して、USBメモリー内の動画ファイルをソフト画面にドラッグ(①)。すぐに動画の再生が始まる(②)

お薦めはフリーソフトの「VLCメディアプレーヤー・ポータブル」だ。こちらも、動画の再生に欠かせないさまざまなコーデックを持つ動画ビューワーのUSB版だ。

配布先からソフトを入手し、USBメモリー上にインストールする(図20、図21)。これで準備完了後は、ソフトを起動させ、再生したい動画ファイルをウインドウ上にドラッグするだけ。すぐに動画の再生が始まる(図22)。始まらない場合は、再生ボタンを押す。

最新版のソフトをダウンロードする(図16)。続いてUSBメモリー上にインストール。ウィザード上でインストール先にUSBメモリーを選ぶ(図17)。後は画面に従って作業するだけだ。

エクスエヌビュー・ポータブル上から、USBメモリー内に保存したデジタル写真を見てみよう。まずソフトを起動させ、ソフト左側のエクスプローラバーから写真の保存フォルダを選択。すると、

フォルダー内にある写真のサムネイル画像が表示される。写真を1枚選択すると、画面下側にプレビューされる(図18)。

もつと大きな画面で写真を見たければ、サムネイルをダブルクリック

USBメモリー内の画像を表示



図18 ソフト上からUSBメモリー内の写真フォルダを指定すると、写真を閲覧できる



図19 図18のサムネイルをダブルクリックすると、写真がタブで開く。メニュー内にある機能を使うとレベル補正、トリミングといった簡単な写真修整も可能だ

クすればよい。タブが開き、写真が画面いっぱいに表示される。用意されたメニューを使えば、明るさや色の調整、トリミングといった簡単な補正も可能だ(図19)。

最後は、動画用の閲覧ソフト。



このIT時代に、PDFを印刷してペンで手書きなど論外！
そんなデジタル派の人は、エクセルを使った裏ワザを覚えよう。
PDFを下絵として貼り付け、テキストボックスを配置。
単純な方法だが、書式設定も自在で結構きれいに仕上がる。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
1	■ FAX 03-5696-3370									
2	目録BIP社顧客サービスセンター 24時間受付									
3	※営業事務にご記入のうえ、ファクスでお送りください。									
4										
5										
6	未来予測レポート自動車産業2009-2025申込書									
7	※購入ご希望の数量をA列に記入ください。									
8	未来予測レポート									
9	自動車産業2009-2025									
10	価格 ¥98,000円									
11	商品番号 179460									
12	1									
13	姓 名 鳩山 直人									
14	姓 名 ハトヤマ ナオト									
15	〒100-0001 東京都港区白金0-2-11									
16	NBPビルディング5F									
17	PC21商事									
18	営業本部長									
19	03-0811-0123									
20	03-0811-0124									
21	Eメール hatoyama@example.com									
22										
23										
24										
25										
26										
27										
28										

図1 PDFの一部分を図として貼り付けてサイズを調整。その上にテキストボックスを配置して文字を入力し、書式を整える

エクセルの 蘊蓄

ウンチク

PDFへの入力、できるじゃん！

「印刷してFAXする申込書」を美しく仕上げる

「印刷して必要事項を記入し、FAXしてください」——この手の申し込みフォームが付いたPDFをよく見かける。このIT時代に印刷して手書きとは……。がまんがならず、PDFに文字を入力するユーティリティソフト^[1]を利用している方もいるだろう。

だが印刷してFAXするのが目的なら、エクセルでも手書き回避の裏ワザがある。PDFそのものの入力は無理だが、PDFを下絵として取り込み、その上にテキストボックスを配置して文字を入力するという戦法だ（図1）。

200%で図として「コピー」 エクセルで縮小すると美しい

ポイントはPDFの取り込み方法。PDFはデジカメ写真などと違って、エクセルの「挿入」メニューから「図」として貼り付けることができる。PDF中の必要な部分

をコピーして、エクセルに貼り付けるのが王道だ。

アドビ・リーダー9でスナップショットツールを使うと、PDFの特定範囲を図としてコピーできる（図2）。そうしたらエクセルで「貼り付け」し、位置やサイズを調整すればいい（図3）。

この作業ではコツが2つある。まずはアドビリーダー9の表示倍率だ。コピーされる図の解像度は表示倍率に依存するので、表示倍率が低いと絵柄が荒くなってしまう。150〜200%表示でコピーして、エクセルに貼り付けてから図を縮小するときれいに仕上がる。その際、エクセル側ではいったん印刷プレビューを実行して、用紙の境界線をシート上に表示すると図のサイズ調整がしやすい。これが2つ目のコツだ。

うまく用紙に収まったらテキストボックスを配置していこう。「図

[注1] アンテナハウス（<http://www.antenna.co.jp/>）の「書けまっせ!! PDF4」などがある
[注2] 表示倍率を上げて目的部分の全体を表示しきれなくても問題ない。スナップショットツールでドラッグ中にマウスポインターが画面の端まで来ると自動的にスクロールする

PDFの一部分を図としてエクセルに貼り付ける



図2 アドビ・リーダー9で「ツール」メニューから「選択とズーム」→「スナップショットツール」を選択。PDF中の必要な部分を囲むようにドラッグすると、その部分を図としてコピーできる[注3]。画面と同じ解像度でコピーされるので、最初に表示倍率を150~200%くらいにしておく



図3 エクセルで「貼り付け」すると図として貼り付けられる。いったん「印刷プレビュー」を実行すると、用紙の境界が点線で示されるので、1枚に収まるように図の位置やサイズを調整する。位置はドラッグして変更。8つのハンドル(周囲の白丸)のうち頂点をドラッグすると、縦横比を維持したままサイズ変更できる

テキストボックスの塗りつぶしと線を「なし」にするのがポイント

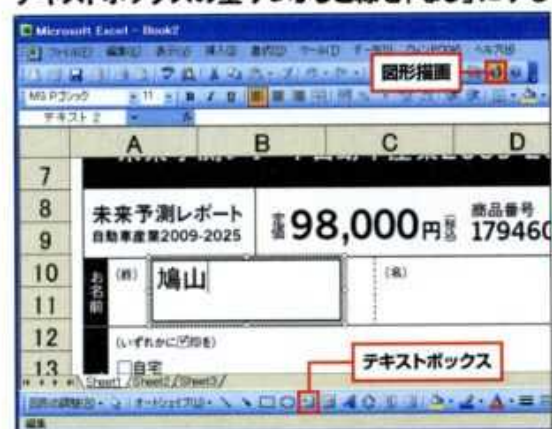


図4 「図形描画」ボタンを押して「図形描画」ツールバーを表示。テキストボックスをクリックし、下絵の上をドラッグしてテキストボックスを描く[注4]。その外枠をドラッグして位置を調整し、ハンドルをドラッグしてサイズ調整したら、文字を入力する

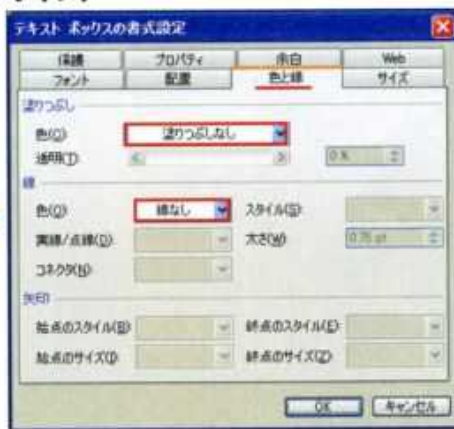


図5 テキストボックスの外枠を右クリックして「テキストボックスの書式設定」を選び、「色と線」タブで「塗りつぶしなし」と「線なし」を選ぶ。文字配置の「均等割り付け」などはこの「配置」タブで設定する[注5]



図6 フォントやサイズは「書式設定」ツールバーでも変更できる。外枠をクリックしてボックス全体を選択して設定するとよい。図1の例では「HG正楷書体」の24ポイントにした

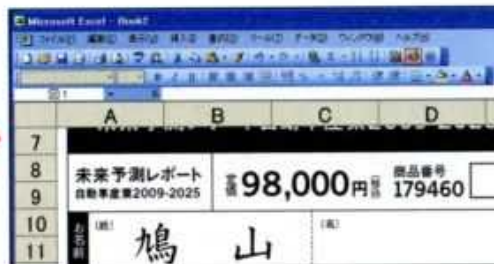


図7 シート上でボックスの選択を解除し、見栄えを確認しよう。ボックスの外枠が消えた。塗りつぶしをなしにしたので、背景にある申込書の罫線などもきちんと見える

形描画」ツールバーを使って下絵の上にテキストボックスを描き、文字を入力して、下絵に合わせて位置やサイズを調整する(図4)。

そうしたらプロパティ画面を開き、塗りつぶし(背景色)と線(外枠線)を両方ともなし(透明)にし

よう(図5)。下絵の上に文字だけを配置するときは、テキストボックスの背景色と外枠線を両方とも透明にするのがポイントだ。

見栄えに凝りたければ、このプロパティ画面で文字配置などを変更してもいい。例えば「配置」タブで「横位置」を「均等割り付け」にすると、ボックスの横幅に合わせて文字が均等に配置される。このほかに縦書きなども可能だ。

フォントや文字サイズ、文字色などは「書式設定」ツールバーでも変更できる(図6)。出来上がった

で「横位置」を「均等割り付け」にすると、ボックスの横幅に合わせて文字が均等に配置される。このほかに縦書きなども可能だ。フォントや文字サイズ、文字色などは「書式設定」ツールバーでも変更できる(図6)。出来上がった